

# 琵琶湖水產調查報告

第三卷

- 一、琵琶湖產重要魚類
- 二、移植シタル魚類
- 三、蕃殖保護
- 四、漁獲物處理法

滋賀縣水產試驗場

正誤表

頁	行	誤	正	頁	行	誤	正	頁	行	誤	正
一	一三	貫	貫	五〇	一四	達セルモノアリ	達セルモノアリ	六〇	八	推衛	推衛
一	一六	今後ヨリ	今後ヨリ	五三	八	(又「ヒツカケ」ノ下ヲハ行)		六一	一三	推衛	推衛
三	九	アブラホテ	アブラホテ	二七	八	成然魚	成然魚	六二	五	刺桂ノ内体最五ノ下ヲ脱ス	
四	五	(G'nuth)	(G'nuth)	二七	四	脂肪	脂肪	六二	九	湖上	湖上
五	三	(Hilgendorf)	(Hilgendorf)	二八	五	新宿ノ下御宿ノ二字衍		六三	二	几テ	凡テ
五	六	Latipes	Latipes	二八	二	Oparitidys	Oparitidys	六三	九	二六・五	二六・五
五	一	「イシヤシ」	「イシヤシ」	三〇	四	(G'nuther)	(G'nuther)	六六	一六	沼湖	沼湖
六	一八	わたが	わたが	三〇	六	餐食	食食	六七	一	Obseura	Obseura
八	一三	漁族	魚族	三一	一四	(Jorian.....)	(Jorian.....)	六七	一	(Schlegel)	(Schlegel)
九	一	捕食セラルモノ	捕食セラルモノ	三一	一	接息	接息	六七	一五	(G'nther)	(G'nther)
九	四	放流性	放流種	三二	四	打綱	打綱	七一	一	edigenia	edigenia
一九	四	勢多川	勢多川	三三	二	漁湖	漁湖	七二	三	Kalamouk	Kalamouk
二二	一三	La	(La)	三四	七	各種ノ下肥ノ一字衍		七四	五	六十日ニシテ	六十日ニシテ
二二	一	たるな	タルナ	三四	八	主ナルモノ	主ナルモノ	七七	四	Kelan	Kelan
三九	一五	Alongipinus	Alongipinus	三六	一七	蕃殖力	蕃殖力	八〇	五	fontinalis	fontinalis
三九	一七	Alambata	Alambata	三八	二	此外むつノ名ヲ冠スルモノ云々ハ衍		八〇	一	シヤドル	シヤドル
四〇	三	見ヤド	見ヤド	三九	一三	(Tenninck.....)	(Tenninck.....)	九九	六	築ニテ	築ニテ
四〇	六	Latipes	Latipes	四五	五	差アリ	差アリ	一〇二	五	内同上	内同上
四〇	六	うきんた	うきんた	五五	一八	其ノ下食ヲ脱ス		一〇五	七	従来	従来
四〇	九	(Ikenot)	(Ikenot)	五六	六	岸湖	湖岸	一〇六	四	「ツギリ」	「ツギリ」
四一	四	水温低ク	水温低ク	五八	一	稀小ナク	稀小ナク	一〇六	一〇	皮膚	皮膚
四四	一五	翌年四月上旬	翌年四月上旬	五九	一	漁獲	漁獲	一一〇	一	競賣スルモノトノ下ヲ脱ス	
四四	一八	小動物	小動物	六〇	三	鯿一魚	鯿一魚	一一五	一	一〇八・八	一〇八・八
四七	九	いんげん	いんげん	六〇	四	鯿一魚	鯿一魚	一一九	二〇	二〇〇・四	二〇〇・四
四九	三	(Hilgendorf)	(Hilgendorf)	六〇	六	抄モ	抄モ				

本報告ハ前卷ト共ニ琵琶湖水産調査ノ大略ヲ完了センカ爲  
メ漁業基本調査要項ニ據リ琵琶湖産魚類ノ状態ニ就キ從來  
本場ニテ調査又ハ試験シタルモノ、中ヨリ其概要ヲ摘出蒐  
録シタルモノナリ他日參考ノ資トナルコトアレハ幸之レニ  
過キス

本調査ハ業務ノ餘暇ニ行ヒタルモノナレハ其要ヲ悉サ、ル  
モノ尠ナカラス又事實ノ明確ヲ欠クモノハ省略セリ是等ハ  
試験調査ノ進行ヲ俟テ他日補訂センコトヲ期ス

大正四年三月

滋賀縣水産試驗場

一、本報告ハ主トシテ琵琶湖ニ於ケル魚類ト漁業ノ状態一斑ヲ記述シタルモノナレハ魚類學上ノ詳細ナル記述ハ全ク省畧セリ  
一、記載事項ハ從來本場ニテ行ヒタル各種ノ試験調査ニ係ルモノヨリ概要ヲ摘載シ尙調査中ニ屬シ詳ナラサルモノハ之レヲ避ケタリ然レモ大要ヲ知ランガ爲メ畧記ニ止メタルモノ少ナカラス是等ハ他日ノ補訂ヲ期スルコト、セリ

試験及調査ノ精細ハ既刊本場報告書又ハ事業完了ヲ俟テ今後刊行セントスル報告書中ニ記載スルヲ以テ凡テ省畧ス

一、魚類名稱ハ縣下ニ通有スル方言ヲ掲ケ其他ノモノハ方言トシテ示シ他ノ書目ニヨルモノハ之ヲ附記セリ

一、体長ハ吻端ヨリ尾端迄ノ全長ヲ示シ曲尺ヲ用ユ

一、水温ハ毎午前十時觀測シタル漁場又ハ飼育池ノ水面溫度ヲ示シ攝氏ニヨル

一、本文中ノ地方別ハ左ノ區分ニヨル

湖南地方 滋賀郡眞野川尻ヨリ對岸野洲川南流ヲ見通シタル線以南ノ水面

湖東地方 野洲川南流ヨリ以東野洲、蒲生、神崎、愛知、犬上、坂田、東淺井ノ沿岸ヲ經テ余吾川尻ニ至ル沿岸水面

湖西地方 眞野川以北滋賀郡、高島郡、伊香郡沿岸ヲ經テ、余吾川尻ニ至ル沿岸水面

一、産額ハ縣統計ニ據ル、月別漁獲高ノ割合ハ琵琶湖水産物販賣購買組合取扱高ニ據リ明治四十四年ヨリ大正二年ニ至ル三ヶ年平均ニヨリ算出ス

一、試験調査ニ就テハ主トシテ冷水性魚類ニ關スルモノハ技手田中林三、元技手柳本斗夫、温水性魚類ニ關スルモノハ技手内山龜五郎、同村上秀治郎、漁業ニ關スルモノハ技手細谷鯉三之レヲ擔任ス、

一、各種ノ試験及調査ニ就テハ農商務省水産局諸氏、農商務省水産講習所諸氏ノ多大ナル援助ト懇篤ナル指導ヲ享ケ、魚種ノ査定ニ就テハ理科大學講師田中茂穂氏ニ負フ處少ナカラス又各般ノ調査ニ際シ近江水産組合役員諸氏、沿岸漁業有志者諸氏ノ甚大ナル援助ヲ煩ハシタリ茲ニ記シテ感謝ノ意ヲ表ス



# 琵琶湖水産調査報告

## 第三卷

### 目次

#### 一、琵琶湖産重要魚類

種類	二
産卵及習性	七
天然餌料	九
産額及漁獲分布	九
漁場	三
こひ	九
ふな	三
ひがい	二五
はす	二六
うぐひ	三〇
あぶらけ	三三
にごひ	三一
わたか	三三

もろこノ各種	三四
ほんもろこ	三四
すどもろこ	三五
たもろこ	三六
やなぎもろこ	三七
いしもろこ	三七
むぎつぐ	三七
はね	三七
むつ	三六
かまつか	三六
ねんどす	三九
ほてノ各種	三九
ひらほて	三九
ほて	三九
びわたなど	三九
ほて	三九

いちもんじたなご	四〇
あぶらぼて	四〇
めだか	四〇
ます	四〇
いwana	四〇
あゆ	四〇
普通ノ鮎	四〇
大鮎	五一
小鮎(氷魚)	五一
うなぎ	六一
いさざ	六一
はせ	六一
いしぶし	六一
ごり	六一
どんこ	六一
かぢか	六一
なまざ	六一
ぎぎ	六一

### 三、蕃殖保護

どせう	七一
しまどせう	七一
あゆもどき	七一
めくらどせう	七一
はりうを	七一
やつめうなぎ	七一
附 糸 び	七一
すつほん	七一
二、移殖シタル魚類	七一
さけ	七一
いwana	七一
姫鱒	七一
虹鱒	七一
河鱒	七一
公魚	七一
革鯉及鏡鯉	七一
蕃殖保護	七一

#### 四、漁獲物處理法

保護制度	八
魚苗放流	九
水産製造物	九
こあゆゆ煮製法	九
鮎鮎製法	一〇〇
れいかは脂製法	一〇一
こあゆ煮乾	一〇一
ゑひ煮乾	一〇一
ひうを煮上ゲ	一〇二
ゑび煮上ゲ	一〇四
燒乾品	一〇五
總詰品	一〇四
活魚運搬	一〇五
蓄養	一〇七
販賣	一〇九

#### 附

錄	一三
---	----

#### 圖

琵琶湖深度別水温、浮游生物量	一三
水温表	一三
降水量及水位表	一四
漁具別漁獲高	一六
魚類累年漁獲高	一六
版	一三

自第一圖版 各種魚類	一三
至第八圖版 琵琶湖漁業圖	一三
第九圖版 漁期ト産卵期一覽表	一三
第十圖版	一三

## 琵琶湖水產調查報告 第三卷

琵琶湖ハ縣下ノ中部ニ位シ、周回五九里三二町面積四四平方里五ヲ有シ、縣下全面積ノ六分ノ一ヲ占メ、之レヨリ生産スル水產物ノ總額ハ大正二年ニハ六二一、七六一圓ヲ示シ、漁業者ノ數本業一、七一〇人副業五、九六六人合計七、六七六人アリ。

湖ノ魚類中從來勢多川ヨリ遡上セシモノ少ナカラサリシカ、南郷洗堰設置以來全ク魚ノ交通ヲ遮斷セラレ、棲息水族ハ凡テ湖ニ於テ生育スルモノ、外、他ヨリ來游スルモノナク、現今ニテハ大ナル養魚池ト其状態ヲ異ニセサルニ至レリ、琵琶湖ノ生産的利用ハ水族ノ蕃殖ヲ擁護シ價値アル種族ノ人爲増殖ヲ圖リ、漁業ヲ盛ンシ漁利ノ増加ヲ計ルヲ以テ主トセサルヘカラス、明治維新以來漁業ノ取締ヲ嚴ニシテ蕃殖ヲ保護シ、明治四十一年以來湖ノ水產經營ヲ計劃施行シツ、アルカ如キ皆此目的ヲ達セントスルニ外ナラス。

想フニ琵琶湖ノ如キ大ナル湖ニアリテハ棲息水族ノ多種多様ニシテ、蕃殖ノ状態亦測ラレサルモノアリ、甲種ノ漁獲減少スルモノアルモ乙種ノ漁獲ニヨリテ湖ノ生産量ハ常ニ大差ナク魚價ノ騰貴ニヨリテ産額ハ年々維持セラル、カ如キコトアリトスルモ、漁法ノ普ネク進歩セルモノアリ、靜カニ其跡ヲ顧ミレハ價値アル種族ヲ減滅シテ價値少ナキ種族ニ移リ、甲種ノ蕃殖稍恢復スル頃ニハ其保護ヲ念トセスシテ再ヒ漁獲ヲ事トシ生産益ノ減少ヲ來セルカ如キコトアラサルカ、現今湖ノ漁獲高ハ一町歩ニ對シ十二貫二百三十八匁（最近五ヶ年平均ニシテ放流魚種一貫二百六十二匁、鮎、）ヲ算シ、將來重要魚種ノ人爲増殖ヲ謀ルヘキ餘地尙多大ナルモノアルモ、増殖魚種ト天然產水族トハ又密接ナル關聯ヲ存シ、互ニ相倚リテ蕃殖成育シ、以テ湖ノ生産益ヲ増大スルモノニシテ、殊ニ湖ノ状態ハ昔日ト異ナリ、湖ニテ生育スル水族ノ外他ヨリ來游スルモノナキニ至レルヲ以テ、嘗ニ舊慣ニ馴レテ漁具ノ精巧ヲ極メ沿岸魚類ノ増獲ヲノミ事トスルハ、結局魚類ノ蕃殖ヲ亂ス結果ニ終ルモノナレハ、今後ヨリ氣候ノ順否、水温ノ高低等外界ノ變化ニ適應スル魚ノ動靜ヲ究メ漁場ノ變遷ヲ明ニシ、節制アル漁業ノ發達ヲ期シ、已往ニ於ケル水族蕃殖消長

ノ跡ヲ考ヘ、各種ノ調査研究ト相俟テ、將來生産利用上ノ參考ニ資シ以テ湖ノ水産經營ノ大成ヲ期セサルヘカラス

### 一、琵琶湖産重要魚類

#### 種類

本邦内地ニ産スル淡水魚類ノ大部分ハ本湖ニ産スト稱セラル本湖産魚類ノ種類ヲ學術的ニ研究セラレシハ一八八三年以來ノコトニシテ最近明治四十一年田中茂穂氏ハ動物學雜誌上ニ本湖産魚類目錄ヲ發表シ次テ日本産魚類目錄中其種ヲ加除セラレシモノアリ田中氏ハ現今知ラレタル種類ヲ下ノ五十六種トナセリ

#### Fam. Petromyzonidae ヤツメウナギ科

- 1. *Lampetra planeri* (Bloch)

本縣下通有方言、  
「ヤツメウナギ」

其他ノ方言  
ヤツメ、ヤツメウナギ、スナヤツメ

#### Fam. Siluridae

#### ナマズ科

- 2. *Tiobagrus vernalis* (Illig.)

「アカナマズ」

アカリコ

- 3. *Pseudorasbora parva* (Temm.)

「キギ」

キギ

- 4. *Pseudorasbora parva* (L.)

「ナマズ」

オホナマズ、イロトコナマズ、ヒナマズ、

- 5. *Pseudorasbora parva* (T. & S.)

(田中氏説多分此種ハ居ラサルベシ)

#### Fam. Cobitidae

#### ドゼウ科

- 6. *Misgonyx obtusirostris* (Cantor)

「ドゼウ」

- 7. *Cobitis bicolor* (T. & S.)

「シマドゼウ」

タカノハドゼウ

8. *Hymenophysa curta* (T. & S.)

「ウミイトゼウ」 (フエモドキ)

9. *Igfua echigonia*

「メクラドゼウ」

Fam. Cyprinidae 鱈科

10. *Pareuchiloglanis rhombica* (T. & S.)

「シロボテ」 カネヒラ

11. *Acheilognathus lanceolatus* (T. & S.)

「ボテ」 オクヤマボテ、アブラザゴ

12. *A. longipinnis* Regan

「ボテ」 ザゴ (ヒロタナヒ)

13. *A. limbata* (T. & S.)

「ボテ」 ボテザゴ、アブラザゴ

14. *A. cyanostrigata* J. & Fowler

「ボテ」 アブラザゴ、(イチモンジタナヒ)

15. *A. shinazui* Tanaka

「ボテ」 アブラボテ

16. *Leucogobio jordani* Ishikawa

17. *L. bicincta* (T. & S.)

「スエモロコ」 スエ、スエジモロコ、デメモロコ

18. *L. megastela* (T. & S.)

「ホンモロコ」 ヤナギモロコ、モロコ

19. *L. giintheri* Ishikawa

「タモロコ」 モロコ、ヤナギモロコ

20. *Zaera hilgendorfi* (Ishikawa)

「ザゴ」 アブラメ、(ムギツク)

21. *Sarcocheilichthys variegatus* (T. & S.)

「ヒガイ」 アブラヒガイ、ヒガイ

22. *Abbottina pseryna* J. & F.

(田中氏説此種ハ居ラザルベシ)

23. *Zaeco platypus* (T. & S.)

「ハエ」 ガイカハ、シラハエ、ハヤ、ハイ

24. *Z. temminckii* (T. & S.)

「ムツ」 モツ、アカムツ、カラムツ

25. *Pseudogobio esocinus* (T. & S.)

「カマツカ」

ツカ、ダシギボ

26. *Otaku rasborina* (T. & S.)

27. *Pseudorasbora parva* (T. & S.)

「インモロ」

モロコ、クチボソ、ヨシツ、キ、チヨウチンモロコ、ゼイラ

28. *Ischikania steenackeri* (Sauvage)

「ワタカ」

ワタカ

29. *Richardsonia kakuiensis* (Günth.)

「ウグヒ」

ヤナギバ、小ナルモノ

30. *I. jouyi* (Jordan & Snyder)

「アブラケ」

アブラムツ、アブラモロコ

31. *I. overulescens* (Sauvage)

(田中氏説此種ハ居ラサルベシ)

32. *I. japonicus* (Sauvage)

(同上)

33. *Menibemia steindachneri* (Sauvage)

「エンドス」

シナシヤコ、ゼツヲ

34. *Bivia zezera* (Ishikawa)

「ニコヒ」

イシカ、ニコヒ、ニコ

35. *Hemibarbus barbatus* (T. & S.)

「ハス」

36. *Opsariichthys uncirostris* (T. & S.)

「フナ」

マフナ、ゲンゴロフナ、ヘラ、ニゴロ、モウズ、ガンゾ、ヒワラ、ヒアナ

37. *Carassius auratus* (L.)

「コヒ」

マコヒ、アフニコヒ、ヤイヤ

38. *Cyprinus carpio* L.

39. *Tribolodon punctatus* Sauvage

タモロコ、ザコ

Fam. Anguillidae

ウナギ科

41. *Anguilla japonica* T. & S.

「ウナギ」

Fam. Salmonidae サケ科

42. *Oncorhynchus masou* (Brevoort) 「マス」 アメノウチ、アメ、アマヒ

43. *Salvelinus leuiscus* (Hilgendorfs) 「イワナ」 イモウチ、イモナ

44. *Plecoglossus altivelis* (T. & S.) 「アユ」 オホアユ、コアユ、コウチ、小ナルモノ

Fam. Poeciliidae メダカ科

45. *Oryzias latipes* (T. & S.) 「メダカ」 ウキンタ、ウロヒ

46. *Frankichthys vivascens* (T. & S.)

Fam. Cottidae カジカ科

47. *Cottus polka* (Günth.) 「カジカ」 フゲ、オコゼ、タケソシ

Fam. Gobiidae ハゼ科

48. *Rhinogobius similis* Gill 「インブビ」 イシモチ、イシビシロ、コリ、ウロツ

49. *Chloea castanea* (O' Shaughnessy.) 「イササ」

50. *Gnathogobius macrognathos* (Bleek.) 「ハゼ」

51. *Mogurnda obscura* (T. & S.) 「ドボコ」 インブビ、下ロキ、チノムロ

52. *Plectrois oxycephala* (T. & S.)

53. *Acanthogobius flavinanus* (T. & S.) ・(田中氏説此種ハ居ラザルニシ)

54. *Chaeturichthys hexanemus* (Bleek.) (同 上)

55. ? 「コリ」

Fam. Gasterosteidae トゲウヲ科

56. *Gasterosteus aculeatus* (Pallas)

「ハリウヲ」

ハリンコ、ハリンギヨ、カハサバ

此外明治四十二年以來移殖ヲ行ヒ現ニ蕃殖セル種類次ノ四種ニシテ何レモ「サケ」科ニ屬ス

1. *Oncorhynchus nerka* (Walb.)

カバチエツホ

(ひめさす)

2. *Salmo irideus* Gibb.

(にじさす)

3. *Salvelinus fontinalis* (Mitch.)

(かはさす)

4. *Hypomesus olidus* (Pall.)

(わかさぎ)

以上ノ内現今年額壹萬圓以上又ハ八千貫以上ノ漁獲高ニ達スルモノハ下ノ十六種トス (明治四十二年ヨリ大正二年迄五ヶ年平均額縣統計ニヨル)

あ	ゆ	一九二、二一〇貫	大あゆ	五、一一四貫	一〇、七八六圓
こ	ひ	五二、〇一二貫	小あゆ	一二二、一九六貫	五二、二四〇圓
ふ	な	六五、六〇七貫	ひうを	六四、九〇〇貫	三三、六六四圓
ま	す	二七、三五七貫	あめのうを	一一、二九一貫	二六、三〇二圓
う	なぎ	七、九三六貫		一六、〇六六貫	二六、九一三圓
は	す	二二、三八四貫			
ひ	がい	六、一五七貫			
い	さぎ	四〇、六三三貫			
た	たか	一九、八六九貫			

どぜう	二四、四九五貫	一一、五三九圓
もろこ	一一、八一三貫	一一、二一一圓
うぐひ	九、九二二貫	一〇、九一四圓
ぎぎ	一五、八〇六貫	九、七七六圓
ごり	一〇、三五四貫	一、九四〇圓
なまず	九、三三三貫	八、〇三三圓
はね	八、七八三貫	四、七二四圓
其他魚類	三三、九二一貫	二〇、七三三圓
外ニ系び	九、六〇九石	四九、〇九八圓

産卵及習性

本湖ニ産スル魚類ニハ冷水性温水性ノ兩種アリ冷水性魚ハます、あゆノ類ニシテ産卵期ハ秋季九月以後十一月ノ間ニアリ河流又ハ水清冽ナル湖邊ノ礫石底ノ處ニ産卵場ヲ求メ其他ノ魚族ハ温水性ニシテ主ニ春夏ノ交四月下旬ヨリ七月上旬ノ間ヲ産卵期トシ沿岸淺所又ハ内湖ニ來游シテ水藻ニ産卵シ或ハ春季河川ノ下流ニ來游シテ礫石底ノ處ニ産卵場ヲ求ムルモノアリ兩性魚共ニ産卵時期ニ入レハ群ヲナシテ沿岸ニ近ク來游スルハ一ナリトス孵化シタル稚魚ハ何レモ沿岸ニ止マリ又水藻ノ間ニ優游シテ無數ニ蕃殖セル浮游生物其他ノ天然餌料ニヨリ發育シ成長スルニ伴ヒ漸次離散ス如斯湖魚ノ多クハ産卵期ニ至レバ種類ニ應シテ沿岸適當ナル處ニ産床ヲ求メテ來游スルモノナレバ魚類相互間ノ生存競争ノ外其季節ニ於ケル氣候ノ變化、降水量ノ多少及回数、湖ノ水位ノ高低地勢ノ變化、漁法等蕃殖上ニ影響ヲ被ムル事項少ナカラス

まずノ如キハ産卵期ニ先チ八月下旬ヨリ十月上旬ノ間ニ降雨出水屢々アルトキハ凡テ河川ニ遡上シ放卵ノ目的ヲ達セスシテ空シク捕獲セラル、モノ多ク上流ニ達シテ産卵スルモノアルモ卵ノ孵化發育ヲ傷ヒテ完全ナル發達ヲ遂クルモノ少キノミナラズ平時河川ノ干涸セルモノ多ク魚兒ノ湖ニ入ル途ヲ阻止セラル、コト亦少ナカラズ

あゆノ産卵期ナル秋季九月中旬以後十月ノ候ニハ恰モ颱風季ニアルヲ以テ一度暴風雨ノ襲來スルコトアランカ産卵後ノ産床ハ出水ノ爲メニ流失シ沿岸ノ産床ト脆弱ナル稚魚ハ激浪ニ掃蕩セラレテ爲メニ著シク傷害ヲ受ク近ク大正元年九月下旬ノ暴風雨ニヨリ其害ヲ被リシコトアリ明治二十九年九月ノ大洪水ノ際ノ如キ以後氷魚漁業ヲ休止スルノ不得止シ事アリシト傳ヘラル又夏秋ノ候炎暑連續シテ湖ノ水温上昇シ十月ニ入りテ氣候激變シ水温ノ下降急ナル時ノ如キ往々産卵ノ時期ヲ失シテ完全ナル産卵發育ヲ見サルコトナキニアラズ

こひ、ふなノ如キ春季産卵魚ハ五月上旬以後霖雨季ノ屢々ナル出水ニ際シ沿岸内湖ニ群來シ放卵スルモノナレバ降雨回数少ナク靜穩ノ天候連續スルトキハ適當ナル産卵ノ機會ヲ得ズシテ空シク放卵スルモノ多ク俗ニ「洪水ノ翌年ハ魚(鯉科ノ魚ヲ指ス)ノ豊漁」ト唱ヘ又「魚ハ天ヨリ降ルモノ」ト稱シ春夏ノ候降雨多キ年ハ一般ニ漁業者ノ豊年ト唱ヘラル

温水性魚族ノ産卵場及稚魚ノ發育ハ沿岸水藻繁茂シ内湖ノ營養分ニ富メル處ナルヲ以テ湖ノ水位低下スルトキハ内湖ニ通スル水路ハ狭小トナリ或ハ杜絶シ水深ヲ淺クシ浸水面積ヲ小ニシ漁族ノ蕃殖場ヲ縮少スル結果ヲ來ス蓋シ止ヲ得サルコトナルモ勢多川浚渫工事ニ伴ヒ湖ノ水位ハ已往ニ比シ平均一尺六寸餘ヲ減シ沿岸漁場ノ荒廢蕃殖場所ノ減少ヲ來シタル事少ナカラズ河川ハ年々土砂ヲ流出シ或ハ沿岸埋立工事行ハレテ沿岸地勢ノ變化ヲ來シ從來ノ産卵棲息場ヲ變ズルコト亦少ナシトヒス

産卵期沿岸ニ來游スル魚族ハ漁獲容易ナルヲ以テ其性ヲ利用セル漁具漁法頗ル多ク過度ナル漁獲過酷ナル漁法亦多大ナル影響ヲ及ボスモノナリ産卵期ト漁期トノ關係別表ノ如シ

魚族ハ湖ノ至ル處ニ棲息スルモ沿岸ニ近ク棲所ヲ求ムルモノ多シ然レモ温水性魚族ノ多クハ期節ニヨリテ深淺移轉ヲナシ冬季

ニハ二十尋以上ノ深底ニ潜ムモノ小ナカラズ春季三月水温漸ク上昇シテ十二度以上ニ達スルトキハ漸次活動ヲ始メ至ル處ノ水面ニ之レヲ見ルモ晩秋ノ候ニ入り水温下降スルニ從ヒ漸次其姿ヲ没シ水温八度以下ニ降ルトキハ沿岸性ノ雜魚又ハ沿岸ニ止マルモノハ泥中或ハ水藻其他ノ物蔭ニ潜ミテ游動スルコト少ナク主要魚ノ多クハ湖岸内湖ヲ去リテ深底ニ潜ミ越冬スふな、こひはずノ稚魚、ほんもろこの如キ四十尋餘ノ深所ニ群棲ヌ又夏季八月ノ候炎暑酷シク湖岸ノ水温上昇スルトキハ(二十七度以上ヲ示スコト多シ)一時深處ニ退キ秋季ノ候再ヒ盛ンニ捕食シ冬眠ニ入ル此活動期ヲ秋季ノ盛漁期トナス

## 天然餌料

魚族ノ食餌トナルベキ天然餌料ノ豊富ナルコトハ一見接息魚類ノ極メテ肥滿セル事實ニヨリテ想像スルコトヲ得ベク浮游生物ノ調査ニ關シテハ琵琶湖水産調査報告第一卷ニ詳説セルガ如シ凡テノ孵化魚兒及ひろを、こあゆハ専ラ之レニヨリテ成長シ稚魚發育ノ時期ナル六月及十月ノ兩季ニ於テ其量最モ豊富ナルヲ見ル其他ノ水底生物又ハ岸邊性ノ生物ナル小形甲殻類、昆蟲類ノ幼蟲、介類、蠕蟲類、氣中ヨリ落下シ又ハ流下スル生物、下等藻類、水藻類ノ根又ハ嫩芽等多種多様ニシテ魚類ノ卵及仔魚其他小形ノ魚ニシテ他ノ魚類ニ捕セラル、モノ尠ナカラザルモ其種類ハ未ダ詳ニセズ就中昆蟲類ノ幼蟲ヲ捕食セルモノ最モ多シ魚類中他ノ魚類ノ食餌トシテ捕食セラル、ハひろを、こあゆニシテます、はず、うぐひノ如キ胃中常ニ之レヲ見サルコトナシ其他にび、いざざ雜魚ヲ捕食セルモノ亦尠ナカラス

## 産額及漁獲分布

縣統計ニヨル最近五ケ年間ノ漁獲高ヲ見ルニ

年	總金額					
	魚	類	蝦	類	其	
明治四十二年	四八八、三六九圓	五一七、五一九貫	三九六、六二七圓	六、八二八石	三三、〇九一圓	五八、六五一圓
同 四十三年	五四八、五五六圓	五六〇、二九貫	四五〇、七六〇圓	八、二五〇石	三七、八六三圓	五九、九三三圓
同 四十四年	五九九、六三五圓	六〇一、一六三貫	四九一、〇六九圓	六、九三一石	三八、〇五九圓	六〇、五〇七圓
大正元年	五八四、六九一圓	五四二、〇一四貫	四五七、六五八圓	九、一三五石	五一、五七〇圓	七五、四六八圓
同 二年	六二一、七六一圓	五七一、九七一貫	四七五、七四七圓	一六、九〇二石	八四、九〇七圓	六一、一〇七圓
平均	五六八、六〇三圓	五五八、五七九貫	四五四、三七二圓	九、六〇九石	四九、〇九八圓	六五、一三三圓

凡テ魚類ハ自己ノ適スル處ヲ求メテ生息スルモノナレトモ生産量ノ如何ハ漁場ノ便否漁法ノ發達如何ニヨリ分ル、モノニシテ定置漁業及地曳網類漁業ノ如キハ最モ其地勢ニ支配セラル、モノナレハ一ニ漁獲ノ多少ノミニヨリテ魚類ノ棲息多寡ヲ判シ難キモ今主ナル魚類ノ漁獲割合ヲ概算スルニ下ノ如ク畧地勢ト魚族トノ大勢ヲ窺知スルコトヲ得ベシ

湖南地方　こひ、ふなヲ主トシ量ニ於テ合計三割二分金額ニ於テ四割一分ヲ占メ其他ノ温水性魚類ハ量ニ於テ四割七分金額

ニ於テ四割八分ヲ占ムあゆハ勢多川産ノモノヲ除ケハ極メテ僅少ナリ

湖東地方　こひ、ふなトます、こあゆ及其他ノ温水性魚類ノ三者畧相同シクこひ、ふなハ量ニ於テ合計二割五分金額三割四分

分ます、こあゆハ合計量二割一分金額二割七分ヲ占メ其他ノ魚類ハ量三割九分金額三割四分ヲ占ム

湖西地方　ひうを、こあゆ最モ多ク合計四割三分金額四割ヲ占メ次テますトこひ、ふなト畧相同シクますハ量三分金額一割

一分こひ、ふなハ合計量三分金額七分ニ相當シ其他ノ魚類量一割六分金額二割八分ヲ占ムひびノ最モ多キハ主ト

シテ地曳網類及鈔網ノ漁獲ニヨルモノナリ

漁業ハ十尋線以内ノ沿岸ニテ行ハル、漁業大部分ヲ占メ沖合ニ出漁スルモノハ稀ニシテもろこ、いさざノ沖曳網ますノ小絲網及流シ釣(延繩)ノ數種ニ過キス其他ハ凡テ沿岸漁業ニ屬シ殊ニ鮎、築ノ定置漁業ハ總額ノ三割六分ヲ占メ地曳網類ハ一割二六

ヲ占ムルヲ主ナルモノトス其割合ハ畧次ノ如シ

定置漁業漁獲金額 約三割六分一厘

沿岸漁業漁獲金額 約四割九分七厘

沖合漁業漁獲金額 約一割四分二厘

各月ニ於ケル漁獲高ヲ考フルニ五、六、七、九月ニ多ク一、二月ニ少ナシ其最モ多キハ六月ニシテ二月最モ少ナク最多月ノ三分ノ一ニ過キス之レ魚ノ習性ト漁法習慣ノ然ラシムル處ナリト雖モ週年ニ亘リテ此ク漁獲ヲ見ルハ一ニ冷水温水兩性魚族ノ蕃殖セル結果ニ外ナラサルナリ即チ秋冬ノ候ニ於ケル主ナル漁獲種類ハます、ひうを、こあゆ、いさぎ、及びニシテ其他ノ温水性魚ノ大部分ハ春夏ノ候ニ漁獲セラル而シテ週年ヲ通シテ比較的漁獲高ヲ有スルモノハわたか、こひ、ひがい、及びノ數種トス今明治四十四年ヨリ大正二年ニ至ル三ケ年間琵琶湖水産物販賣組合取扱高ニヨリ魚類及蝦類ノ月別平均割合ヲ見ルニ次ノ如シ

魚類(蝦共)月別漁獲高割合

月	數量	金額	割合
一月	四・八〇	四・四〇	〔總量ノ五分ノ一内外ヲ占ムル漁獲物ハひうを、こひ、いさぎノ三種ニシテ之レニ亞クハわたか、こひ、ふなニシテ各總量ノ十五分ノ一以下トス〕
二月	四・五一	四・三三	〔總量ノ三分ノ一乃至五分ノ一ヲ占ムル漁獲物ハひうをニシテいさぎ、こひ、わたか、ふな、ぎゞハ各二十分ノ一内外ヲ占ム〕
三月	六・二三	六・九七	〔總量ノ三分ノ一乃至五分ノ一ヲ占ムル漁獲物ハひうをニシテこひ、いさぎ、うぐひ、わたか、ふな、こひハ各十分ノ一乃至二十分ノ一ヲ占ム〕
四月	六・六五	九・八二	〔總量ノ五分ノ一以上ヲ占ムル漁獲物ハこあゆ、ふなノ二種ニシテ次テこひ、うぐひ、こひ、ひがい、ぎゞハ各十分ノ一乃至五分ノ一ヲ占ムル漁獲物ハこあゆ、ふなニシテ此月ハふなノ漁獲如何ニヨリ大ナル差ヲ生ズこひ、うぐひ、はす、ぎゞ、ひがいハ各七分ノ一乃至二十分ノ一ヲ占ム〕
五月	一・七一	一〇・九七	〔總量ノ三分ノ一乃至五分ノ一ヲ占ムル漁獲物ハこあゆ、ふなニシテ此月ハふなノ漁獲如何ニヨリ大ナル差ヲ生ズこひ、うぐひ、はす、ぎゞ、ひがいハ各七分ノ一乃至二十分ノ一ヲ占ム〕
六月	一三・七二	一一・六七	〔總量ノ三分ノ一乃至五分ノ一ヲ占ムル漁獲物ハこあゆ、ふなニシテこひ、はす、こひ、うなぎ、ぎゞ、ハ各七分ノ一乃至十分ノ一ヲ占ム〕

七月	一二・五八	一・二六八	<small>〔總量ノ過半乃至二分ノ一ヲ占ムル漁獲物ハ小鮎ニシテはび、はす、ふな、わたか、ぎゞ、うなぎ、こびハ各七分ノ一乃至二十分ノ一ヲ占ム〕</small>
八月	六・二〇	七・七三	<small>〔總量ノ三分ノ一ヲ占ムル漁獲物ハこあゆニシテうなぎ、はす、わたか、ぎゞ、はび、ふなハ各十分ノ一乃至二十分ノ一ヲ占ム〕</small>
九月	一〇・〇七	九・四〇	<small>〔總量ノ過半乃至三分ノ一ヲ占ムル漁獲物ハこあゆニシテあめのうな、うなぎ、ごり、はび、いさゞ之レニ亞ク〕</small>
十月	七・五四	七・三二	<small>〔總量ノ五分ノ一内外ヲ占ムル漁獲物ハあめのうな、いさゞ、はびの三種ニシテこび、うなぎ、ひがい之レニ亞ク〕</small>
十一月	八・二三	二・一五	<small>〔總量ノ三分ノ一乃至五分ノ一ヲ占ムル漁獲物ハひうなニシテ次テあめのうな、いさゞ、はびハ各五分ノ一乃至十分ノ一ヲ占ム〕</small>
十二月	七・八六	六・九六	<small>〔總量ノ五分ノ一ヲ占ムル漁獲物ハひうなニシテ次テこび、わたかハ各十分ノ一以上ヲ占ム〕</small>

漁場

漁場ニ就テハ漁業調査ノ本文ニ詳説スル處アルヘキモ今其梗概ヲ叙述センニ本湖ノ漁業ハ古來沿岸ニ於テ發達シ今日ニ及ヘルモノ多キヲ以テ地方ニヨリ自ラ特殊ノ状態ヲ存シ魚類ノ蕃殖ト漁業發達ノ程度トハ地區ニヨリテ全ク其關係ヲ異ニセルヲ見ルモ主トシテ湖岸ノ地勢ニ支配セラル、モノ最モ多ク地勢ト漁業状態ノ異同ニヨリ之レヲ湖南地方、湖東地方、湖西地方ノ三大區ニ大別スルコトヲ得

湖南地方

滋賀郡真野川ト對岸野洲郡野洲川南流トテ見通シタル以南、南郷洗堰ニ至ル水面一圓

外湖ト状態ヲ異ニセル水面ニシテ之レヲ抱擁セル沿岸線約十二里アリ湖ノ排水部ニ接シ水深三十尺以内泥沙底ニシテ一圓水藻繁茂ス沿岸線ノ屈曲出入比較的少ナク西岸ハ比叡山麓ニ沿ヒ東岸ハ野洲栗太ノ平地ニ接ス沿岸ニハ多クノ葎生地ヲ存シ沙濱ノ連亘スルモノ少ナシ内湖ヲ形成セルモノ亦少ナク西岸ニハ堅田沼(面積約六町步)東岸ニハ常磐沼(面積約二十六町步)及赤野井附近ノ入江ヲナセル部分ヲ見ルノミ河川ノ主ナルモノハ西岸ニハ衣川(流程二里十七町)大宮川(流程二里二町)及柳川、際川、大正寺川等アリ東岸ニハ葉山川(流程三里三十五町)草津川(流程三里二十八町)狼川(二里十八町)伯母川(二里十二町)等アルモ

流末ハ常時干涸シテ漁場ヲナサズ其他細流ノ注入スルモノ少ナカラズ

湖面一圓小絲網、流シ釣、筥其他雜漁具ノ好漁場ヲナシ周年其業ニ從フモノ頗ル多シ

鯿ハ湖岸中此地方ニ盛ニシテ漁場數百五十六個所東岸ニ殊ニ多ク西岸ノ五倍ニ達ス最大ナルモノハ縦間數七百間アリ二百間以上五百五十間ノ縦間數ヲ有スルモノ二十三個所ヲ數フ

地曳網漁場ハ西岸唐崎以南大津地先ニ數ケ所ヲ存シ(明治維新前ニハ北ハ唐崎ヨリ東ハ常ノ宮迄、松本村地先ニテハ堂ノ川先常世川、小舟入濱ノ三ケ所)古來大網ヲ使用シ來リ明治四十年ニ及ビシガ明治四十一年三月以後大網ノ使用ヲ禁ジ現今堅田町地先(今堅田字柳原)ニ一ケ所ヲ存スルノミ

要スルニ此地方ハ一般ニ温水性魚族ノ生産豊富ニシテ春夏ノ候ふな、はず、うぐひ等ノ外湖ヨリ來游去來スルモノ少ナカラズ湖面一圓此種ノ産卵發育ニ適シ且好適ノ漁場ヲナス、殊ニ已往ニアリテハ春夏ノ交ふなノ來游漁獲セラル、モノ甚多ク從テ當時ノ鯿漁業ハ頗ル盛大ヲ極メ其間ニ各種ノ雜漁具ヲ使用スルモノ頗ル多ク或ハ鈔網、鯿網ノ如キ手繰網類ノ好漁場トシテ他ノ稚魚ノ濫獲盛ニ行ハレ精巧過多ナル漁業ニヨリテ蕃殖ヲ傷フコト甚シキニ至リシヨリ明治三十七年三月縣令ヲ以テ其中央ニ禁漁場ヲ設ケテ稚魚ノ發育ヲ保護シ同四十一年三月以後稚魚ノ漁獲甚シキ鈔網鯿網類ノ使用及産卵期コヒ、ふなノ母魚ヲ保護スル爲メ大網ノ使用ヲ禁止スルニ至レリ(四、蕃殖保護ノ項參照)

南郷洗堰ヨリ下流縣界ニ至ル瀬田川筋亦重要ナル漁場ヲナシ延長約三里幅員七間乃至七十五間アリ兩岸山麓相迫リテ岩崖ヲナシ激湍奔流ス下流ヨリ遡上スル鮎ヲ主トシ其他鯉、似鯉、及秋季下リ鰻ノ主ナル漁場ナリ洗堰附近ハ往時供御ノ瀬ト稱シ魚類交通ノ衝路ニ當リ好漁場ヲナセシガ現今全ク其狀況ヲ變スルニ至レリ

## 湖東地方

野洲川南流以東野洲、栗太、蒲生、神時、愛知、犬上、坂田東淺井ノ各郡沿岸ヲ經テ余吾川尻ニ至ル沿湖水面一帯

野洲川南流以東長命寺山麓字松ヶ崎ニ至ル南方沿岸ハ野洲、日野兩河ノ平地ニ接シ沿岸沙濱葭生地相連ナリテ所々灣入シ又幾

多ノ内湖ヲナセルモノ甚多ク松ヶ崎以東天野川尻ニ至ル中部沿岸ハ長命寺山麓及磯山崎ニ接セル一部分ニ岩崖ノ地ヲ見ルモ其  
 他一帯ニ沙濱連亘シ多クノ内湖此間ニ介在ス中ノ海ハ最大ナルモノニシテ周圍約五里ニ近ク優ニ一漁區ヲナス又長命寺山ト相  
 對シ沖島ノ一孤島アリ周圍一里十五町人口五百餘人ヲ有スル一漁村タリ北部沿岸ハ姉川以北ニ至リテ漸ク葭生地ヲナセル沿岸  
 ヲ加ヘ内湖入江亦少ナカラス沿岸内湖及注入セル河川ノ主ナルモノ次ノ如シ

野洲川		(流程)	八里二十町)	中洲村沼		(面積約)	三十町歩)	
南部沿岸		日野川	(同)	十	里)	兵主村沼	(同約)	二十八町歩)
		家棟川	(同)	三	里)	牧内湖	(同約)	四百町歩)
		愛知川	(同)	九	里)	南津田内湖	(同約)	百四十六町歩)
		宇曾川	(同)	五里十八町)	常水アリ	中ノ海	(同約)	二平方里)
中部沿岸		犬上川	(同)	六里〇五町)		柳川入江	(同約)	一)
		芹川	(同)	五里三十一町)		曾瀨沼	(同約)	六十二町歩)
		矢倉川	(同)	二	里)	松原内湖	(同約)	百十三町歩)
北部沿岸		天ノ川	(同)	四里二十町)	常水アリ	磯内湖	(同約)	四百五十六町歩)
		姉川	(同)	十三里十五町)		法性寺村内湖三ヶ所	(同約)	三十九町歩)
		山川	(同)	二里二十八町)	常水アリ	川道内湖	(同約)	八町歩)
		余吾川	(同)	三里二十六町)	常水アリ	早崎入江	(同約)	六町歩)
						朝日村入江二ヶ所	(同約)	三十三町歩)

沿湖ノ水底ハ傾斜緩ニシテ沿岸ヲ距ル二十町以内ノ水面ハ多クハ十尋線以内ノ漁場ニシテ姉川沖ニ最モ狭ク沖島以南日野川尻  
 沖合最モ廣ク沿岸ヲ距ル約四十町ニ達ス又沿岸ヲ距ル二里以内ノ水面ハ四十尋線以内ノ深度ヲ有シ沖島附近及姉川以北ニ於テ  
 漸ク狭ク沿岸トノ距離一里以内トス

即各河川ハ宇曾川、天ノ川、余吾川、田川ヲ除ク外平時ハ干涸スト雖モ降雨出水ニ際シテハ春秋二季遡河魚ノ遡上スルモノ多

ク其ノ下流ニハ何レモ古來漁利多大ナル筈及堰四手網漁場ヲ有ス

沿湖ノ深度其度ヲ得外湖ノ沖合漁業タル魴、鯉、及小絲網類ノ漁場ニ近ク沖島ハ殊ニ地ノ利ヲ占ム長濱以北ノ北部地方沖合ハ鱒小絲網及延繩ノ漁場タリ

雜漁具ノ漁場ハ南部沿岸及各處ノ内湖ニテ主トシテ使用セラル

地曳網漁場ハ長命寺山以北犬上郡ニ至ル中部沿岸及沖島ニ多クふな、こひ、はずノ大網漁場二十一個所ヲ存シ(沖島四ヶ所、長命寺山麓六ヶ所、愛

知郡沿岸五ヶ所、犬上郡沿岸六ヶ所)日野川尻字佐波江ニ二ヶ所アリ、こあゆ地曳網漁場ハ蒲生郡伊崎ニ一ヶ所、犬上郡沿岸五ヶ所、東淺井郡南濱

ニ二ヶ所ヲ存ス

然レモ其最モ多キヲ占ムルハ等シク魴漁場ニシテ總漁場數二百五十二個所アリ一帯ニ沿岸多ク内湖ヲ存スルヲ以テ内湖内ノ魴漁場最モ多ク中ノ海殊ニ盛ニシテ六十二個所ノ漁場ヲ占ム外湖ニ面シタル沿岸ニテハ北部地方東淺井郡沿岸ニ最モ多ク之レニ次クハ南部地方野洲郡ノ沿岸トス中部地方ノ地曳網漁場ヲ有セル地方ニハ一帯ニ少ナシ

中ノ海ハ蒲生神崎二郡ニ接シ周圍約五里面積二平方里アリ幅約一間ヲ有スル官山切通シノ水道及六丁洲、八丁洲ノ小水道(外湖ニ面シタル處ニ張網漁場アリ)ニヨリテ外湖ニ連ナリ一面ハ島村ノ水道ニヨリテ南津田内湖ニ通ス水深七尺以内ニシテ水底泥沙質ヲナシ水藻繁茂ス沿岸ハ田圃ニ接シ幾多ノ細流此中ニ注入ス殆ント外湖ヨリ獨立シタル一湖ヲナシ棲息魚ノ多クハ此中ニテ蕃殖生育スルモノナルモ亦春夏ノ交外湖ヨリ來游シ秋季再ヒ外湖ニ去ル種類少ナカラス温水性魚族ノ凡テヲ産シ發育亦良好天然ノ好漁場ヲナシ魴漁場及雜漁具ヲ使用スルモノ頗ル多シ

要スルニ此地方ハ湖ノ東岸全部ニ亘リ棲息魚種ト漁場ノ狀況トハ全般ノ漁業ニ有利ナル位置ヲ占メ漁業上ノ天恵少ナカラサルモノアリ湖岸、河川、沖合ノ漁業何レモ發達セルヲ見ル

## 湖西地方

真野川以北滋賀郡北部高島伊香兩郡沿岸ヲ經テ余吾川尻ニ至ル沿岸水面一帯

眞野川以北明神崎ニ至ル滋賀郡北部一帯ノ沿岸ハ比良山脈ノ山麓ニ沿ヒテ花崗岩質ノ白沙連亘シ此間雄松崎ノ内側ニ一個ノ内湖ヲ見ルノミ高島郡沿岸中饗庭村以南明神崎ニ至ル間ハ安曇川鴨川下流ノ平地ニ接シ沙濱葭生地相交ハリ其以北海津村ヲ經テ大崎ニ至ル間ハ沿岸一帯砂礫ノ湖漣連亘シ何レモ其間ニ内湖ヲ形成セルモノ少ナカラス大崎ヨリ余吾川尻ニ至ル伊香郡ニ瀕セル湖北沿岸ハ中央ニ葛籠尾岬ノ半島突出シテ大浦灣鹽津灣ノ二灣ヲ作シ湖涯ハ直チニ山麓ニ接シテ礫濱連ナリ灣奥ノ地ニ僅ニ泥沙底ノ葭生湖岸ヲ見ルノミ葛籠尾岬ト相對シテ湖中竹生島アリ周圍十八町沿岸岩崖ヲナス、注入河川及内湖ノ主ナルモノ次ノ如シ

滋賀郡北部沿岸

眞野川	(流程 二里三十四町)
和邇川	(同 二里二十五町)
比良川	(同 二里十八町)

小松沼

(面積約 十九町歩)

高島郡沿岸

鴨川	(同 三里三十町)
安曇川	(同 十一里十町)
石田川	(同 五里二十六町)
天川	(同 二里五町)
百瀬川	(同 二里)
知内川	(同 五里二十六町)

内海	(同約 十五町歩)
梅ノ木沼	(同約 二十二町歩)
松ノ木沼	(同約 三十二町歩)
南ノ沼	(同約 十六町歩)
中沼及北沼	(同約 )
川上村沼	(同約 十三町歩)
貫川沼	(同約 三十三町歩)
海津沼	(同約 六町歩)

湖北沿岸

大浦川	(大 川(鹽津) (流程 二里五町) 常水アリ)
大浦川	(同 二里十四町)

沼湖ノ水質ハ至ル處清冽ニシテ水底ハ一帯ニ沿岸急傾斜ヲナシ十數間ヲ距レハ泥沙底ヲナス十尋線以内ノ漁場ハ沿岸ヲ距ル十五町以内ニアリテ大溝及今津ノ沖合ニ比較的廣ク岬ヲナセル處ニ狭小ナリ及沿岸ヲ距ル二十町以内ノ水面及鹽津灣大浦灣ハ何レモ四十尋以内ノ水深ヲ有ス

此地方ニ於テ最モ盛ナルハひうを、こあゆノ地曳網漁場ニシテ此種ノ蕃殖シテ沿岸ニ來游スルモノ多ク沙礫ノ湖漣連亘シテ好漁場ヲナス即滋賀郡沿岸一帯ひうを漁場三十個所こあゆ漁場五個所アリ高島郡沿岸ニテハひうを漁場二十九個所こあゆ漁場十三個所ニシテ南端大溝町字勝野地先ニアルモノ八個所(ひうを五こあゆ三)ヲ除ク外今津以北海津ニ至ル沿岸ニ存ス鹽津灣ノ東岸片山地先ニ亦四個所ノひうを漁場アリふな、こひ、はずノ地曳網漁場ハ合計二十個所ヲ數ヘ滋賀郡沿岸ニテハ雄松崎はず漁場ハ有名ナルモノナリ高島郡沿岸ニテハ安曇川地先ノはず漁場二ヶ所ヲ除ク外今津以北ノ沿岸ニ十ヶ所ヲ存ス大浦灣東岸大浦、管浦ニ五ヶ所ノふな漁場アリ湖北地方ニ於ケル有數ナルモノナリ鹽津灣片山地先ニ亦二ヶ所ヲ存ス

之レニ次クハ魴漁場ニシテ總數百七十四個所アリ高島郡沿岸ノ内湖ニ最モ多ク外湖ニ面セル處ニテハ安曇川口地先ニ於ケル網魴漁場ヲ主トシ其他全沿岸ニ散在ス滋賀郡沿岸ニテハ和邇川、眞野川、地先附近ニ九個所ヲ存シ又湖北沿岸ニテハ鹽津灣ニ八ヶ所(内湖三外湖五)大浦灣一ヶ所ヲ見ルノミ

各河川ハ大川ヲ除ク外常時干涸スルモ降雨出水ニ際シ邇河魚ノ邇上スルモノ多ク高島郡安曇川、知内川、石田川ハ有數ナル漁場ヲナス其他築漁場ヲ有スルハ鴨川、滋賀郡和邇川、眞野川、及鹽津灣ニ注ク大川ノ四流トス百瀬川、比良川ハ傾斜急ニシテ出水ニ際シ土砂ヲ流出シ河水混濁甚シク古來魚類ノ邇上スルコトナシ

沿湖ノ沖合ニハ鮫、鯉ノ手繰網一帯ニ存シ雄松崎以北ノ沖合水面一帯亦鱒小絲網、延繩漁場タリ  
雜漁具ハ雄松崎以南及鹽津灣其他内湖ニテ使用セラル、モ雄松崎以北ノ外湖水面ニハ比較的少ナシ

いひ、鯉

Cyprinus carpio L.

方言、まこひ、(真鯉)、あふみこひ、(淡海鯉)又やまと

本湖固有ノ天然種ヲまこひト云ヒ放流性ヲあふみこひ又ハやまとト俗稱ス別ニ勞田川筋ニノミ棲息シ形態習性前兩種ノ中間ニ位スルモノアリ之レヲかはすじト呼ブ今兩者ノ体形習性ヲ比較シタル一二ヲ示サンニ

まこひ(天然種)

あふみこひ(放流種)

体高ト体長ノ比

体高一ニ對シ三、二乃至四、七六平均三、八六

体高一ニ對シ二、八二乃至三、三二平均三、一一

体量一〇〇ニ對スル肉量

四二、六〇

四五、一〇(肉量ハ絕對ニアラスシテ調理用トシテ割裁シ得ル程度ニテ比較セリ)

習性

産卵期出水ニ乘シ内湖河川ニ群來ス

常ニ沿岸ニ近ク群チナシテ游泳ス

産卵

(親魚トシテ池中ニ馴養シ易カラス物ニ恐レ産卵動作明瞭ナラス)

飼育種ト異ナラス

蓄養

(皮膚粗剛剝蝕損傷シ易シ永ク築畜養エ堪ヘス)

築畜養ニ堪ユ

まこひ、(真鯉) 放流種ニ比シ体高低ク長サ延長シ体色金色ヲ帶ブ常ニ外湖ニ棲息シ五月六月ノ頃降雨出水ニ際シ内湖入江河口ニ群來ス平時沿岸ニ散游スルコトアルモ稀薄ナリ産卵期ハ五月下旬ヨリ六月ノ間ニシテ内湖及沿岸ノ水藻ニ産卵ス孵化魚兒ハ當年末ニハ二寸乃至四寸ニ成長シ沿岸ヲ去リテ外湖ニ向フモノハ十尋以上ノ水底ニ潜ミテ群棲シ内湖ニ止マルモノハ葭生地其他物蔭ニ潜ミテ越冬ス体長一尺以上ニ達セルモノハ四年生ノモノ多シ其大ナルモノハ二尺以上ノモノアリ本湖ノ鯉ハ往昔本種ノミヲ産シタルモ冬季稚魚ノ濫獲其度ヲ失シテ著シク減退シ現今ニテハ僅カニ初夏ノ候沿岸ニ來游スルモノヲ漁獲スルニ過キス湖東地方一帯ニ産ス

漁具ハ魼ヲ主トシテ其他大網(地曳網)葭卷網、築ニテ混漁セラル既往ニアリテハ流シ釣(延繩)小糸網(刺網)打網ヲ使用シ又冬

季もろこ曳(手繰網)漬柴ニテ魚兒ノ捕獲セラレシモノ少ナカラサリシト云フ

肉色鮮紅色ヲ呈シ美味ナルモ永ク饗中ニ蓄養スルコト困難ナリ活魚販賣ヲ主トシ刺身又ハ煮付トシテ賞味セラル普通價格一貫  
 匁壹圓貳拾錢乃至壹圓五拾錢

曾テ本場ニ於テ採卵試験ヲ行ヒタルコトアリ親魚ハ池中ニ飼育シ得ルモ數年ヲ經ルモ馴致スルニ至スラ物ニ驚キ産卵動作明瞭  
 ヲ缺キ不規則ニシテ操作困難ナリ魚兒孵化發育ノ狀況ハ飼育種ニ比シテ劣ル

**あふみこひ**、(淡海鯉)又ヤマト、明治二十四年近江水産組合ニ於テ大和國郡山産ノ稚魚ヲ移植放流シタルヲ始メトシ從來俗  
 稱ヤマトト呼ヒ天然種ト區別スルニ至レリ現今ニテハ鯉漁獲高ノ大部分ヲ占ム大正二年本縣ニテ淡海鯉ト改稱ス

天然種ニ比シ体高ク肥滿シ外湖ニ産スルモノハ体色金色ヲ帶フルモ内湖産ノモノハ之ヲ缺ク沿湖至ル處ニ産スルモ湖南湖東地  
 方殊ニ多シ十尋以内ノ沿岸ニ棲息シ冬季ト雖モ温暖ノ日ニハ沿岸淺所ニ來リテ餌ヲ索ム産卵ハ五月初旬ヨリ六月ニシテ水藻繁

茂セル沿岸ニ來リテ水藻ニ産着ス(池中ニ飼育セルモノハ秋季水温十二度以下ニ下降スルトキハ捕食減少シ七度以下ニ下レハ  
 靜止シテ食ヲ索メス春季水温八度内外ヲ示シ上昇スルニ從ヒ攝餌スルニ至ル又初夏ノ候天候靜穩ニシテ水温十八度乃至二十度

ニ達スルトキハ天然産卵ヲ始メ雨後殊ニ盛ナリ)稚魚ハ沿岸及内湖ノ天然餌料豊富ナル處ニテ發育ス十一月頃ニハ体長二寸乃  
 至五六寸ニ成長シ翌年末ニハ約百六十匁内外三年末ニハ三百匁内外四年末ニハ約五百匁内外ニ成長ス現今多ク漁獲セラル、モ

ノハ体量二百匁乃至六百匁内外ノモノニシテ一貫匁乃至二貫匁ノモノ亦少ナカラス(明治四十年一月大津市地先ニテ捕獲シタ  
 ルモノハ体長三尺五寸体重六貫八百匁アリシト云フ)生後三年目ニシテ成熟ス孕卵數ハ体ノ大小ニヨリ差違アリ大約左ノ如シ

体	長	体	重	卵	數
同	一尺四寸	同	三百四十匁	同	約二十三萬粒
同	一尺六寸	同	四百五十匁	同	同四十四萬粒
同	一尺八寸	同	一貫匁	同	同六十萬粒

沿岸蘆荻水藻ノ處ニ悠游シまこひノ如ク物ニ慮セス巧ニ網中ヲ遁逸スルモ性貪食ナルヲ以テ餌ヲ以テ誘致シ打網、筌等ニテ捕獲シ又釣獲ス

活魚販賣ヲ主トシ永ク蓄養ニ堪ユ普通價格一貫匁壹圓貳拾錢乃至壹圓七拾錢

漁期ハ周年ニシテ魼ニテ漁獲スルモノ最モ多ク地曳網ハ五、六月ノ候犬上郡及沖島沿岸ニテ使用シ小糸網ハ湖南地方ニテ用ヒラルル根摺網ハ冬季間専ラ中ノ海ニテ使用シ打網ハ瀬田及北山田ニテ行ハレ舊盆以後冬季ニ亘リ水深五、六尺ノ沿岸所々ニ麥ノ煮タルモノヲ投下シ置キ日没後魚ノ集マリタル頃ヲ見計ヒ投網漁獲スルモノニシテ之レヲ「餌付ケ」ト稱ス其他葭卷網、筌、流シ釣等ニテ漁獲セラル

年産額次ノ如シ

明治二十八年	二五、七四四貫	一四、二七七圓
同 二十七年	一六、八一八貫	一八、九五三圓
同 四十二年	三八、四九四貫	四七、七九四圓
同 四十三年	四九、二四三貫	六六、六七二圓
同 四十四年	五五、四五六貫	七三、一三八圓
大正元年	六〇、七五七貫	八〇、二五七圓
同 二年	五六、一三三貫	七三、三三七圓

一 月	五・二	入	一三、九二一貫	湖南地方	四一・四
二 月	四・六	葉	二八二貫	湖東地方	五五・〇
三 月	六・三	大	九八五貫	湖西地方	三・六
四 月	一〇・〇	根摺網	三八貫		
五 月	一〇・三	小糸網	二、七九八貫		

月別漁獲高割合%

漁具別漁獲高 (大正二年)

地方別漁獲高割合%

六	月	九・六	流	七三一貫
七	月	一・三	其	三七、三五八貫
八	月	一〇・三	他	
九	月	七・五		
十	月	八・七		
十	月	七・七		
十	月	七・五		

本湖固有ノまごひノ著シク減少ヲ來シテヨリ明治二十四年近江水産組合ニ於テ大和國郡山ヨリ鯉苗ヲ購入シテ放流ヲ行ヒ以後明治三十四年ヨリ本場ニ於テ年々鯉苗ヲ養成放流シ明治四十一年以來更ニ十年計壽ヲ以テ毎年鯉苗八百萬尾放流ノ計ヲ立テ此種ノ増殖ヲ謀リテ以來年々産額ノ増加ヲ見ルニ至レリ放流魚兒ハ体長二寸乃至五寸ノモノニシテ九月十月ノ交沿岸各所ニ放流ス別ニ蕃殖ヲ保護スル爲メ縣令ヲ以テ体長八寸未滿ノモノハ漁獲販賣ヲ禁止セリ

### ふな 鮒

*Carassius auratus L.*

方言 まふな、へら、源五郎鮒、にごろ、ひわら、もうず、がんぞ、いそ、(蒲生、野洲、栗) ひぶな

形態ノ差異ニヨリ種々ノ俗稱ヲ付スルモ同一種ナリ

**まふな**、体色帶着淡黒色ニシテ体高ク他ノ種ニ比シテ稍側扁スルヲ以テひらぶなトモ稱ス五寸内外ノモノヲ俗ニへら、ト云ヒ本種ノ大ナルモノヲ普通源五郎鮒ト稱ス、体長一尺餘体重五百匁ニ達スルモノアレトモ体長一尺以内体重八十匁乃至二百匁ノモノヲ普通トス漁夫ハ産卵後ノ体瘦瘠シタル雄ヲはちを雌ヲたにはらト呼ヒ又秋季鱗血走リテ赤色ヲ呈スルモノヲ古來「紅葉鮒」ト唱フ、多クハ外湖ニ棲息ス沿岸内湖ニ棲息スルモノハへら時代ノモノ多シ

まるふな、まふなニ比シ体高低ク体色稍褐色ヲ帶ブ俗ニにごろト稱シ五寸内外ノモノヲもうざ三寸以下ノ小ナルモノ(まふなヲモ含ム)ヲがんどト總稱ス湖南地方ニテハまふなト別種ノモノトシ此種ノモノヲいをト總稱ス常ニ湖岸ニ棲息シ殊ニ内湖ニ多シ時ニ体長一尺内外体重二百匁ニ達スルモノナキニアラサルモ一般ニ体小サク体長六寸乃至八寸体重三十匁乃至八十匁ノモノヲ普通トス

ひわら、形前二者ノ中間ニアリ頭小ク体褐色ヲ帶ヒ鱗ニハ黒點散在ス体長六七寸ノモノヲ普通トシ大ナルモ一尺ニ達スルモノ稀ナリ湖岸内湖ニ棲息ス

別ニひふなト稱シ体色帶黄赤色ノモノヲ見ルコトアリ

古來其名ヲ知ラレタル源五郎鮒ト稱スルハ湖南地方ニテハ「まるふな」ノ大ナルモノヲ指ス處アリ又往古余吾湖ノ鮒ヲ稱シタルモノナリトモ傳フル處アレ共明ナラス現今一般ニ「まふな」ノ大ナルモノヲ源五郎鮒ト云フ、傳ヘ云フ源五郎鮒ノ名ハ滋賀郡堅田ノ漁夫ニ源五郎ナルモノアリ常ニ大ナル鮒ヲ漁獲シテ安土城主(或ハ天皇トモ云フ)ニ獻セシニヨルト、或ハ云フ昔時佐々木氏ノ家臣ニ錦繼源五郎ナル者アリ毎年大ナル鮒ヲ捕リ之ヲ獻シ云々(滋賀縣漁業沿革誌)鮒色赤ク血走リたるを源五郎鮒といふ(本草啓蒙)

ふなハ沿岸ニ近ク棲息シ春季三月ニ入り水温漸ク上昇スルニ從ヒ活動ヲ始メ四月下旬以後降雨出水ニ際シ沿岸ニ來游スルモノ多ク冬季水温低下ノ時期ニハ外湖ノ深所ニ去リ内湖ニ止マルモノハ水底泥中或ハ物陰ニ潜ミテ越冬ス沿岸至ル處ニ棲息スルモ湖南湖東地方殊ニ多シ性音響ニ驚キ易ク漁業者ハヨク其性ヲ利用シ地勢時期ニ應シテ漁法ヲ變ス岸邊性ノ蟲類水藻ノ根及嫩芽ヲ捕食セルヲ見ル

産卵期ハ春季四月下旬ヨリ六月下旬ノ間ニアリ鯉ニ比シ産卵期間長シ沿岸淺所ニ來游シ繁茂セル水藻ニ産卵ス此候降雨出水ノ際殊ニ盛ニシテ餌中ニ入りテ放卵スルモノ亦多シ、俗ニ「ふな」ハ雨水ヲ呑マネハ卵ヲ産マヌト稱ス卵ハ七日内外ニシテ孵化シ

魚兒ハ沿岸水藻ノ間ニ發育シ七月頃ニハ一寸内外ニ成長ス。まふなノ内湖ニ棲息スルモノハ當年末ニハ体長三寸内外翌年末ニハ体長六寸内外三年目ニハ七寸内外ニ成長ス。

まふなハ鯉ノ如ク池中ニ飼育シ採卵養成スルコトヲ得ルモ親魚ハ容易ニ池ニ馴レ糞ク物ニ驚キ易キヲ以テ産卵動作亦隱密ノ間ニ行ハレテ認メ難シ故ニ鯉ノ如ク規則的ノ操作困難ナルモ卵ハ健全ニシテ孵化良好魚兒亦壯健ニシテ飼育シ易ク成長一定シテ不同魚ヲ生スルコト甚シカラス本場飼育池ニテ飼養シタルモノ次ノ如シ

年	平均		最大		最小	
	体長	體重	体長	體重	体長	體重
生後二百日	四、一	三、〇	六、〇	二、一	二、〇	
一ケ年	四、五	四、〇	七、〇	三、〇	三、〇	
二ケ年	二、四、四	七、〇	四一、〇	五、二	一五、〇	
三ケ年	三、一、〇	八、〇	六〇、〇	五、七	一七、〇	

生後三年ニシテ生殖腺成熟ス一尾ノ孕卵數十萬粒乃至二十萬粒

周年漁獲セラル、モ盛期ハ四、五、六、七ノ四ヶ月トス此時季ニ霖雨屢至ルトキハ俗ニ「魚島」ト稱シ各地夥シキ漁獲ニ上ルモ降雨少ナキトキハ平年ノ半ハニ過キササルコトアリ

漁具ハ魼ヲ主トシ全漁獲高ノ過半ヲ占ム大網(地曳網)之レニ次キ五、六月ノ候犬上郡沿岸伊香郡大浦及沖島沿岸ニテ使用ス小糸網ハ春季ヨリ晩秋ニ亘リ各地沿岸ニテ用ヒ其他網筥、ウエ、根摺網、胴曳網、葎巻網等ニテ漁獲セラル

肉ハ外湖産ノモノハ稍鮮紅色ヲ呈シ内湖産ノモノ及小ナルモノハ白色ナリ蓄養ニ耐ヘ活魚販賣ヲ主トシ専ラ縣内ニテ需用セラ味美ニシテ鮓胎、又煮付ケトシテ用ヒラル鮓鮓ハ製品トシテ古來其名高シ、鮓ノ普通價格一貫九拾錢乃至壹圓五拾錢最近五ヶ年平均産額六五、六〇七貫金額六四、三七二圓

月	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十	月
月別漁獲高ノ割合%	二・一	二・〇	三・五	一二・六	一九・三	二一・九	二六・四	六・二	一・四	一・三	一・二	二・一
漁具別漁獲高(大正二年)	魷	三・八、三二三貫	簍	二六〇貫	大網	二、四四九貫	小糸網	六、二五九貫	其他	一四、八五〇貫		
地方別漁獲高割合%	湖南地方	二四・四	湖東地方	六三・一	湖西地方	一一・一						

ふなハ其産額第二位ヲ占メこあゆニ亞キ重要ナル種類ニシテ需用多ク棲息區域ハ全湖ニ亘リ漁獲高ノ盛衰ハ年々當業者ノ漁業經濟ニ大ナル影響ヲ與ヘ盛漁期ニ於ケル降雨ノ多少ニヨリテ漁獲ノ豊凶ヲ生スル者ナリ概シテ春夏ノ候降雨多ク湖ノ水位高キトキハ其産卵蕃殖ヲ幫助スルコト大ナルモノナルモ近時勢多川ノ浚渫後湖ノ水位低下シ湖岸内湖ノ水深ヲ減シ交通ヲ杜絶シ浸水面積削減セラレテヨリ沿岸性ノまるふなハ其漁獲ヲ減少スルニ至レルアリ又已往ニ於ケル稚魚ノ濫獲ニヨリ漁利ヲ減シ蕃殖ヲ傷ハレシコト少ナカラス現今縣令ヲ以テ五寸未滿ノ稚魚ハ捕獲販賣ヲ禁シ魷ノ簞目ハ五分以上ニ制限シ其蕃殖ヲ保護シツ、アリ

ひがい、鯉

*Sarcocheilichthys variegatus* (Temminck & Schlegel)

方言 ひがい あぶらひがい

琵琶湖産重要魚類

棲息場ニヨリ形態ニ小差アリ漁業者ハ頭丸、頭長、油鯉ノ三ニ別チ品位ヲ定ム頭丸ハ從來勢多川筋ニ棲息スルモノニ多ク頭小サク体著シク肥滿シ吻端鈍圓ヲナス鯉中ノ一等品トナス頭長ハ湖中至ル處ニ棲息スルモノニシテ体紡錘形ヲナシ吻端稍尖リ頭部長ク見ユ油鯉ハ内湖ニ棲息スルモノニ多ク体色全ク異ナリ全身帶黃暗褐色ヲ呈スルモノヲ云フ

背鰭ニハ斜ニ一條ノ黑斑ヲ有シ胸鰭ノ基根上部ニ黑點アリ体側ニハ淡黑色ノ條線アリ稚魚ニ殊ニ著シク現ハル雄魚ハ眼ニ赤色ヲ有スルモ雌魚ハ否ラス長三分内外ノ輸卵管体外ニ現ハル

常ニ十尋以内ノ清冽ナル砂礫底ノ處ヲ好ミ水底ニ近ク棲息スルモ激流ノ處又ハ沙泥底ノ沿岸内湖ニ來游棲息スルモノアリ性敏活ニシテ驚キ易ク容器内ニアリテハ器底ニ逆立群集シ池中ニアリテモ常ニ水藻中ニ隠ル湖底礫石間ニ潜在スル蟲類(俗ニいしむ)ト稱スルモノ多シ)又ハ岸邊性ノ蟲類ヲ嗜食ス食食ニシテ池中ニアリテハ蠶蛹粉ニテ飼育スルコトヲ得ルモ成長鈍ク水温五度以下ニ降ルトキハ食ヲ求メヌ春季以後餌ヲ需メテ沿岸各所ニ來游スルモ冬季ニ至レハ湖ノ深所ニ移リ湖底岩礁ノ根又ハ水藻間ニ潜ミテ移動スルコト少ナシ、勢多川下流ニ棲息スルモノハ多クハ洗堰下ニテ蕃殖シ春秋二季下流ヨリ來游スルモノ亦少ナカラスト云フ夏季酷暑ノ候及冬季ニハ下流ノ深所ニ隠ル、湖岸至ル處ニ棲息スルモ湖南湖東地方殊ニ多ク内湖ニ産スルモノハ形小ナリ沖島産、勢多川筋産ノモノ最モ著名ナリ

産卵期ハ四月中旬ヨリ六月下旬ニ亘リ勢多川地方ハ概シテ早く北方ハ稍晚ル、モノ、如シ卵ハ礫石ノ間又ハ介殼内ニ産着シ一回ニ數十粒ヲ産卵シ十數回ニ亘リテ放卵スルモノ、如シ魚兒ハ沿岸泥沙底ノ水藻間ニテ發育シ當年末ニハ早キモノハ二寸五分内外晚キハ一寸五分内外ニ成長シ翌年末ニハ体長四寸乃至五寸体重七匁乃至十二匁餘ニ達シ普通漁獲セラル、モノハ体長四寸体重七匁乃至体長六寸体量二十匁内外ニシテ生後二年乃至四年ヲ經タルモノ多シ大ナルハ体長八寸体重三十五匁ニ達スルモノアリ、生後三年ニシテ成熟シ繁殖力盛ナリ一尾ノ孕卵數一千粒乃至二千粒成熟卵ハ大ニシテ稍卵圓形ヲナシ卵徑八厘強未熟卵ハ淡綠色ヲ帶ヒ成熟スレハ帶黃色ヲ呈ス胎卵ハ一時ニ成熟セス發育ノ不同多キヲ見ル四十二年四十二年六月中旬調査シタルモ

ノハ次ノ如シ

卵徑	二、五ミ、メニシテ成熟セルモノ	一四六粒
同	二、五ミ、メ以下ニヤ未熟	一六〇粒
同	一、五ミ、メ以下	二三六粒
同	一、二ミ、メ以下	六五〇粒
同	〇、五ミ、メ以下	一一六粒
以下	?	?

卵數約	一、二〇〇粒	同	二、九ミ、メ以下	七九八粒
同	一、二〇〇粒	同	二、九ミ、メ以下	七九八粒

卵數約	一、七〇〇粒	同 <th>一、一六粒</th> <th>同 </th>	一、一六粒	同
同	一、七〇〇粒	同	一、一六粒	同

卵數約	一、二〇〇粒	同 <th>二、〇〇〇粒</th> <th>同 </th>	二、〇〇〇粒	同
同	一、二〇〇粒	同	二、〇〇〇粒	同

成然魚ノ小形ナルハ体長三寸二分卵粒約六百粒ヲ有シ成熟セルモノヲ見タルコトアリ

週年漁獲セラル、モ四月五月及九月十一月ノ間ヲ盛期トス

漁具ハ小糸網ヲ主トシ沿岸隨所ヲ漁場トスルモ秋冬ノ候ニハ十尋内外ノ深處ニ及フコトアリ沖島及滋賀郡堅田、坂田郡磯ニテ盛ニ使用ス、沿岸各所ノ魼ニ入りテ漁獲セラル、モノ亦多ク其他筌、竹筒ヲ使用ス堅出ニテハ蝦又蜆一介殻ノ付キタル儘口ヲ開キテ用ユ)ヲ餌料トシ三月乃至七月九月乃至十一月ノ間流シ釣ニテ漁獲スルモノアリ勢多川ニテハ四、五月及九、十月ヲ漁期トシ小糸網、打網ヲ使用シ又蚯蚓、いしむしヲ餌トシ竿釣ヲナス

肉ハ白色ニシテ軟ク脂肪アルモ味淡白ナリ骨硬シ蓄養ニ堪ヘ活魚販賣ヲ主トス京阪地方ニ出シ及縣内ニテ需用セラル、照焼、鹽焼トシテ費用セラル体小ナルモノハ味付クトシテ罐詰ニ製ス、價湖魚中最モ貴ク普通一貫匁參圓五拾錢乃至五圓五拾錢最近五ヶ年平均年産額六、一五七貫金額一八、五三八圓

月別	漁獲高ノ割合%	漁具別漁獲高 (大正二年)
一 月	三・八	六・〇
二 月	二・四	七・〇
三 月	五・二	一一・四
四 月	九	一
五 月	九	三、〇四一
六 月		
七 月		
八 月		
九 月		
十 月		
十一月		
十二月		

琵琶湖産重要魚類

四	月	一七・〇	十	月	一八・一
五	月	七・〇	十	月	一三・〇
六	月	一・八	十	月	七・四
			二	月	
					其
					他
					一、一六〇

鯿ハ畏クモ 先帝陛下供御ノ饌ニ上リ明治十六年宮内省ノ御用品トナリ爾來年々今ニ至ル迄献上シ御用命ノ光榮ニ浴ス明治十七年十一月勢多川産鯿二千尾ヲ新宿御宿御苑ニ移シ十九年再ヒ移シテ同時ニ日光中宮祠湖ニモ移殖ヲ行ハレタリ  
 ひがいハヌさくらばら等ト稱シ他ノ地方湖川ニ産スト云フモ体肥滿シ形大ナルモノニ至リテハ琵琶湖ノ特産ニシテ此右ニ出ツルモノナシ明治四十四年石川縣今江瀧ニ大正元年長野縣諏訪湖ニ移殖シタルニ翌年稚魚ノ繁殖ヲ見近時増殖ヲ來スニ至レリト云フ

ひがいハ世人ノ珍重スル處ニシテ其價亦貴ク湖魚中貴重ナルモノナルモ酷漁蕃殖ヲ傷フコト少ナカラス現今縣令ヲ以テ三寸未滿ノモノハ漁獲ヲ禁シ禁漁場ヲ設ケテ稚魚ヲ保護シ魷及筌ノ箕目ヲ(五分以上筌)ノモノニ制限シ其蕃殖ヲ謀レリ

はす、 鮒時

*Oposarichthys uncirostris* (Temminck & Schlegel)

方言 はす

体側扁シ口濶シ沿岸到ル處ニ棲息ス清冽ナル水ヲ好ミ中層ニアリ沙礫ノ沿岸ニ來游シ産卵期ニハ河川附近ニ集マリ出水ニ乗シ河流數町ノ間ニ遡上ス四月中旬以後水温上昇スルニ從ヒ食ヲ求メテ沿岸ニ活動シ夏季最モ盛ニシテ九月以後漸次深所ニ去ル、ヨク水面ニ飛躍ス貪食ニシテ小鮎、氷魚其他ノ小魚ヲ捕食ス

雄ハ其形大ニシテ産卵期ニ入レハ体淡紅色ヲ帶ビ腹部殊ニ赤ク口邊頰部及腎鰭ニハ大小無數ノ粒狀突起ヲ生ス成熟魚雌雄体形ノ差次ノ如シ



五 月 七・六 十 一 月  
六 月 二八・七 十 二 月

〇・五 其 他 二、二七六  
二・三

うぐひ、 鮠

*Richardsonius hakuensis* (Günther)

方言 うぐひ やなぎば (小ナルモノヲ云フ)

沿湖至ル處ニ産スルモ外湖ニ多シ清冽ナル水ヲ好ミ中層ニアリ常ニ餌ヲ追フテ移動シ貧食ニシテ周年餌ヲ索メ主トシテ氷魚、小鮎其他ノ小魚ヲ捕食ス雄ハ雌ヨリモ形小ニシテ産卵期ニ入レハ体側淡赤色ヲ帯ビ腹部赤色ヲ呈シ全身無鱗ノ微粒結節ヲ生ス成熟魚ノ普通体形ハ

雄体長 九寸五 体高一寸四五 重体四二匁〇 雌体長 一一寸三 体高二寸 体重九五匁五(卵巣ノ量二〇匁三)

産卵期ハ四月中旬ヨリ六月上旬ノ間ニシテ三月中旬頃ヨリ五月下旬迄河川ニ遡上シ河底礫石又ハ湖岸砂礫ノ處ニ産卵ス(此性ヲ利用シ晝間水深二尋内外ノ處ニ砂礫ヲ投入堆積シテ産床ヲ作り夜間魚ノ集合セル時機ヲ伺ヒ打網ヲ以テ漁獲スルコトアリ) 孵化シタル稚魚ハ湖岸水静ナル所ニ發育シ七月頃ニハ一寸五分内外トナリテ群游シ當年末ニハ四寸内外ニ成長ス五寸内外ノモノハ冬季氷魚網ニ入り又魼ニテ捕獲セラル春季多ク漁獲セラル、モノハ体長八寸乃至一尺ノモノ多シ生後三年ニシテ成熟スルモノ多ク一尾ノ孕卵數一萬粒乃至一萬五千粒(六月二十九日調査体長一尺一寸三体高二寸一体重九十五匁五卵粒一萬四千二百粒ヲ算ス)成熟卵ハ帶黃色ニシテ卵徑七厘強アリ

漁期ハ十一月乃至六月ニシテ三月四月五月ヲ盛期トス

河川ニテハ築ヲ主トシ四手網、打網ヲ用ユ姉川、安曇川、知内川ニ多シ湖ノ下流勢多川口ニ來游スルハ三月彼岸前後ヨリ五月

ノ間ニシテ産卵後日ナラズ湖ニ向テ去リ又ハ下流ニ流下ス打網ヲ以テ漁獲ス湖岸ニテハ主ニ鹹ニ入ル、小糸網ハ十一月末以後五月ノ間ニ使用スルモノニシテ湖北湖西地方ニテ行ハレ東淺井部南濱ニテ使用スルモノハ網丈ケ六尺乃至十尺アリ、其他十一月十二月ノ頃蝦ヲ餌トシ流シ釣ニテ漁獲スルコトアリ

肉白ク味淡白ナリ細刺多シ水ク蓄養ニ耐ヘス活魚又ハ鮮魚販賣トス照焼、鹽焼、煮付トシテ用ヒラル普通價格一貫弍七拾錢乃至壹圓五拾錢

最近五ヶ年平均年産額 九、九二二貫 金額一〇九一四圓

月	別	漁獲	高	割合	合%	漁具別漁獲高 (大正二年)
一	月	一・四	七	月	〇	三、五〇五
二	月	二・六	八	月	〇	二、〇三〇
三	月	二・〇	九	月	〇	二、三〇一
四	月	四二・四	十	月	〇	二、五三
五	月	一七・四	十	月	二・八	一、九五三
六	月	九・二	十	月	三・〇	

**あぶらけ** R. jouyi (Jordan & Snyder) 方言 あぶらむつ、あぶらもろこ、あぶらけト稱ス湖岸清澄ノ處ニ産シ又清冽

ナル河溝ニ殊ニ多シ鱗細小ニシテ粘滑ナリ体ニ無數ノ黒点アリ清冽ナル水中ニ群棲シ性貪食体長二寸餘時ニ四寸ニ達スルモノアリ

**ウナギ** 似鯉、鱈

Hemibarbus barbuis (Temminck & Schlegel)

方言 びんび、みん、みん、あじか

沿湖到ル處ニ産スルモ多カラス外湖ノ水底ニ棲息ノ勢多川下流ニモ産ス、産卵期ニ至レハ清冽ナル河口附近ニ來游シ又河川ニ  
遡上ス雄ハ雌ヨリモ体小サシ

産卵期ハ五月中旬ヨリ七月ノ頃ニシテ湖岸又ハ河川ノ流緩ナル砂礫底ノ處ニ産着ス多クハ夜間ニシテ水底ニ静止シ人影ヲ怖レ  
ス南郷洗堰下流ニテハ立春後七十日前後ノ頃水靜ナル處ニ徑三尺計リノ凹所ヲ作り夜間魚ヲ誘致シ打網ヲ以テ漁獲スト云フ稚  
魚ハ沿岸内湖ノ水底ニ成育シ常年末ニハ体長三寸乃至五寸ノモノヲ見ル常時湖邊内湖ニテハ五寸乃至八寸内外ノモノ多ク漁獲  
セラレ産卵期河口附近ニテ漁獲セラルモノハ体長一尺二寸体重百二十匁乃至体長一尺四寸体重二百匁内外ノモノヲ普通トス、  
大ナルモノハ体長一尺八寸体重五百匁ニ達スルモノアリ、雄ハ体長七寸四分体重二十七匁五ノモノニテ己ニ生殖腺成熟セルモ  
ノヲ見ル一尾ノ卵數五萬粒乃至十萬粒、(七月上旬調査) 体長 一七寸八 体高三寸七 体重四七二匁 卵數約 一四、〇〇〇粒 卵粒直徑六厘  
弱アリ

漁期ハ十一月ヨリ翌年六月迄ニシテ外湖ニアリテハ五月六月ヲ盛期トシ築込ニ入り又小糸網打網ヲ使用ス天ノ川、姉川、知内  
川、安曇川ハ主ナル漁場ナリ勢多川下流亦多産シ初冬ノ候ヨリ翌春ニ亘リ夜間流シ釣ニテ漁獲シ五月六月ノ候洗堰下ニ來游ス  
ルモノハ夜間打網ニテ捕獲ス

肉白ク味淡白ナルモ腐敗シ易ク俗ニ「京知ラス」ノ名アリ稍畜養ニ堪ヘ活魚又ハ鮮魚販賣トシ縣内ニテ消費セラル、洗ヒトシ  
テ費用セラレ又鹽焼、煮付ケトシテ用ユ普通價格一匁匁八拾錢乃至壹圓四拾錢

最近五ヶ年平均年産額 四、三三二員 金額 四、四九四圓

月	別	漁獲	高	割合	合	%	漁具別漁獲高 (大正二年)
一	月	四、〇	七	月	二、七	八	一、五六八
二	月	四、四	八	月	〇	八	二、四六
三	月	六、〇	九	月	二、四	小	三〇七

四	月	六・〇	十	月	二・七	流	二〇九
五	月	二〇・九	十	月	四・四	其	一、六一九
六	月	四三・八	十	月	二・七	他	

わたか、黄鯛魚

Ichikauia Steenackeri (Sauvage).

方言 わたか、わたこ

体稍側扁シ口小ナリ常ニ沿岸ニ近ク棲息シ初夏ノ候霖雨増水スルトキハ沿岸田圃ノ間ニ入り來リテ産卵シ又稻ヲ倒シ嫩芽細根ヲ食スルコトアリ冬季ニ至レハ水底ニ去ル外湖ニ産スルモノハ形大キク産卵期沿岸内湖ニ來游ス多ク水藻ノ根、幼芽、及蟲類ヲ食餌トス湖南地方及中ノ海ニ多産シ其他湖東地方ノ沿岸内湖ニ産ス

六月上旬ヨリ七月ニ亘リ沿岸水藻繁茂セル處ニ來リテ産卵シ稚魚ハ八月頃ニハ一寸内外トナリテ入ルモノ多シ當年末ニハ三寸内外ニ成長ス普通沿岸ニテ漁湖セラル、モノハ体長五寸体重十二匁乃至体長八寸体重三十五匁内外ノモノ多シ外湖ニ産スルモノハ体長一尺五寸体重二百匁ニ達スルモノ少ナカラズ生後三年ニシテ成熟スルモノ、如ク一尾孕卵數五萬粒乃至十二萬粒卵粒ハ小サク徑三厘強アリ(七月上旬調査体長一尺一寸体高二寸九分体重百四十八匁卵數約十一萬一千八百粒)

周年漁獲セラル、モ例年四月五月ニ少ナシ

漁具ハ魼ニ入ルモノ最モ多ク之レニ次クハ小糸網ニシテ周年使用ス、流シ釣ハ八月下旬ヨリ十月下旬ヲ盛期トシ主ニ外湖沿岸ニテ使用シ小麦粉ヲ蒸シ團子トシタルモノヲ餌トス、根摺網ハ中ノ海ニテ使用シ冬季鯉ト共ニ混漁ス其他打網、笠ニテ漁獲ス肉白ク味淡白ナリ細刺多シ鮮魚販賣ヲ主トシ縣内ニテ消費セラル細作りトシテ賞味セラレ又鹽焼、煮付トシテ用ヒラル普通價格一貫匁五拾錢乃至壹圓

最近五ヶ年平均年産額 一九、八六九貫 金額 一二、七九三圓

月	別	漁獲	高	割合	%
一月	九、六五	月	一、九九	九、四	八、六七五
二月	七、〇六	月	五、〇十	九、三	四、一七二
三月	六、三七	月	一四、二一	九、三	六二五
四月	二、九八	月	一〇、五十二	一四、六	五、三八六
					漁具別漁獲高(大正二年)
					網
					糸
					流
					他

もろこ類ノ各種鮒 (鮒)

通稱もろこノ名ヲ冠スル種類少ナカス左ニ主重ナルモノヲ記述ス

ほんもろこ

*Leucogobio mayedae* (Jordan & Snyder).

方言 ほんもろこ もろこ やなぎもろこ

頭小サク体肥滿ス背部ハ稍帶褐蒼白色ニシテ腹部銀白ナリ鱗薄ク短キ觸鬚一對ヲ有ス常ニ外湖ニ棲息スルモ春季三月頃ヨリ沿岸ニ近ツキ又内湖ニ入りテ止マルモノアリ冬季ハ深底三十尋内外ノ處ニ群棲ス水藻ノ細根、小蝦、昆蟲類ノ幼蟲ヲ捕食セルヲ見ル産卵期ハ四月下旬ヨリ六月ノ頃ニシテ沿岸又ハ河川、内湖ニ入り水藻中ニ産卵ス堅田附近天神川、眞野川、坂本村もろこ川等ニハ四月末日ヨリ五月ノ間出水ニ際シ遡上スルモノ多キヲ見ル一尾ノ孕卵數約二千粒乃至八千粒卵徑三厘強アリ三月末ニハ尙未熟ノモノ多シ三月三十一日調査セルモノ左ノ如シ

大形	体長	四、四 <sup>寸</sup>	体高	〇、八 <sup>寸</sup>	体重	六、四 <sup>克</sup>	孕卵數約	七、七〇〇粒	稍未熟
小形	同	三、四	同	〇、六	同	二、六	同	二、〇〇〇粒	稍未熟

普通形 同 三、九 同 〇、八 同 四、二 同 約 二、七〇〇粒 熟

發育ノ狀況明ナラス冬春ノ候漁獲セラル、モノハ体長三寸乃至四寸ノモノ多シ  
 周年漁獲セラル、モ十二月ヨリ翌年三月迄ヲ盛期トス漁具ハ鮒網(手繰網)ヲ主トシ十一月ヨリ翌年三月ニ至ル間湖西地方沖台  
 水深三、四十尋ノ處ニテ使用ス滋賀郡小松村犬上郡磯田村ニテ多ク使用ス湖岸ニテハ魷、小糸網ヲ主トシ其他雜漁具ニ入ル堅  
 田、木濱地方ニ多シ

肉美味ニシテ冬季ノモノ殊ニ賞用セラル鮮魚販賣ヲ主トスルモ味付罐詰ノ原料トナスモノ亦少ナカラス魚田、照焼トシテ用ヒ  
 ラルもろこ中最モ賞用セラル、モノニシテ一月ニハ一尾壹錢内外ニ價スルヲ例トス普通價格一貫八拾錢乃至壹圓五拾錢  
 最近平均年産額 五、三二〇貫 金額 六、四三二圓 販賣組合取扱高ニヨル)

月別漁獲高ノ割合%

一	月	六・九四	月	一七・三七	月	一・二一	月	七・七
二	月	一一・二五	月	五・七八	月	二・一	月	七・二
三	月	二四・五六	月	三・四九	月	二・八	月	一〇・一

此種ハ産額大ナラサルモ本湖特有ノモノトシテ古來賞用セラレ主要魚ノ一ニ居リもろこ中ノ優良ナル種ナルモ近時漁獲減少ノ  
 傾向アリ現今縣令ヲ以テ四月一日ヨリ八月三十一日迄鮒網ノ使用ヲ禁止セリ

### すじもろこ

*Leucogobio biwae* (Jordan & Snyder).

方言 すじもろこ、すじ、すじもろこ、でめもろこ

頭大キク眼殊ニ大ナリ背部ハ稍淡褐色ヲ帯ヒ各鱗邊ニハ褐色ヲ點シ側線鱗ニ殊ニ明ナルヲ見ル腹部白シ体側ニハ褐色圓形ノ斑

琵琶湖産重要魚類

點九個乃至十二個アリ稍長キ觸鬚一對ヲ有ス鱗薄シ常ニ外湖ノ沙底ニ棲息シ春季四月頃ヨリ沿岸ニ來游シ冬季ハ外湖十尋内外ノ水底ニ潜ム小鰓ヲ食セルモノ多シ産卵期ハ五月ヨリ七月ノ頃ニシテ沿岸ニ近キ水藻ニ着卵スト云フモ發育ノ狀況明ナラス普通漁獲セラル、モノハ体長三寸五分内外ノモノ多シ

周年漁獲セラル、モ十二月ヨリ翌年五月迄ヲ盛期トス漁具ハ小糸網ヲ主ナルモノトシ冬春ノ候沖島、滋賀郡堅田ニテ多ク使用ス其他魩ニ入り雜漁具ニテ混漁セラル肉味普通鮮魚販賣ヲ主トシ又味付罐詰ノ原料トナス串焼トシタルモノハ専ラ京都地方ニ需用セラル、普通價格一貫匁七拾錢乃至壹圓

最近平均年産額 五、〇四七貫 金額 三、六〇八圓 (販賣組合取扱高ニヨル)

月別漁獲高ノ割合%

一	月	一六・三	四	月	七・八	七	月	一・七	十	月	一〇・〇
二	月	一〇・一	五	月	一一・二	八	月	〇・六	十	月	六・二
三	月	一一・三	六	月	八・二	九	月	六・八	十	月	八・七

此種ハほんもろこニ次テ多産シ冬季漁業上ニ主要ナルモノ、一トス

## た も ろ こ

*Leucogobio guntheri* Ishikawa.

方言 たもろこ、もろこ、やなぎもろこ

沿湖至ル處ニ産シ湖岸、内湖、河溝、溜池ニ多ク普通多産種ナリ頭小サク体肥満シ体側ニハ淡黒色ノ條線アリ尾根ニ黒点ヲ有ス体長二寸内外稀ニ四寸ニ達スルモノアリ蓄殖力強ク水藻ニ産着セル他ノ魚卵ヲ害ス魩ニ入り他ノ小魚ト共ニ雜魚トシテ販賣セラル大ナルハ串焼トシテ食用トス

尙同一種屬ノモノニ

やなぎもろこ *L. jordani* Ishikawa. ラ産ス

いしもろこ

*Pseudorasbora parva.* (Temminck & Schlegel).

方言 いしもろこ、もろこ、こちほそ、よしつ、き、ぜせら(蒲生)、ちようちんもろこ

沿岸至ル處ニ産シ沿岸内湖河溝溜池ニ多シたもろこト共ニ普通多産種ナリ頭小サクシテ尖リ体淡黒色ヲ呈シ体長二寸内外大ナルモ三寸ニ達セズ蕃殖力強ク多ク舐ニ入り他ノ小魚ト共ニ雜魚トシテ販賣セラルル中ノ海ニテ多ク漁獲セラル  
此外通稱もろこノ名ヲ冠セルモノ左ノ數種ヲ産ス何レモ少ナシ

むぎつく *Zezera hilgendorfi* (Ishikawa). 方言 あぶらめ、たもろこ

はえ、 鮠

*Zacco platypus* (Temminck & Schlegel).

方言 はね、はい、しらはね、こいかは(雄)

雄ヲこいかはト云フ雌ヨリモ形大ニシテ産卵期ニ至レバ体側紅色ヲ帯ビ色彩鮮麗トナリ口邊髯多クノ疣狀突起ヲ生ス放精後ハ体黒色ヲ帯ビ著シク瘦瘠ス沿岸内湖河溝溜池至ル處ニ多産ス水面ニ近ク游泳シテ蟲類ヲ捕食シ又ハ小鰕水藻中ノ着生物蟲類ヲ食ス初冬ノ候水温十二度内外ニ下ルトキハ漸次萎ヲ没シテ水底水藻中ニ潜ミ春季水温十度以上ニ上昇スルトキハ漸次各所ニ游泳ヲ始ム體質弱ク池中ニアルモノハ水質ノ變化ニ逢フトキハ他魚ニ先チテ斃死スルヲ見ル春夏ノ交産卵シ當年末ニハ二寸内外ニ成長ス成魚ハ三寸乃至四寸ノ体長ヲ有ス蕃殖力強ク周年漁獲セラル、モ春夏ノ候最モ多シ舐ニ入り其他ノ沿岸漁具ニテ

混漁セラル鮮魚販賣ヲ主トシ串焼トシテ用ヒラレたいかばハ又鮓ニ製シ夏期土用中好ンデ用ヒラル、普通價格一貫匁七拾錢内

最近五ヶ年平均年産額 八、七八三貫 金額 四、七二四圓

月別漁獲高ノ割合%

一	月	三〇・四	月	一一・七	月	二〇・三	月	三・六
二	月	四・九	月	九・九	月	一八・二	月	三・六
三	月	六・三	月	一一・五	月	四・〇	月	三・〇

むつ *N. temminchi* (Temminck & Schlegel). 方言 むつ、かわむつ、あかむつ、トモ稱ス湖沼、河溝至ル處ニ産ス湖ニ

棲息スルモノハ体稍細長ナルモ沼河溝ニ棲息スルモノハ体肥滿シ稍褐色ヲ帶ブ殊ニ五、六月ノ頃産卵期ニ入レハ赭色ヲ加ヘ一見別種ノ觀ヲナス体長三寸乃至五寸ニ成長ス鰻其他ノ沿岸魚具ニ入りテ混漁セラル、モ多カラス他ノ小魚ト共ニ雜魚トシテ販賣セラル

此外むつノ名ヲ冠スルモノニ左ノ種ヲ産スト云フ

### かまつか

*Pseudogobio esocinus* (Temminck & Schlegel).

方言 かまつか、つか、だんぎほ

沿岸至ル處ニ産ス沿岸五尋以内ノ沙底ニ棲息シ湖東地方ノ外湖ニ多シ常ニ湖底ニアリ胃中細沙ニ充タサレ胡麻大ノ仔蛻ヲ見ルコトアリ五月ヨリ七月ノ間ニ沿岸ノ沙底ニ産卵シ魚兒ハ當年末ニハ二寸内外ニ成長セルヲ見ル普通沿岸ニテ漁獲セラル、モノハ体長三寸乃至六寸ノモノ多ク、大ナルモノハ体長八寸八分ニ達スルモノアリ一尾ノ孕卵數約一萬粒乃至二萬粒(体長六寸四

分体高一寸一五体重十八匁孕卵數約二萬三千粒) 卵ハ小ニシテ徑三厘強アリ

漁期ハ四、五、六、及九、十ノ春秋二季ヲ主トシ一、二月ノ頃ニハ殆ントナシ 魴ニ入ルモノ多ク次テ小糸網トス  
肉白ク味淡白鮮魚販賣ヲ主トス 普通價格一貫匁六拾錢内外

最近平均年額産 三、六二〇貫 金額 一、八〇二圓 (販賣組合取扱高ニヨル)

### えんどす

*Bivia zezera* (Ishikawa). 方言 へんどす、せせら、じやじやりコト稱ス外湖十尋内外ノ水底ニ棲息シ五、

六月頃産卵ノ爲メ沿岸ニ近ク來游ス 体長二寸内外ニ過キス大ナルモノ二寸五分以上ノモノ稀ナリ 魴網ニテ混漁セラル、モ其量少  
ナク味可ナラス

## ぼてノ各種

此類ヲ總稱シテ方言ぼて、ごこ、ぼてごこト云ケ 沿岸内湖河溝至ル處ニ多産シ 性貪食 魴ニ入ルモノ多ク其他ノ沿岸漁具ニテ混  
漁セラル味可ナラス食用トスルモノ少ナク 養鶏ノ餌料トシ又乾燥シテ肥料トス左ノ數種ヲ産ス

### ひらぼて

*Paracheilognathus rhombus* (Temminck & Schlegel). 方言 ひらぼて、かねひらト稱ス 体長三寸内外此類中

ノ大ナルモノニシテ外湖ノ沿岸ニ棲息シ湖北地方及堅田附近ニ多シ

### ぼて

*Acheilognathus lanceolatus* (Temminck & Schlegel). 方言 いしぼて、ねくまぼて、あふらごこト稱シ至ル處ニ多産

スル普通種ナリ 背部ニ多クノ黒點ヲ有スルモノアリ 普通体長二寸五分内外ニシテ大ナルモノハ稀ニ四寸ニ達スルモノアリ

### びわたなご

(田中氏魚類目錄ノ名稱ニヨル) *A. longipinnis* Regan. 外湖沿岸ニ棲息スルモノ多ク堅田附近ニ多シ普

通体長二寸五分内外ニ成長ス

### ぼて

*A. Tanihata* (Temminck & Schlegel). 方言 あふらごこト云フ内湖河溝ニ多産スル普通種ニシテ体小サク 体長一寸五

分内外ニ成長ス

いちもんじたなご (田中氏魚類目録ノ名稱ニヨル) A. cyanostigma Jordan & Fowler 内湖河溝ニ見ルコト少ナシ

あぶらぼて A. Shimazui Tanaka 湖岸河溝ニ棲息ス普通体長二寸餘ニ成長ス

又大正三年九月稻田飼育鯉苗ト混在シ犬上郡大堀及愛知郡横溝ニテ採收シタルモノハ頭少サク腹部膨大シ腹部ノ肛門ニ近キ部分ハ兩側ヨリ迫リテ稜狀ヲナス体長一寸乃至二寸アリ分布未タ明ナラズ新種ト認メラル

めだか *Orizias latipes* (Tem minck & Schlegel) 方言うきんに、うろにト稱ス到ル處ノ水面ニ棲息ス六七月頃水藻ニ

産卵ス

ます 鯉

*Oncorhynchus masou* (Breder)

方言 ます、あめのうを、(鮭) あめ、あまご、(小ナルモノ)

本湖産ノますハ海ニ下ルコトナク終生湖中ニテ生育ス海ヨリ湖上スル本來ノますハ勢多川ニ入ルモノハ極メテ稀ナルガ如ク古老ノ言ニ聞クモ從來勢多川筋ニテ漁獲シタルコトナク片影ヲ認メタルモノ亦少ナシト云フ

あめのうを ますノ成熟期ニ入りタルモノヲ稱ス即九月ニ入レハ体側ニ淡紅色ノ斑紋現ハレ十月初旬ヨリ産卵期ニ

近ツクニ從ヒ斑紋一層鮮麗トナリ体色一面褐色ヲ加ヘ黒点鮮明トナリ色彩全クますト異ナルニ至ル

あまご ますノ幼魚ヲモ併セ稱ス其溪流ニ棲息スルモノハ体長五、六寸ニ過キス体暗褐色ヲ帶ヒ体側ニハ八乃至十一

個ノ楕圓形ノ黒斑ヲ有シ赤色ノ小点散在スルモノアリ縣下各河川ノ上流ニ多ク棲息シ四月乃至六月及九月十月ノ頃釣獲ス

## ます

ハ背部蒼黒色ヲ呈シ小ナル黒点アリ側面及腹部ハ銀白色ヲ帯ヒ冬季ヨリ夏季ノ間ニ漁獲セラル、モノヲ呼フますノ体色ハ棲處ニヨリテ異ナリ湖ニアルモノハ五寸内外ノモノニテ已ニ体銀白色ニ掩ハレ斑紋消滅スルモ河川又ハ池中ノ淺所ニテ飼育セルモノハ暗褐色ヲ帯ヒ銀白ノ色彩ニ乏シク体側ノ斑紋常ニ存在ス

常ニ水温底ク清冽ナル處ヲ好ミ多クハ水中層ニアリ外湖至ル處ノ沖合ニ棲息スルモ湖西地方殊ニ多シ棲息ノ状態ハ明ナラサルモ從來本場ノ調査セル處ヲ綜合スルニ十一月末以後翌年二月末ニ至ル(上層水温六、〇—一〇、〇)間ニアリテハ鹽津灣北西竹生島近海ヨリ高島郡沖合ニ散游シ水魚ヲ逐ヒテ沿岸ニ近ク來游スルコトアルモ比較的深層ニアルモノ、如ク二十尋乃至四十尋ノ處ニテ刺網、小糸網、延繩ニテ多ク漁獲セラル三月以後五月末ニ至ル(上層水温一〇、〇—一六、〇)間ニハ湖西地方ニテハ餌ヲ逐フテ沿岸ニ近ク來游スルモノヲ増シ河口附近ノ網罟又ハ沿岸水深十尋乃至二十尋内外ノ處ニ張下セル底刺網及沖合水面下二十尺以下ニ吊下セル刺網ニテ漁獲セラル、コト多シ又沖島沿岸ニ來游シ地曳網ヲ以テ漁獲スルハ例年四月中旬(水温七、〇—九、〇)以後五月中旬(水温一五、〇—一六、〇)ニ多ク以後水温上昇ニ伴ヒ全ク其影ヲ沒ス六月以後九月ニ至ル間ニハ湖河ノ爲メ河口附近ニ來游セルモノヲ除ク外湖中ニアリテハ低水温ヲ追フテ移轉スルカ如ク其限界ハ水温十三度内外ノ水層ニ於テ漁獲セラル、コト多シ(十三度内外ノ水温層ハ六、七月ニアリテハ水面下五十尺以上八、九、十月ニテハ七十尺以上百尺迄ノ水深トス)要スルニ其棲處ハ季節ニヨリ水ノ適温ヲ逐ヒ、餌ヲ逐フテ移轉スルコト甚シキモノ、如シ

遡河ノ時期ハ例年六月中旬以後ニシテ七月下旬迄ヲますノ遡河トス當時霖雨出水ニ際シ湖上スルモノナルモ其數多カラズ安曇川口ニテハはずト共ニ漁獲セラル、モノ多シ盛期ハ八月下旬ヨリ始マル即チ体色漸ク淡紅色ノ斑紋ヲ呈セル頃ニシテ以後十一月下旬ニ至ル迄産卵期ヲ通シテ湖岸河口ニ接近シ出水ノ都度群ヲナシテ各河川ニ遡上ス産卵期ニアリテハ河川ノ出水量ト遡上數トハ常ニ正比例シ混濁後稍清澄セルトキヲ最モ可トシ連續十數日ニ及フコトアリ終期ハ例年十一月末日ヨリ十二月中旬ノ間トス十一月末ニ入り降寒至リ背後ノ山嶽雪ヲ冠シ流末ノ水温下降シテ十度以下ヲ示スニ至レハ全ク浜上ヲ絶ツ高島郡知内人

通川其他翌年一月初旬頃迄時々遡上スルモノヲ見ルコトアルモ其數極メテ稀ナリ

産卵期間ニ入りテ河川ノ出水稀ナルトキハ湖岸河口ノ舄ニ入り北西ノ強風屢々至リテ湖岸混濁スルトキハ來游殊ニ多キヲ例トスルモ靜穩ノ天候連續スルトキハ來游稀薄ナリ故ニ此時期ニ於ケル降雨出水ノ回數、程度、強風ノ多寡ハ漁獲及産卵ニ密接ナル關係ヲ有ス

壯成魚ノ食物ハ主トシテひうを、こあゆヲ攝リ時ニいさゞ、びびヲ胃中ニ見出スコトアリ其最モ多キハ体長一尺三寸体重二百匁ノ胃中ヨリ二寸五分以下ノこあゆ七十七尾ヲ見出シタルコトアリ産卵期ノあめのうをノ胃中ニハ攝食物ヲ見ズ

産卵期ハ例年十月中旬ヨリ十一月末日ノ間ニシテ十一月上旬中ヨリ盛期トス年ニヨリ遲速ナキニアラサルモ旬日ヲ超ユルコト稀ナリ雄ハ十月ニ入レハ大部分成熟ニ近キモ雌ハ尙卵巢未熟ノモノ多シ明治四十三年成熟魚ノ割合ニ就キ調査シタルモノ次ノ如シ

時期	捕獲雌魚百尾中成熟セルモノ、數(六、四三八尾ノ平均)		湖	水	温	川	水	温
	尾	尾						
十月上旬	四〇	二〇尾						
十月中旬	六六	六〇						
十月下旬	六六	六〇						
十一月十迄	七三	七〇						
十一月二十日頃ニ至レハ未熟魚ヨリモ半バ放卵セル母魚ヲ交ユルコト多シ								

雌雄ノ割合ハ雄魚ハ雌ノ半バニ過ギス殊ニ産卵終期ニ至レバ著シク雄ノ數ヲ減少スルハ例年見ル事實ナリ

時期	雌	雄	計
四十三年十月下旬漁獲數	一、五九八	九二七	七、一〇七
同年十一月二十日迄漁獲數	五、九〇九	二、九一四	三、八四一
總計	七、五〇七	五、八四一	一三、三四八

雌百ニ對スル雄ノ割合

五八

五三

五四

親魚ハ産卵期ニ至レハ著シク体色ヲ變ズルト共ニ雄ハ吻端延長屈曲シ齒ハ著シク發達露出ス雌ニ比シテ形大ナルモノ多シ体形比較次ノ如シ

平均形	最小形	最大形
一四、一〇	七、五〇	一八、七〇
三、〇四	一、八〇	四、五〇
二五、五九	八、〇〇	五八、〇〇
一五、〇〇	七、〇〇	二〇、五〇
三、二五	一、四〇	五、〇〇
二六、三七	三、〇〇	七二、五〇

(一三〇尾平均) (一五〇尾平均)

一尾ノ孕卵數ハ魚ノ大小ニヨリ差違アルモ通常八百粒乃至三千粒ニシテ平均千四百粒内外ヲ有ス卵ノ大サハ直徑二分一厘内外ナルモ母魚ニヨリ一様ナラス卵色ハ桃紅色ノモノ多キモ濃淡アリ帶黃色ヲ呈スルモノアリテ一定セス都テ年齢若キモノ体小ナルモノハ卵粒小サク數亦少ナシ卵數調査ノ一斑左表ノ如シ

體長	體高	重卵	數卵	卵巢	體長	體高	重卵	數卵	卵巢
九、三	一、九	五三	五一四	一〇	一六、〇	四、二	四四〇	一、三五四	一〇〇
九、三	二、〇	六五	七五〇	一二	一六、〇	三、五	三六〇	一、五六五	一〇〇
一〇、〇	二、二	八五	五〇〇	一〇	一六、〇	三、六	三一〇	二、二〇〇	八〇
一〇、〇	二、四	一〇五	六八〇	二八	一七、〇	四、六	五〇〇	一、五八六	一三〇
一一、〇	二、五	一一〇	六七〇	三〇	一七、〇	三、六	三七五	二、〇七六	一〇〇
一一、〇	二、五	一四〇	八三七	二〇	一七、〇	三、六	三八〇	二、八九五	九〇
一二、〇	二、六	一二〇	七五〇	三三	一八、〇	四、〇	四三五	一、七一二	九五
一二、〇	二、四	一五〇	一、一五三	四五	一八、〇	三、七	三七〇	二、〇一二	一〇五
一三、〇	二、九	一八〇	九三四	四五	一八、〇	四、六	四五〇	二、五五〇	一五〇
一三、〇	二、八	一六〇	一、三六〇	三八	一九、〇	三、五	三八五	二、三〇五	七五
一四、〇	三、〇	二〇〇	一、二二三	五〇	一九、〇	四、二	五一〇	二、八一五	一三七

一四、〇	三、二	二二五	一、四五〇	三一	一九、二	四、〇	四六〇	三、〇八〇	一二五	最大形ノモノ
一四、〇	三、八	三一五	一、九七々	八五	八、四	一、八	三八	三二五	四	最小形ノモノ
一五、〇	三、三	二四〇	一、二八七	五九	一五、四	三、一	三二二	三、一三一	一〇三	最多卵數ノモノ
一五、〇	三、九	二二〇	一、五〇四	四五	一八、七	四、五	五八〇	一、九一五	一三五	最大体量ノモノ
一五、一	三、九	三一五	二、二六八	九二	二二〇尾平均	一、四二三				

醒ケ井川及小松養魚場ニテ飼育シタル成熟魚ノ卵數ハ下ノ如シ

体長	七、七 <sup>寸</sup>	体重	三、四 <sup>四</sup>	卵數	二二〇	三年魚卵徑一分二七	青白色ヲ帶ア
同	八、五	同	五、二	同	二九五	三年魚卵徑一分一〇	同上
同	六、一	同	二、一	同	?	三年魚卵徑一分一〇	同上

卵ノ發育ハ水温ニヨリテ遅速アリ産卵ヨリ孵化迄ニ三十日乃至六十五日ヲ要ス孵化魚兒ハ腹部ニ臍囊ヲ具ヘ之ヨリ養分ヲ吸收シテ發育シ其間暗所ヲ求メテ器ノ一隅又ハ礫石ノ間ニ群潜シ三十日乃至四十五日ヲ經テ形態備ハリ游泳ヲ始メ攝餌ヲナスニ至ル知内孵化場ニ於ケル經過次ノ如シ

十月下旬採卵ノモノ	十一月中旬ヨリ十二月上旬ノ間ニ孵化ス	青水温旬日平均	一五、〇—一三、七
十一月上旬採卵ノモノ	十一月下旬ヨリ十二月下旬ノ間ニ孵化ス	同	一五、〇—一六、三
十一月中旬採卵ノモノ	十二月中旬ヨリ翌年一月上旬ノ間ニ孵化ス	同	一五、〇—一五、六
十一月下旬採卵ノモノ	翌年一月中旬ヨリ二月下旬ノ間ニ孵化ス	同	一三、七—一四、八
十二月上旬採卵ノモノ	翌年一月下旬ヨリ三月上旬ノ間ニ孵化ス	同	一一、二—一四、八

孵化當時ノ魚兒ハ体長四分五厘内外アリ游泳ヲ始ムル頃ニハ体長九分五厘内外ニ成長ス以後河岸水靜ナル處ニ群泳シ小動物・蟲類ヲ捕食シテ成長シ漸次河ヲ下リ出水ニ乗ジテ湖ニ入ル下流ニ於テ良ク之レヲ認ムルハ四月上旬ヨリ五月中旬迄ノ間ニシテ体長一寸九分乃至二寸五分内外ノモノ多シ

知内孵化場ニテ養成シタルモノハ游泳後人工餌料ニヨリテ飼育スルコト二十日乃至六十日間体長一寸四分内外ニ達シタル頃ニ

月上旬ヨリ四月上旬ノ間ニ沿岸河口及沖島竹生島沿岸ニ放流ス放流後ノ消息ヲ調査スルニ七日前後ハ其地點附近ニ群泳シ成長スルニ從ヒ漸次影ヲ没シ十五日内外ニテ全ク離散ス沖島竹生島ノ放流地點ヲ去リタルモノハ多クハ對岸ノ岸邊ニ沿ヒテ漸次擴散シ主トシテ昆蟲類ノ幼蟲又ハ成蟲ノ小ナル種類ヲ捕食セルヲ見ル四月下旬ヨリ五月中旬ニハ体長一寸六分乃至三寸トナルモノ多ク河口附近ニ達シタルモノハ遡上スルモノ亦少カラス五月下旬ニ至リ沿岸水温十八度以上ニ上スル頃ニハ全ク湖中ニ去リテ沿岸ニ影ヲ止メサルニ至ル成長ハ明ナラサルモ不同少ナカラサルモノ、如ク標識試驗魚ニヨリ其一斑ヲ推スニ次ノ如シ

年魚同	体長	体高	体重	性別	標識
三年魚ト認ムルモノ	一二、三	二、五	一三、七	雌	左鰓蓋切斷標識魚
三年魚同	一二、七	二、八	一七八、〇	雄	同上
三年魚同	一三、六	—	二〇〇、〇	雌	右鰓蓋切斷標識魚
四年魚同	一四、五	—	二〇〇、〇	雌	左鰓蓋切斷標識魚
四年魚同	一三、五	三、一	二三〇、〇	雌	同上
四年魚同	一六、五	三、五	三一〇、〇	雌	同上
五年魚同	一七、四	三、五	二八五、〇	雌	右鰓蓋切斷標識魚
五年魚同	一六、五	三、七	三二五、〇	雄	同上
五年魚同	一六、八	三、七	三四五、〇	雌	同上
五年魚同	一六、七	三、九	四〇五、〇	雄	左鰓蓋切斷標識魚

河川又ハ池中ニテ飼育セルモノハ湖ノ天然産ニ比シ成長劣ル醒ケ井川試驗地ニテ飼育シタル成長度ヲ左ニ示シテ參考トス

放養當時	解放後	体長	体重	放養後	解放後	体長	体重
一ヶ月	四ヶ月	一、三〇	〇〇九	十二月	十六ヶ月	五、一〇	一三、五
一ヶ月	五ヶ月	一、六三	一、一二	十二月	十七ヶ月	五、一七	一七、四
二ヶ月	六ヶ月	二、六〇	一、九六	十二月	十八ヶ月	五、七〇	二一、二

三	ケ	日	七	ケ	月	三、一〇	四、三〇	十五	ケ	月	十九	ケ	月	六、一〇	二七	九
四	ケ	月	八	ケ	月	三、五〇	五、二〇	十六	ケ	月	二十	ケ	月	六、四〇	二九	五
五	ケ	月	九	ケ	月	三、六〇	六、五〇	十七	ケ	月	二十一	ケ	月	六、五〇	三〇	三
六	ケ	月	十	ケ	月	三、八〇	七、八〇	十八	ケ	月	二十二	ケ	月	六、五三	三一	二
七	ケ	月	十一	ケ	月	四、一〇	九、〇〇	十九	ケ	月	二十三	ケ	月	六、五三	三二	四
八	ケ	月	十二	ケ	月	四、二〇	九、八〇	二十	ケ	月	二十四	ケ	月	六、七五	三三	四
九	ケ	月	十三	ケ	月	四、三〇	八、二〇	二十一	ケ	月	二十五	ケ	月	六、九〇	三六	九
十	ケ	月	十四	ケ	月	四、五〇	九、五〇	二十二	ケ	月	二十六	ケ	月	七、一〇	四〇	五
十一	ケ	月	十五	ケ	月	四、七〇	一一、〇〇	二十三	ケ	月	二十七	ケ	月	七、三七	四五	〇
								三十六	ケ	月	四十	ケ	月	九、七〇	五八	〇

最大ナルモノハ稀ニ体量一貫匁以上ニ達スルモノアリト云フ大正三年十月姉川尻ニテ漁獲シタル雄魚中体長二尺二寸体高四寸八分体量九百九十五匁ノモノヲ見タリ

成熟期ニ入ルハ早キハ生後三年ノモノアルモ多クハ四年、五年ヲ經タルモノニシテ雄ハ雌ヨリモ早キカ如シ池中飼育ニ係ル三年魚中秋季成熟スルモノ、多クハ雄ニシテ雌ハ少ナシ其雄魚ノ最小形ハ体長六寸三分体量十六匁ニノモノナリシ今漁獲シタル標識試験魚三十四尾中ノ性別年齢ヲ見ルニ

雌	二十一尾	三年魚	二	雄	十三尾	三年魚	一
	四年魚	九			四年魚	六	
	五年魚	八			五年魚	五	
	六年魚	二			六年魚	一	

水産講習所前田信隆氏ハ大正三年十一月上旬安曇川、姉川、及知内ニテ漁獲シタル多數ノ親魚ニ就キ年齢ヲ調査セラレタルニ「生後産卵迄ニ五年ヲ經タルモノ最モ多數ヲ占メ概シテ三年迄ハ成長遅々タルモ四年ノ夏期ニ於テ著シキ成長ヲナシ五年度ノ秋ニ入りテ産卵スルモノ、如ク見受ケラル」トノ結果ヲ示サレタリ

天然産卵場ハ河川ニアリテハ速ク其上流ニアリ愛知川ニテハ山上村（河口ヨリ約六里餘）附近ヨリ上流ニシテ水深二尺内外ノ

瀬ヨリ淵ニ接セル傾斜面水深三尺餘ノ礫石底ニシテ徑二尺餘ニ穿作セル凹所ノ産床ヲ見ルコトヲ得天ノ川ニテハ河口ヨリ數百  
間水深三尺内外ノ處ニアリ然レトモ河川出水乏シク湖岸河口ニ來游スルモ湖河ノ機ヲ得サルモノハ湖底ニ放卵スルモノアルカ  
如シ

産卵後ノ親魚ハ体著シク瘠瘦シテ黒變シテ吻端白脫シ鱗尾先端亦摩滅剝脫僅ニ生ヲ存シ又ハ斃死シテ流トシ來ル十一月ノ頃多ク  
目撃ス雌ニ多シ雌ハ産卵後多クハ斃死スト稱セラル、モ再ビ生熟スルモノナキニアラズ

週年漁獲セラル、モます時代ノモノハ十二月ヨリ五月迄ヲ盛期トシあめのうをノ漁期ハ九月中旬ヨリ十二月上旬ニ限ラル

ますノ漁具ハ湖ニアリテハ小糸網ヲ主トス例年十一月末ヨリ翌年五月迄湖西地方ノ沿岸沖合ヲ漁場トシ水底又ハ中層ニ張下シ  
テ使用ス東淺井郡南濱最モ盛ニシテ明治四十二、三年ノ頃同地漁夫吉田八右衛門ノ創始セルモノニシテ現今各地ニ使用セラル  
、ニ至レリ流シ釣(延繩)ハ古來ヨリ滋賀郡堅田漁業者ノ使用セル漁法ニシテひさぎ、ひうをノ鮮魚ヲ餌トシ十月末ヨリ十二月  
末及三月ヨリ五月迄ヲ漁期トシ姉川沖合ヨリ以北湖西地方ノ沖合ヲ漁場トス大網(地曳網)ハ沖島ニテ四月下旬ヨリ五月上旬迄  
使用セラレ又湖西地方ノ地曳網ニテ混漁セラル其他網鮒及築ニテ漁獲ス

あめのうをハ主トシテ、築、網鮒小糸網ニテ漁獲シ又犬上郡沿岸ニテハ四ツ手網ヲ使用ス漁場ハ何レモ沿岸及主ナル河口附近  
トス築ハ各河川ニヨリテ異ナリ陷窄趣向ハ一ナルモ其装置ニ六種ノ別アリ安曇川ノ網築知内川ノ築余吾川堰四ツ手姉川ノ築天  
ノ川ノ築ハ何レモ著名ナルモノナリ

肉ハ淡紅色ヲ呈シ脂肪ニ富ミ美味ナリアめのをハ肉稍褪色シ脂肪少ナク滋味ヲ減ス何レモ鮮魚販賣ヲ主トシ京阪地方ニ販賣  
シ又縣内ニテ消費ス普通價格一貫匁ます參圓乃至四圓あめのを壹圓貳拾錢乃至貳圓

最近五ヶ年平均年産額二七、三五七貫 金額五三、二一五圓(あめのを) 一、二九一貫(二六、三〇二圓)  
一六、〇六六貫(二六、九一三圓)

琵琶湖産重要魚類

一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十	十
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
〇、七	〇、七	〇、六	一、二	一、一	一、八	四、〇	七、三	二一、五	四一、七	一七、六	一、八
湖南地方	湖東地方										
湖南地方	湖東地方										

各月漁獲高ノ割合%

地方別漁獲高(五ヶ年平均)

湖南地方 <th>湖東地方 <th>湖東地方 <th>湖東地方 <th>湖東地方 <th>湖東地方 <th>湖東地方 <th>湖東地方 </th></th></th></th></th></th></th>	湖東地方 <th>湖東地方 <th>湖東地方 <th>湖東地方 <th>湖東地方 <th>湖東地方 <th>湖東地方 </th></th></th></th></th></th>	湖東地方 <th>湖東地方 <th>湖東地方 <th>湖東地方 <th>湖東地方 <th>湖東地方 </th></th></th></th></th>	湖東地方 <th>湖東地方 <th>湖東地方 <th>湖東地方 <th>湖東地方 </th></th></th></th>	湖東地方 <th>湖東地方 <th>湖東地方 <th>湖東地方 </th></th></th>	湖東地方 <th>湖東地方 <th>湖東地方 </th></th>	湖東地方 <th>湖東地方 </th>	湖東地方
二〇貫	一七、五九八貫	九、七三九貫	三、二五三貫	三、九六六貫	二七〇貫	一、一四八貫	三、八二貫
二〇貫	一七、五九八貫	九、七三九貫	三、二五三貫	三、九六六貫	二七〇貫	一、一四八貫	三、八二貫

漁具別漁獲高(大正二年)

大	小	流	其
二、四八五	一、〇二八	三、八二	二、八六〇

ますハ湖魚中重要ナルモノ、一ニシテ古來鮭ト稱シ其名高シ明治維新當時迄ハ其蕃殖多カリシモ以後濫獲其度ヲ失シ著シク減少スルニ至レルヨリ明治十二年本縣事業トシテ阪田郡上丹生宗谷川ノ邊リニ養魚場ヲ設ケテ人工孵化放流ノ試験ニ着手シ次テ高島郡有志ノ主唱ニヨリ明治十六年同郡知内川、安曇川漁業者組合ニテ知内及北舟木ノ二個所ニ私設孵化場ヲ創設シ年々三萬乃至十萬尾ノ放流ヲ行ヒ近江水産組合亦之レニ委託シテ明治二十一年ヨリ二十七年迄年々十萬尾内外ノ魚鯉ヲ放流シ更ニ明治三十四年知内及野洲郡六條ニ人工孵化場ヲ設置シ漸次設備ヲ擴張シテ一ヶ年百萬尾ノ放流ヲナスニ至リ何レモ明治四十一年迄繼續施行セリ此間縣令ヲ以テ禁漁期ヲ定メ稚魚ノ漁獲ヲ禁シテ銳意其蕃殖ヲ保護シ爲メニ漸次漁獲ヲ恢復スルニ至レリ由來此種ノ魚族ハ天然蕃殖ニ一任スルトキハ種族ノ減滅ヲ來シ易キモノニシテ其例ニ乏シカラス明治四十一年以來更ニ本縣ニ於テ十年計劃ヲ以テ年々五百萬尾ノ魚鯉放流ヲ續行シ別ニ縣令ヲ以テ八寸未満ノ幼魚ノ捕獲ヲ禁シ毎年十一月一日ヨリ二十日迄各河

川ノ禁漁期ヲ定メ相俟テ蕃殖ノ維持漁獲ノ増進ヲ謀リツ、アリ

### いわな、嘉魚

*Salvelinus pluvius* (Hilgendorf)

方言 いわな、いもな、いもうを

形ますニ似テ小サク体稍細長鱗細カク粘滑ナリ背側ニハ灰白色ノ斑點アリ清冽ナル谿流中ニ棲息シ岩石ノ間ニ潛ム縣下各河川ノ上流ニ産シ姉川ノ上流ニ多シ稀ニ高島郡沿岸ノ湖中ニテ獲ルコトアリ十月頃砂礫中ニ産卵ス卵ハますヨリ小ニシテ黄色ヲ帶フ成魚ハ体長五寸五分体量十八匁内外ノモノ多シ時ニ体長一尺ニ達スルモノアリ春季ヨリ秋季ノ間ニ釣獲シあまごト共ニ販賣ス産額少ナシ

曾テ高島郡知内漁業者組合及近江水産取締所ニ於テ明治十九年ヨリ二十三年迄年々日光中宮祠湖ヨリ卵ヲ移植シ累計一三〇、六〇五尾ノ魚鉢ヲ放流シタルコトアリ

### あゆ、鮎、香魚

*Plecoglossus altivelis* Temminck & Schlegel

方言 ちほあゆ、こあゆ(小鮎) ひうを(氷魚)稚魚ヲ云フ

形態ノ大小ニヨリ通俗大鮎、小鮎ノ二種ニ區別シ其稚魚ノ白色透明体ナルモノヲひうを(水魚)ト稱ス(高島郡地方ニテハ十一月頃漁獲セラル、細小ナルモノヲ「もみぢびを」三月頃ニ至リ成長セルモノヲ「ちぢびを」ト云ヒ体色漸ク黒色ヲ呈セルモノヲ「わかあゆ」ト呼ブ)大鮎小鮎ハ素ト同一種ナルモ外界ノ状況ニヨリ形態習性ヲ異ニスルニ至レルモノナリ今本縣ニ産スルあゆニ就キ習性上ヨリ考察スルニ普通ノ鮎、陸封セラレタル鮎(即大鮎)及小鮎ノ三種ニ區別スルコトヲ得ヘク元本場技手柳本斗夫

氏ノ調査シタルモノヲ次ニ示ス尙各種説明中「産卵」「成長」ニ就テハ同氏ノ調査セルモノナリ

棲息區域	普通ノ鮎		小鮎	
	産卵場所	産卵時期	産卵場所	産卵時期
勢田川洗堰下流ニシテ琵琶湖ニ入ルコトヲ得ス稚魚ハ海ヨリ來ル	勢田川洗堰ノ下及大月川下流	初期九月上旬 盛期九月中旬 終期九月下旬	稚魚ハ琵琶湖ニ成長ニ寸以上トナレバ之ニ注ク河川ニ分布ス	湖又ハ之ニ注ク河川ノ下流ニ及フ
成魚體長	七寸乃至九寸	約六萬粒	二寸二分乃至三寸	約二千八百粒
外觀上ノ特徴	側線ノ前端ニ鮮明ナル黃色斑紋アリ上下顎ノ縁邊ニ厚皮膜アリ	同	同	黃色斑紋ハ痕跡ニ止マル

普通ノ鮎

「淀川ヲ經テ海ヨリ湖上シ來ルモノニシテ即本來ノ鮎ナリ明治四十年前ニアリテハ湖ニ入ルモノ多カリシガ勢多川洗堰竣工後全ク其上流ニ湖上スルコトヲ阻止セラレ勢田川ノ網船膳所矢橋ノ畝ノ如キ全ク鮎ノ漁獲ヲ見サルニ至レリ現今ニテハ洗堰ノ下流又ハ大月川ニテ漁獲ス産卵場ハ洗堰ノ下數町ノ間ニアリ此處ニ合流スル大月川モ川幅廣ク河底一帯ハ平坦ナル砂礫地ニシテ緩ク瀬ヲナシ亦好適ナル産卵場ナレモ此川ハ干涸スルコト多ク鮎ノ上流ニ湖ルモノ少ナキカ如シ

此鮎ハ大形ニシテ體長七、八寸ヲ普通トシ稀ニハ一尺ニ達セルモノアリ」

勢多川筋ニ湖上シ來ルハ毎年五月下旬ニシテ體長五寸内外アリ鹿跳ヨリ下流ニ多ク六、七月ヲ盛期トシ洗堰下ニ達ス此時期ニハ主ニ掛ケ釣(友釣)ニテ漁獲ス次テ八月ニ入り再ビ群ヲナシテ來游シ凡テ卵ヲ有シ體肥滿體長七、八寸ノモノ多ク掛ケ釣ヲ使用スルモ洗堰下ニテハ打網ヲ使用ス年ニヨリ豊凶アリ概シテ湖河時河水減スルトキハ來游少ナキカ如シ

凡テ活魚販賣ヲ主トシ京阪地方ニ出ス普通價格一尾五錢乃至貳拾錢  
琵琶湖水産物販賣組合勢多川筋魚揚場ニテ取扱タル金額次ノ如シ

年	五 月	六 月	七 月	八 月	九 月	十 月	計
四十三年	四四	七〇七	九一四	五五三	五二四	二六	二、七二八
四十四年	八四	九七三	一、二五一	一、〇九一	三九〇	一	三、七九〇
大正元年	〇四	七七九	七二八	二五〇	四八五	一四	二、二五六
二年	一一七	一、〇一九	一、〇四七	四一〇	五六二	一一〇	三、二六五

### 大 鮎

「已往ニ於テ年々淀川勢多川ヲ經テ海ヨリ湖上シ湖ニ入りタル普通ノ鮎ノ子孫カ海ニ下降スルコトナク淡水ニ常棲スルニ至リ然シテ小鮎ノ如ク退化セサルモノト見做スヘク側線ノ前端ニ黄色ノ斑紋アルコト及ヒ上下顎ニ厚皮膜ヲ有スルコト等普通ノ鮎ト同一ナルモ大サハ其優秀ナルニ及ハス習性ハ小鮎ト相似タル點多ク唯遠ク河ノ上流ニ到達シ分布廣ク且産卵期ノ早キハ是レト異ナレリ

**成長** 十一月初旬氷魚網ノ初網ヲ下ス頃既ニ体長二寸四五分ニシテ背部淡黄色ナルモノアルハ大鮎ノ稚魚ナルヘク孵化後湖ニ流下シテ水温高ク動物質餌料ノ豊富ナル間急速ニ成長シ年内ニ体長二寸七八分ニ達スルモノ、如シ一、二月頃既ニ河流ニ湖上シ始メ三月末ニハ体長三寸内外四月末ニハ体長三寸乃至三寸五分トナル湖上シ來ルヤ好シテ水底ノ著生物ヲ飽食スルカ故ニ腹部ハ常ニ膨大ス初メハ水田ノ如キ淺キ處ヲ厭ハス流勢アレハ即之レニ來往スルモ五、六月頃ニハ順次河流ニ向ツテ去ル此頃ノ体長ハ四寸ノモノ最モ多シ之ヲ俗ニ「たがばもどり」ト稱ス田川戻リノ意ナルヘシ明治四十二年六月八日姉川上流約七里

ノ處ニテ打網ニテ漁獲セルモノハ体長三寸五分乃至五寸アリ四寸内外ノモノ最モ多カリキ又翌年六月下旬天野川上流約三里ノ處ニ於テ多數ニ湖上シツ、アルモノハ体長四寸乃至四寸五分ニシテ何レモヨク揃ヘルヲ見タリ知内川ニテハ七月初旬ニハ体長五寸内外八月初旬ニハ体長五寸五分内外ニ達セルモノ多ク既ニ成魚トナルコトヲ俗ニかつらさうト名ツク

産卵

産卵期ハ小鮎ヨリモ早クシテ八月下旬ニ始マリ九月中旬盛期ニシテ下旬ニ終ル親魚ノ大サハ河川ニヨリテ多少ノ

差違アリト雖モ体長五寸乃至七寸体量七匁乃至二十匁ナルモノ最モ多シ明治四十三年八月三十一日知内川鮎築ニテ漁獲セル親魚ニ就キ測定シタルニ左ノ如シ

性別	体	長	高	重	孕卵數
雌	最大	六、八	一、四	一、八、五	約 六八、〇〇〇 <sup>粒</sup>
同	最小	六、三	一、一	一、一、六	約 四〇、〇〇〇
同	最多	六、七	一、三	一、七、〇	約 六二、〇〇〇
雄	最大	七、四	一、三	一、九、〇	—
同	最小	四、五	〇、八	六、二	—
同	最多	六、九	一、二	一、四、五	—

右ノ内雌ノ四割ハ未熟ニシテ他ハ雌雄共十分成熟シ居タリ卵ノ大サハ良ク揃ヒ直徑二厘七毛内外ナリキ

九月末ヨリ十月ノ始メニ當リ下流ニテ産卵後ノ親魚ヲ見ルコト珍シカラス明治四十三年中知内川ニテ採收セルモノ、大サ次ノ如シ

採收日	尾數	最大体長	最小形長
十月七日	四	五、二	四、七
十月十二日	五	同	五、〇
十月十三日	五	同	四、七

右ハ何レモ鱗條等損傷セスト雖モ甚タ瘦セラテ扁平トナリ腹部狭小ニシテ体高ハ頭高部ノ高サニ不及一見死ニ瀕セルモノニシテ

流勢ニ抗スルヲ得ス河岸ノ淀ミニテ体ヲ支フルノミ消化管内ハ空虚ニシテ復活シテ所謂止リ鮎(越年魚)トナリ得ヘシトハ思ハレザリキ

六、七月ノ大鮎ノ体色ハ甚美ニシテ背部ハ黃金色ヲ帶ビ腹部銀白色ニ下位ノ鮎ハ紅色ニ彩ラル成熟セルモノハ淡黃色ヲ帶ヒ光澤アリ下位ノ鮎ハ縁邊淡黃色ナリ其産卵ヲ終ルヤ体色甚黒ク光澤ヲ缺キ側線ノ前端部及臀鮎ハ深黃色ヲ呈シ他ノ鮎亦淡黃色ヲ帶ブ

大鮎ノ大部分ハ河川上流ニテ漁獲セラレ安曇川野洲川愛知川等流域大ナルモノハ殊ニ多ク其他ノ各河川ニ産セサル處ナシ毎年四月上旬ヨリ漁獲ヲ始メ八月中旬迄ヲ盛期トス初期ニハ四寸内外ノモノヨリ五月ニハ五、六寸ノモノ多ク六、七月ニ入レハ六寸乃至七寸餘ノモノトナル主ナル漁具ハ「覗キ」(又「ヒツカケ」ヲト稱シ水中ニ入り覗水器ニテ魚ヲ窺ヒ懸釣ヲ以テ引懸クルモノナリ)ニシテ其他掛ケ釣、打網、築ヲ使用ス

湖ニ生息スルモノハ沿岸ノ畝ニ入ルモノニシテ体長五寸内外以下ノモノ多シ

神崎郡山上村ハ從來鮎ヲ以テ名アリ愛知川筋ニ位シ河口ヲ距ルコト六里餘之レヨリ上流宇蓋尾ニ至ル一里餘ノ處ヲ漁場トス此地ニテハ例年二月下旬ニ入レハ体長三寸餘ノモノ湖上シ五月ニハ五寸乃至六寸六月ニ入り六七寸ニ成長ス大正三年七月十五日測定シタルモノノ最大体長六寸体重十六匁ニ、最小体長四寸七体重七匁ニ最多形体長五寸ニ体重九匁一アリ六月以後八月頃ニ至ル迄ハ出水ノ都度体長三寸内外ノモノ湖上シ來ルヲ常トスルモ其成長劣ル成魚ノ最大ナルモノハ稀ニ一尺ニ達スルモノアリト云フ漁期ハ三月下旬ニ始マリ六月七旬ヨリ七月中旬迄ヲ盛漁期トス夏季土用中ハ少ナク秋季彼岸過ニ再ヒ釣獲スルコトアリ九月下旬「サビ鮎」ヲ見ル出水ナキトキハ往々産床ニ就クモノヲ認ムルモ極メテ稀ニシテ産卵時期ニハ凡テ下流ニドルト云フ蚊釣ハ三四月頃使用シ五寸以下ノモノヲ釣獲ス其他掛ケ釣、打網、覗キヲ使用ス

凡テ活魚販賣ヲ主トシ良久蓄養ニ耐ユ主ニ京阪地方ニ出シ又縣内ニテ需用セラル普通價格一尾貳錢乃至拾貳錢

活魚ノ運搬ハ直徑一尺二寸深サ一尺ノ桶ヲ用ヒ一荷二百五十尾内外ヲ容ル、ヲ普通トシ陸上ハ(遠キハ六里)人肩ニヨリ途中水ヲ交換シテ波止場ヨリ汽船ニテ湖上大津ニ搬出ス四月乃至六月ノ候ニ行ハル、モノニシテ運搬中一割五分内外ノ斃死魚ヲ出スヲ通例トス七月ニ入レハ陸上ノ運搬困難トナリ湖上汽運搬ニ於テモ尙三割以上ノ斃死魚ヲ生スルニ至ル

最近五ヶ年平均年産額五、一一四貫 金額一〇、七八六圓 (勢多川産普通鮎ヲ含ム)

明治四十二年各河川ノ産額ヲ調査シタルモノヲ見ルニ次ノ如シ

野洲川筋	一、一七七貫	三、二三七圓	姉川筋	六二貫	六九圓
愛知川筋	六六九貫	二、一一三圓	知内川筋	一三二貫	一三二圓
日野川筋	二〇七貫	二八〇圓	石田川筋	一二六貫	一二六圓
犬上川筋	二〇貫	九〇圓	鴨川筋	六貫	六圓
天ノ川筋	四貫	一七圓	安曇川筋	九二〇貫	一、一〇二圓

小 鮎

『鮎ノ退化シテ一變種ヲ成セルモノニシテ琵琶湖ノ特産トシテ夙ニ世ニ知ラル体長三寸未滿ニシテ成魚ハ背部蒼黒色ヲ帯ヒ腹部銀白色ナリ側線ノ前端ニ於ケル黄色ノ斑紋ハ親魚トナリテ微カニ現ハル稚魚ハ透明ニシテ水ノ如クナルヲ以テ水魚(ひうを)ト云フ水魚ノ中ニハ無論大鮎ノ稚魚モ含マル、ナリ

成長 孵化即時ハ体長二分アリ大鮎ノ孵化即時ヨリモ稍小ナリ十一月ニ入り体長一寸乃至二寸ノモノ多ク水魚網ニテ漁獲

セラルコレヨリ最大魚ハ順次体長ヲ増セ共最小魚ハ三、四月頃ニ至ルモ依然トシテ初網ノ頃ニ漁獲セラル、最小魚ト同様ナリ然シテ四月以後ハ水魚網ニ代ユルニ網目ノ大ナル鮎網ヲ使用シ從テ小形ナル水魚ヲ獲ルコトナシト雖モ往々六、七月頃ニモ他ノ細目網ニテ体長一寸五分内外ノ水魚ヲ獲ルコト尠ナカラス成魚ノ不同ナルハ漁獲魚ヲ類別シ其多樣ナルニヨリテモ之ヲ知ルヘク其一例ヲ擧クレハ明治四十四年二月十六日高島郡百瀬村沿岸ニテ水魚網ニテ漁獲セルモノ、一部分千二百餘尾ヲ各体長ニ

ヨリ區別シタルニ最大魚ハ体長二寸六分最小魚ハ体長一寸一分ニシテ細別左ノ如シ

体長 一寸三分以下	一四〇尾	此量 一一匁	二寸二分以下	一六三尾	此量 四六匁
一寸六分以下	四五八尾	此量 五五匁	二寸三分以上	五四尾	此量 二七匁
一寸八分以下	四〇六尾	此量 七一匁			

成魚ノ体長三寸未滿ナルニ既ニ体長ニ於テ一寸以上ノ差リア何レモ未タ体色現ハレスシテ固ヨリ同齡ノ魚ナリト雖モ斯ノ如ク差違アルハ湖岸ニテ後レテ孵化セルモノ又ハ大鮎ノ稚魚ノ混セルカ故ナルヘキカ四、五月頃ニハ大部分ハ体長二寸以上ニ達シ蒼黒色ノ体色ヲ帶ヒテ續々河流ニ湖リ或ハ湖岸ニ去來シ六七月ニハ全ク成魚トナル湖上セルモノモ遠ク上流ニ到ラスシテ下流ニ止マリ産卵期ニ及フヲ普通トス

食餌 四十二年四十二年ニ亘リ八十回ノ調査ニヨリテ得タル結果ヲ綜合スルニ

「デイアフトマス」及「シクロツプス」ヲ食セルモノ 七十六尾 三月ニハ少ナケレモ其他何レノ時期ニモ見ル

「デイアフアノローマ」ノミヲ食セルモノ 九尾 五月以後ニ見ル

「ボスミナ」ノミヲ食セルモノ 十二尾 十一月、十二月ニ多シ

「メロシラ」ノミヲ食セルモノ 八十二尾 一月ヨリ三月迄最モ多シ

食餌不明又ハ無キモノ 百三十六尾

「メロシラ」「シクロツプス」「デイアフトマス」ヲ混食セルモノ 十七尾 一月ヨリ五月中旬ニ見ル

「ボスミナ」「シクロツプス」等ヲ混食セルモノ 三十二尾 三月下旬ヨリ十一月迄ニ見ル

要スルニ食餌ハ湖ノ重要浮游生物ニシテ其變遷消長ニ從ツテ食餌モ亦變移ス要スルニ小鮎ハ貪食ニシテ稚魚ヨリ成魚ニ及フマテ湖ノ重要浮游生物ニヨリテ生活シ其スルヤ動物性植物性ヲ選マスト言フヲ得ヘシ



産卵期ニ於ケル小鮎ノ團集ハ誠ニ壯觀タルヲ失ハス魚ハ相重ナリテ水面ヲ掩ヒ砂礫ハ卵ニヨリテ相合着スルモノアリ水底ノ凹所ニハ死屍ノ累々タルヲ見ルヘシ、産卵後ノ小鮎ハ俗ニ砂喰ヒト稱シ消化管内ニ小砂又ハ小鮎ノ卵ヲ藏スルモノ多シ

雌雄ノ別ト割合

雄ハ雌ヨリモ各鱗共大ニシテ且鱗條強硬ナリ殊ニ臀鱗ニ於テ此差異ヲ見ルヘク雄ハ其基部ノ長サト

鱗ノ高サトノ比「一二〇七」雌ハ「一〇七」ノ割合ヲ保チ縁邊ハ雄ハ真直ナレトモ雌ハ中央ニ於テ凹入ス次ニ雄ハ臀鱗胸鱗及腹鱗ニ白色微粒狀ノ結節無數ニアリ殊ニ臀鱗ニ明瞭ナリ雌ニハ全ク之ヲ缺ク又雌ハ背部蒼黑色腹部銀白色ニシテ光澤アリ雄ハ漆黑色ニシテ白色ノ部分モ狭小ナリ而シテ雄ハ各鱗共帶紅色ニシテ臀鱗腹鱗及胸鱗ハ殊ニ鮮麗ナルモ雌ハ然ラス鱗ノ色ハ産卵後ニモ其差異ヲ保テトモ体色ハ産卵後ニ至リテハ雌モ亦黑色ヲ増ス傾アリ

産卵中ニアル雌雄ノ割合ヲ知ラムト欲シ明治四十二年九月及翌年十月ノ兩度調査ヲ行ヒタル結果次ノ如シ何レモ二百數十尾ツ、ニ就キ調査セルモノナリ

高島郡海津村湖岸	雄	五五	雌	四五	明治四十二年九月調査
同 郡百瀬村湖岸	同	五一	同	四九	上
滋賀郡小松村湖岸	同	四〇	同	六〇	上
高島郡知内川	同	五二	同	四八	上
同 郡安曇川	同	五六	同	四四	上
坂田郡天ノ川	同	六五	同	三五	上
平 均	同	五二	同	四八	
高島郡知内川	同	六二	同	三八	明治四十三年十月中旬調査雄最多ノ時
同 上	同	三二	同	六八	雄最少ノ時
同 上	同	五四	同	四六	三十二回ノ平均數

漁業者ハ雄ノ數雌ニ數倍スト稱スルモ此レ放卵後ノ雌魚ヲ見誤ルニ由ルナルヘク常ニ雌雄相伴テ其數大差ナキコト右ニヨリテ

知ルコトヲ得ヘシ

### 親魚ノ大サ、孕卵數

親魚ノ割合ヲ求ムルト同時ニ其各ノ大サヲ測定シタルニ次ノ如ク雄ハ一般ニ雌ヨリモ稍大ナルヲ知ル

調査場所	雌平均体長		雄平均体長		調査時期	雌	雄
	最大	最小	最大	最小			
知内川	二、五五	二、五五	二、五五	二、五五	明治四十三年十月	二、七五	三、〇〇
安曇川	二、五五	二、五五	二、六〇	二、六〇	知内川調査 三十二回平均數	二、二〇	二、〇〇
天ノ川	二、六一	二、六一	二、六〇	二、六〇		二、六三	二、七二
小松村湖岸	二、五七	二、五七	二、六五	二、六〇		二、四二	二、四五
平均	二、五七	二、五七	二、六〇	二、六〇			

右ト同時ニ熟魚ノ孕卵數ヲ算シタルニ最大魚二十二尾平均三千八百四十粒最小魚二十二尾平均一千四百粒ニシテ更ニ十月十二

日午後四時ノ採收ニ係ル熟魚中大小五十尾ノ卵數ヲ概算平均シタルニ一尾平均二千八百粒ナリキ

卵ノ大サハ最大直径二厘八毛最小二厘六毛平均二厘六四ニシテ他ノ鮎ヨリモ稍小ナク卵數ハ遙カニ少數ナリ

卵ノ孵化ニ要スル時日ハ實驗ニヨルニ水温十六度乃至二十度七ノ止水中ニアリテハ採卵後四日目ニ發眼ヲ始メ九日目ヨリ孵化

シ十三日ニシテ全ク終了セリ又水温二十度内外ニアリテハ八日ニシテ孵化ヲ終リタルコトアルモ水温十四度七内外ノ流水中ニ

テハ採卵後五日目ヨリ發眼ヲ認ムルモ以後卵ノ斃死スルモノ多ク十六日乃至二十日ヲ經テ僅ニ孵出魚兒ヲ認ムルニ不過想フニ

孵化ニ適當ナル水温ハ十七度乃至二十度内外ノ間ニアリテ七日乃至十二日ノ孵化時日ヲ要スルモノナルヘシ孵化魚兒ハ水面ニ

近ク活潑ニ運動シ七日乃至十日ニシテ全ク臍囊ヲ吸了ス産卵期河川ノ水靜ナル處ニテハ多數ノ孵化魚兒ヲ掬スルヲ得ヘク干涸

シタル當時ノ河川下流ニアリテハ數日ヲ經ルモ礫石ヲ穿ツコト五、六寸ニシテ水ノ存スル處良ク多數ノ潜在セル孵化魚兒ヲ掬

ヒ得ルコト屢々アリ

大正元年秋季孵化セルモノニ就キ高島郡知内ノ湖岸ニ於テ氷魚網ニテ漁獲セルモノヨリ隔月ニ類別調査セルモノ次ノ如ク略ホ發育ノ狀況ヲ窺知スヘキモノナキニ  
アラス記シテ參考トス

漁獲氷魚百匁中ヨリ選出シタル体形別數量

体長別	元年十一月二十一日調		二年一月九日調		二年三月二十三日調		二年五月十八日調	
	數	量	數	量	數	量	數	量
一寸一分以下	六五〇	九九	一六二	六、五	三〇	〇七	一	—
一寸三分以下	五七八	二四、〇	四二〇	二四、八	三九	一、七	一九	一、七
一寸五分以下	四〇七	二九、二	二四六	二四、八	二七	二、七	一二七	一九、一
二寸以下	九一	一四、八	六八	一六、七	一八	二、七	一三二	三一、一
二寸一分以上	九	四、五	三二	一六、四	三二	一一、九	六六	二四、四
雜魚	九六	七、〇	二七二	七、九	—	五、三	—	六、七
氷魚合計	一、七三五	八二、四	九一八	八九、二	二七二	九四、四	三六八	九三、三
	最小形体長七分 最大形体長二寸一分 量〇匁八五		最小形体長九分 最大形体長二寸九分 量一匁二分 二寸以上ノモノハ 体稍銀白色ヲ呈ス		最小形体長一寸 最大形体長二寸八分 量一匁 二寸五分以上ノモノハ体 色銀白色ヲ呈スルニ至ル 少ナシ		最小形体一寸二分 最大形体二寸九分 大形ノモノハ離散シテ	

ひうをノ漁期ハ毎年十一月月上旬ヨリ翌年三月中(現今ハ四月中使用ヲ免許セス)ニシテ凡テ氷魚網(地曳網ニシテ浮子繩約四百間餘)ヲ使用シ夕刻ヨリ早曉ニ亘リ夜間數回使用シ月明ノ夜ヲ良シトス多キ時ハ一回數十石ヲ漁スルコトアリ漁場ハ滋賀郡和邇村以北高島郡ニ至ル湖西沿岸ニ多ク漁籍ニヨリ曳揚場ヲ一定ス滋賀郡北小松、高島郡知内地方最モ盛ナリ  
小鮎ノ漁期ハ二月中旬ヨリ十月上旬迄ニシテ湖川共ニ漁獲セララル

河川ニアリテハ外湖ニ注入スル各河流ニ湖上シ河口ヨリ上流數日間ノ間ヲ漁場トシ三月上旬ヨリ漁獲ヲ始メ四月中ヨリ五月下旬ノ頃及九月ヲ盛漁期トス築、堰四手網、四手網ヲ使用シ正午ヨリ午後二時頃迄ノ間ニ湖上殊ニ多ク盛漁期ニハ頗ル盛觀ヲ極

ム安曇川、知内川ノ「カッター」築天ノ川築、姉川ノ堰四手網ハ著名ナルモノナリ  
 湖ニアリテハ二月中旬ヨリ沿岸至ル處ノ雜魚、魴ニ入ル鮎網（地曳網ニシテ浮子繩三百間乃至四百間ノモノアリ）ハ四月以後九  
 月ノ間ニシテ湖西地方ニテ専ラ使用セラレ漁場ハ氷魚網ト同シ多キキハ一回數百貫ヲ獲ルコトアリ魴ハ簀一目分ヲ有スル雜  
 魴魚ニシテ沿湖漁獲セラレサル處ナク四月五月及九月十月ノ頃ハ盛期トス湖南地方ニテハ二月中旬ヨリ四月頃迄ヲ漁期トシ以  
 後水温上昇スルニ伴ヒ漁獲セラル、コトナシ追又手ハ春季湖岸及河川ニテ使用シ犬上郡高島郡地方ニテ用ヒラレ又手網ハ主ニ  
 秋季湖岸又ハ河川ニ群團セルモノヲ抄モ捕ルモノニシテ高島郡沿岸ニテ使用ス  
 ひうをハ白色ニシテ美味ナリ大ナルモノハ撰別シテ鮮魚販賣トシ主トシテ縣内ニテ需用セラル普通價格一貫匁四拾錢乃至壹圓  
 ひうをノ大部分ハ漁獲後爽雜物ヲ去リ直ニ鹽水ニテ煮上ケ籠入又ハ箱入トシテ販賣ス普通價格一貫匁四拾錢乃至壹圓、小鮎ハ  
 大部分飴煮又ハ罐詰ノ原料ニ供セラレ鮮魚販賣トスルモノハ一部分ニシテ縣内ニテ需用セラル、モノナリ秋季ノモノハ煮乾又  
 ハ串焼トシテ食用ニ供スル地方アリ産卵終期ニハ腹中細砂ヲ有シ俗ニ「砂喰ヒ」ト稱シ食ニ堪ヘス乾燥又ハ鹽漬トシテ肥料トス  
 ルコトアリ普通價格一貫匁參拾錢乃至壹圓四拾五錢内外ヲ普通トス

最近五ヶ年平均年産額一八七、〇九六貫 金額八五、九〇四圓  
（小鮎 一二二、一九六貫 五二、二四〇圓）  
 （水魚 六四、九〇〇貫 三三、六六四圓）

月	各月漁獲高ノ割合%		地方	地戸別漁獲高ノ割合%	
	水魚	小鮎		水魚	小鮎
一	一六・四	〇・二	湖南地方	—	〇・四
二	一四・九	一・六	湖東地方（野洲郡木濱北東犬上郡迄）	一・三	六・四
三	一六・一	四・三	湖北地方（坂田郡以北葛籠尾岬迄）	二・七	一六・九
四	〇・三	五・五	湖西地方（堅田以西葛籠尾岬迄）	九六・〇	七六・三
五	〇・五	一九・八			
六	—	二一・六			



川ヲ經テ海ニ入ル

湖中及縣内到ル處ノ河川池沼ニ棲息ス温水ニシテ軟キ泥沙底ノ處ヲ好ミ河川ニテハ石間ニ潜在シ濕潤ノ地ニハ到ラサル處ナシ湖中ニテハ多クハ五尋以内ノ沿岸ニ棲息シ湖南及湖東地方ニ殊ニ多産ス晝間ハ潜伏シ夜間出テ、食ヲ索ム性貪食ニシテ小魚蝦又ハ沿岸性及水底ノ蟲類ヲ捕食ス

稚魚ノ湖口洗堰直下ニ湖上シ來ルハ毎年六月初旬ニ始マリ(体長二寸内外ノしらすうなきノ淀川口ニ大群ヲナシテ湖上スルハ毎年二、三月ノ頃ニシテ五月頃ニハ毛馬開門附近ニ群來スル体長五、内外ノ稚魚亦少ナララスト云フ)

七月八月ノ頃盛ニシテ十月末ニ至リテ止ムヲ普通トス(鹿跳附近ニテハ往年梅雨後土用ノ頃群ヲナシ沿岸ニ沿ヒテ湖上シ來ルモノ多カリシカ現今ニテハ目ニ觸ル、モノ少ナキニ至レリト云フ)

稚魚ノ大サハ常ニ最小形三寸八分乃至四寸二分ニシテ四寸五分乃至六寸八分ノモノ最多ク大ナルハ七寸五分乃至九寸一分ノモノヲ混ス水産講習所丸川久俊氏ノ調査セル處ニヨレハ湖上魚ノ多クハ河口ニ湖上後三年乃至四年ヲ經タルモノナリト

湖上群ハ年ニヨリテ多少アリ湖上期ニ入り屢々出水アルトキハ多ク晴天連續シ河水ノ混濁増減ナキ時ハ少ナキモノ、如シ又ハ晝間ヨリモ夜間ニ多シ

明治四十五年三月農商務省水産講習所ニ於テ試験ノ爲メ南郷洗堰ニ鰻魚梯(魚梯一個所ニシテ内徑八寸五分深サ七寸ヲ有セ  
ル樋筒ナリ)ヲ設置セラレタリ 今魚梯通過ノ狀況ヲ調査シタルモノヲ概括シテ次ニ示ス

	大正元年	大正二年	大正三年
週上ノ始	六月二十五日	六月十五日	六月十四日
週上ノ終	十月下旬	十月下旬	十月下旬
調査中一日平均通過數	一六七尾	七一尾	八〇二尾
湖上最多時	自八月二十七日 至九月二十六日	自七月二十四日 至八月六日	自七月十七日 至九月五日
同數(自後六時 至翌前五時)	九八尾乃至五四四尾	一五二尾乃至三四二尾	七二九尾乃至二、一九〇尾

晝夜通過別 晝

(九晝夜) 三六尾  
一、六一八尾

(二五晝) 九四尾  
一、六七九尾

(二五晝) 一、九八九尾  
(夜延) 一六、五五〇尾

天然種ノ成長度ハ詳ナラス現今漁獲セラル、大多數ハルテ年々本場ニ於テ放流セルモノニシテ其魚苗ハ平均体長五寸七分体量一匁二分内外(小体長五寸一分体量〇匁九)ヲ有シ毎年五月乃至七月下旬ノ間ニ放流ス其成長度ハ尙明瞭ナラサルモ湖ニテ漁獲セラ、モノハ普通体長一尺三寸体量十八匁乃至体長一尺七寸体量五十匁内外ノモノ(秋季下リ鰻ヲ除ク)多ク是等ハ放流後概シテ二年目乃至四年目ノモノト認メラル

秋季ノ下リ鰻ハ例年八月上旬ヨリ十一月七旬ノ間ニシテ九月十月ノ頃ヲ盛期トシ降雨出水ニ際シ濁水ニ乗シ各河川ヨリ流下シ來リ夜間殊ニ多ク瀬田川ヲ下リテ海ニ入ル當時ノ体形大ナルモノハ三百匁ヲ超ユルモノナキニアラサルモ概ネ下ノ如シ

体長	体回り	体量
二六、五	—	二七〇匁
二八、二	五、二五	二六〇匁
二五、〇	四、三〇	一四〇匁
二〇、五	四、二〇	一二一匁
一九、〇	—	七六匁
一七、五	—	七五匁
三十五尾平均	—	九〇匁強

漁期ハ四月以後十一月迄ニシテ六月乃至十月ヲ期盛トス

湖ニテハ魴ニ入ルモノ最多ク次テ流釣(延繩)トス四月ヨリ七月ノ間ヲ盛期トシ蝦、小鮎、蜻蛉ノ幼蟲、石蛭ヲ餌料トシ沿岸ニテ使用ス其他竹筒、笠ヲ使用ス

秋季ノ下リ鰻ハ勢多川ノ鰻築ヲ主トシ南郷、大石(鹿跳ノ上流)外畑ノ三漁場アリ夜間ニ限リ使用シ暗夜ヲ良シトス湖ニアリテ

ハ 魴ニ入ル滋賀郡和邇川尻ノ魴ハ近時最も多ク一夜數十貫ヲ獲ルコト珍ラシカラス  
 棲所ニヨリ品質ニ差違アルモ沿岸沙泥底ノモノハ概シテ体色黒褐色腹部稍黄色ヲ呈シ頭小サク体肥満ス内湖産ノモノハ背部蒼  
 黒色ヲ帯ヒ腹部白色体肥満シ俗ニ「あねすじ」ト呼ブ何レモ品質可良ニシテ賞用セラル内湖ニ産スルモノニ黄色ニシテ無數ノ黒  
 點ヲ有スルモノアリ又「ごまうなぎ」ト稱シ体ニ黒色ノ斑點ヲ有スルモノアリ京阪地方ニ輸出シ又縣内ニテ消費セラル本縣地方ニ  
 テハ蒲焼トシテ五十匁乃至百匁餘ノモノ最モ賞味セラル普通價格一貫匁貳圓五拾錢乃至參圓五拾錢  
 最近年産額

明治四十二年	五、四七二貫	一七、二二九圓
四十三年	五、三二五貫	一六、七〇二圓
四十四年	七、八七四貫	二四、九一〇圓
大正元年	九、五九〇貫	二九、七二八圓
二年	一一、四一八貫	三四、〇二二圓

各月別漁獲高ノ割合%		漁具別漁獲高 (大正二年)	
一 月	七	魴	四、四〇〇貫
二 月	八	鱒	一六〇貫
三 月	九	流シ釣	二、六三六貫
四 月	十	其他	四、二二二貫
五 月	十一		
六 月	十二		

鱒ハ價貴ク需用廣キヲ以テ湖魚中重要ナルモノ、一ニ居ルモ其蕃殖ハ從來一ニ勢多川ヨリ遡上スル稚魚ノ多寡ニ關シ明治三十  
 七年以前ニアリテ八年産額約四千貫内外金額壹萬圓餘ニ達シタリシカ同三十七年勢多川浚渫工事ニ伴フ南郷洗堰ノ竣工シテ以

來週上通路ヲ閉塞セラレ漸ク産額ノ減少ヲ來スニ至レルヲ以テ近江水産組合ニテハ翌三十八年ヨリ稚魚ノ購入放流ヲ行ヒテ産額ノ増加ヲ謀リ次テ本縣ニ於テ明治四十一年ヨリ年々百万尾放流ノ計ヲ立テ爾來靜岡縣濱名湖愛知縣三河灣伊勢灣産ノ稚魚ヲ購入シテ放流ヲ續行シ別ニ稚魚ノ漁獲ヲ防止スル爲メ縣令ヲ以テ體長一尺一寸未満ノ小魚ノ捕獲販賣ヲ禁止セリ放流魚ハ湖中ニ止マルノミナラス多ク縣内河川各所ニ擴散分布シ爾來年々漸ク産額ヲ増加セルコト前掲セルカ如シ

## いさな、 鮎又鰯

*Chloea castanea* (O. Sinniglossus)

方 寸 五 寸 五 分

頭大口潤ク體色淡キ栗色ニシテ淡黒色ノ小點散布ス表皮薄ク活魚ハ半透明ナリ常ニ十尋内外ノ沙泥質ノ水底ニ棲息シ春季溫暖トナルニ從ヒ漸次淺所ニ接近ス外湖ニ産シ滋賀高島東淺井犬上郡及沖島ノ沖合ニ多産ス

産卵期ハ五月六月ノ頃ニシテ四月初旬ニ、尙未熟ノモノ多シ一尾ノ孕卵數三百粒乃至五百粒卵ハ小サク直徑一厘七毛内外トス常年末ニハ七分乃至一寸二分二年末ニハ一寸五六分乃至二寸ニ成長スルモノ、如シ大ナルモノハ體長二寸五分ヲ有ス生後三年ニシテ成熟シ一寸六分以下ノモノニハ卵巢ノ發達セルモノヲ見ス雌雄ノ割合ハ相半ハス

漁期ハ九月一日ヨリ翌年三月末日迄トシ十月十二月ノ間ヲ盛期トス凡テ鮎網(手繰網)ヲ使用シ滋賀郡堅田、和邇、北小松、高島郡北舟木、知内、東淺井郡尾上、犬上郡磯田村、及沖島ヲ主ナル漁村トス春季湖岸ノ魼ニ入ルモノアルモ少ナシ鮮魚販賣トナシ又佃煮ノ原料トナスモノアリ味可ニシテ一般ニ重用セラル普通價格一貫匁參拾錢乃至五拾錢

最近五ヶ年平均年産額 四〇、六三三貫 金額 一六、二七六圓

各月漁獲高割合%

一	月	一四・二五	月	〇九	月	四・一
二	月	六・四六	月	〇十	月	二二・〇
三	月	五・五七	月	〇十一	月	二三・五
四	月	〇四・八	月	〇十二	月	二三・九

本種ハ價廉ナルモ漁獲數量ノ多キハ湖魚中ノ第四位ヲ占メ殊ニ冬季漁業ノ主ナルモノニ居リ漁業經濟上輕視スヘカラサルモノ  
 ノ一ニ屬ス現今縣令ヲ以テ四月一日ヨリ八月三十一日迄鈔網ノ使用ヲ禁シ産卵蕃殖ヲ保護シツ、アリ

### はぜ

*Chaenogobius macrognathos* (Bleeker)

方言 はぜ

体長三寸内外ヲ普通トシ大ナルモノハ四寸ニ達ス細鱗ニシテ皮膚滑ナリ湖岸沙泥底ノ處ニ棲ミ五六月ノ候産卵ス湖岸至ル處ニ  
 産シ臥空ニ入りテ漁獲セラル、モ産額少ナシ

### いしびしよ 石伏魚

*Rinogobius similis* (Gill)

方言 どり(瀬田) いしびしよ、いしもち、いしびしよ、

かぢか、うろり、(犬上、蒲生、沼湖地方)稚魚ヲ云フ

体長一寸乃至一寸五分産卵期ニハ雄ノ鱗赤色ヲ呈ス湖岸河邊至ル處ノ水底ニ棲息ス夏季ニハヨク水滴アル苔生ノ水面上ニ攀登

吸着セルヲ見ル瀬田附近勢多川ニ殊ニ多シ六月頃産卵シ九月頃ニ至レハ体淡黒色ヲ呈シ長五分餘トナリテ年ニヨリ群ヲナシ帶狀ニ連續シテ沿岸ニ沿ヒ内湖河川ニ沂上シ來ルコトアリ(俚俗之レヲ暴風ノ兆トナス)之レヲ「うろり」ト呼ビ通路ヲ堰キテ別ニ細流ヲ作り篩ヲ受ケテ捕獲ス成魚ハ魴筥ニ入り又叉手網ニテ捕獲ス産額少ナシ

## うろり

方言 ざり(犬上郡地方) うろり(高島郡地方)

体長一寸ニ滿タス体帶黃淡褐色ニシテ淡黒色ノ横紋アリ眼球極メテ黒シ外湖五尋内外ノ砂泥質ノ水底ニ棲息ス産卵成長明ナラヌ九月以後冬季間ヲ漁期トス主トシテ鈔網ニテ混漁セラレ(之レヲ主トスルモノヲ「ゴリ曳」ト云フ)又氷魚網ニ入ル一回數石ヲ獲ルコト往々アリ年々一萬貫以上ヲ漁獲スルモ價廉ニシテ美味ナラス飴煮ニ製ス

## どんこ、杜父魚

*Mogurnda obscura* (Temminck & Schlegel)

方言 どんこ、どーまん、ねんこ、いしぶし、どすまん、どろぼ、ちぢむこ

体長四寸内外ヲ普通トス湖岸到ル處ノ砂泥質水底ニ棲息シ小魚、蟲類ヲ捕食ス六月頃産卵ス魴筥ニ入ルモ多カラス

## かぢか

*Cottus pollux* (Günther)

方言 かぢか、ぶぐ、ねこせ、たけそん

体長三寸内外ヲ普通トシ湖岸河川至ル處ノ水底ニ棲息スルモ清冽ナル水ヲ好ム河川又ハ湖岸泥底ニアルモノハ体淡褐色ヲ呈スルモ外湖細砂底ニ棲ムモノハ体黄色ヲ帶ブ小魚及昆蟲類ノ幼蟲ヲ多食ス四月頃礫石底又ハ竹筒等ニ産卵ス臥穿竹筒ニ入りテ漁獲セラル、モ多カラス幼魚ハ氷魚網ニ混入ス

## なます、 鮠

*Parasilurus asotus* (L.)

方言 なまぎ、いわとこなまぎ、あかなまぎ

棲息場ニヨリテ体色ヲ異ニシ黄白色淡黄赤色淡褐色蒼黑色ノモノアリ班紋ヲナセルモノ亦多シ俗ニ大ナルヲ大鮠ト呼ビ別ニ腹部黄色ニシテ体稍細長ナルヲいわとこ鮠ト云ヒ体長一尺五六寸体量三百匁内外以上ニ成長セサルモノト唱フ  
河湖池沼至ル處ニ産スルモ多クハ沼湖泥質ノ水底ニ棲息シ大ナルモノハ外湖ノ深處ニ隠ル、湖北地方殊ニ多シ晝間ハ水底、水藻ノ間ニ潜ミ夜間活動シテ食ヲ索メ表層ニ近ク浮游スルコトアリ性極メテ貪食ニシテ他ノ魚族ヲ襲ヒテ飽クコトヲ知ラス冬季ハ水底ニ潜伏ス(体長四寸ノ鮠胃中長一寸七分ノ「ほて」ニ尾ヲ捕食シ又体長四尺ノ鮠ノ胃中二百匁ノ鮠一尾ヲ食セルヲ認メタルコトアリ)

産卵ハ五月六月ノ頃ニシテ沿岸葭生地又ハ水藻ニ産着ス一尾ノ卵卵數ニ萬粒卵ハ直径四厘翠色ヲ帶ブ六月下旬ニハ体長二寸内外ニ發育シ体赭褐色ヲ呈セル稚魚ヲ認ムルコトアリ二年目未ニハ体長七八寸ニ成長スルモノ、如キモ其後ノ經過明ラカナラス普通漁獲セラル、モノハ体長九寸五分体量三十七匁乃至体長一尺五寸体量二百匁ノモノ多シ、大ナルモノハ体量四貫匁ニ達スルモノ珍ラシカラス稀ニ十貫餘ノモノアリト傳ヘラル

琵琶湖ハ古來鮠ノ多産ト大ナルヲ以テ知ラル大ナルモノハ湖北地方ニ多ク洪雨ノ際河口附近ニ來游シテ漁獲セラル、コトアリ

明治四十四年姉川出水ノ際河口ニテ小系網ニテ漁獲シタルモノハ長四尺胴回り二尺二寸量三貫九百匁、長四尺胴回り一尺八寸量三貫二百匁、長二尺六寸胴回り一尺四寸量一貫八百二十匁ヲ有セリ

週年漁獲アルモ四月乃至十月ヲ漁期トシ五月乃至九月ニ最モ多シ魼ニ入ルモノヲ主トスルモ其他流シ釣又ハ夜間沿岸ニ多數ノ釣竿ヲ挿シ列ヘテ釣獲スルモノアリ餌トシテほて又ハもろこ類ノ活魚ヲ用ユ

活魚販賣ヲ主トシ蒲焼トシテ廣ク用ヒラル普通價格一貫匁七拾錢乃至壹圓

最近五ヶ年平均年産額 九、三三三貫 金額八、〇三三圓

各月漁獲高ノ割合%

一	月	一・一	五	月	一五・八	九	月	一四・〇
二	月	一・六	六	月	一・〇	十	月	六・一
三	月	二・二	七	月	一五・七	十	月	二・二
四	月	七・三	八	月	一九・三	十二	月	一・四

### ぎ、ぎ、 黃類魚

*Fluvidraco nudiceps* (Sauvage)

方言 きぎ、ぎんぎ

沼湖至ル處ニ産シ十尋以内ノ沿岸砂泥底ノ處ニ棲息シ又湖岸礫石、石垣ノ間ニ潜ム冬季ハ外湖ノ深底ニ移リテ餌ヲ求ム常ニ水底ニアルモ夜間ニ至レハ水面ニ近ク游泳シ餌ヲ逐フ性貪食飽クコトヲ知ラス他ノ小魚ヲ犯シ水底いさゞ、ゑび等ヲ逐ヒ又魚卵稚魚ノ存スル處ニ群泳シ來リテ饒害スルコト甚シ産卵期ハ五六月ノ頃ニシテ蕃殖力強ク十二月末ニハ体長一寸乃至二寸五分ニ成長シ十尋以上ノ水底ニアリ他ノ魚類ト交リ群棲シ冬期肥網又ハ鈔網ニテ混漁セラル、コト多シ、普通沿岸ニテ漁獲セラル、

モノハ体長六寸体重十五匁内外ノモノ多ク外湖ノ稍深所ニテ漁獲スルモノハ体長八、九寸体重三十五匁乃至四十匁アリ体黒色ヲ帯ブ、稀ニ体長一尺五寸ニ達スルモノアリト云フ

週年漁獲セラル、モ四月乃至九月ノ間盛漁期トス魼ニ入り又小糸網ニテ混漁セラル、モノ多ク、流シ釣ニテハ春夏ノ候ニハ蚯蚓ヲ餌トシ秋冬ノ候ニハ蝦ヲ餌トシ沿岸ニテ漁獲ス

鮮魚又ハ活魚販賣ヲ主トシ蒲焼トシテ廣ク用ヒラル肉白ク味淡白ナリ普通價格一貫匁四拾錢乃至七拾錢

最近五ヶ年平均年産額 一七、五二〇貫 金額 四、三五〇圓

月別漁獲高割合%

一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
二・二	五・二	三・〇	七・六	二・二	一・六	二・七	一・三	八・一	五・二	二・六	三・八
五	六	七	八	九	十	十	十	九	十	十	十
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月

あかなます

*Ictalurus reini* (Hirayama) 方言あかなます、あかりこ、ト稱ス河溝細流ノ泥底ニ棲息ス体赤褐色ニシテ

二寸内外アリ少ナシ

どぜう、泥鰌

*Misgurnus anguillicaudatus* (Amur)

方言 どぜう

湖岸池沼、河溝、水田、到ル處ニ産ス常ニ水底ニアリ泥中ニ潜ミ水底蟲類ヲ捕食シ時々水面ニ浮ミテ空氣ヲ呼吸ス雄ハ背鰭ノ兩

側ニ小ナル肉瘤アリ胸鰭長ク先端尖ルモ雌ハ肉隆ナク胸鰭亦短シ夏季産卵シ十月末ニハ二寸内外ニ成長セルモノヲ見ル普通体長三寸乃至五寸ニ成長シ稀ニ六寸餘ニ達スルモノアリ冬季ハ泥中ニ深く蟄伏シテ冬眠ス沿湖ヨリモ陸上水面ニ多産シ蒲生郡最モ多ク次テ甲賀、愛知、野洲、栗田、犬上ノ各郡トス盛夏ノ候鮪抄ヒ、筥ニテ漁獲ス又淺所ニアルモノハ夜間靜止セル頃ヲ見計ヒ箸又ハ缺ミニテ捕獲スル處アリ活魚ノ儘籠ニ入レ京坂地方ニ販賣スルモノ多ノ普通一貫匁價格五拾錢乃至八拾錢最近五ヶ年平均年産額 二四、四九五貫 金額 一一、五三九圓

**しまどぜう** *Cobitis bivaie* (Jordan & Snyder). 又たかのはどぜうト云フ頭側扁シ体側ニハ數條ノ黒線アルモノアリ及小圓形黒點相並列シテ虚線ヲナセルモノアリ体長三寸内外アリ沿湖到ル處ニ産シ沿岸沙泥底ノ處ニ多ク六月頃産卵期ニハ群カリテ細流ニ入ル魼ニ入りテ漁獲セラル需用少ナシ

**あゆもどぎ** *Hymenophysa curta* (Temminck & Schlegel). 方言うみどぜうト稱ス沿岸泥底ノ處ニ棲息シ内湖ニ多シ体蒼黒色ニシテ紅青色ノ彩色アリ体長五寸餘ニ達ス魼ニ入ルコトアルモ少ナシ

**めくらどぜう** *Lefua eelgonia* (Jordan & Richertson). 方言めくらどぜうト稱ス頭扁ク体淡褐色ニシテ小黒點散在ス体長二寸餘沿岸及河溝ノ泥中ニ棲息ス多カラス

**はりうを** *Grasterosteus cataphractus* (Pallas). とげうをト云フ 方言はりうを、はりんこ、かばさば、はりんぎよトモ稱ス水清キ河溝水藻ノ間ニ棲息ス体長二寸内外ニシテ背ニ二本ノ棘アリ鰭棘鋭シ六月頃産卵期ニ至レハ自ヲ水藻川岸ニ巧妙ナル圓筒形ノ巢ヲ構ヘテ此入ニ産卵シ雄ハ其巢ヲ守ルヲ以テ博ク知ラレタル種ナリ湖東方面ノ河溝ニ多シ

**やつめうなぎ** *Launipetra planeri* (Bloch). 方言やつめ、すなやつめ、ト稱ス口ハ吸盤狀ヲナシ七個ノ鰓孔ヲ有ス普通成体徑二分ニ近ク体長五寸内外アリ沙泥底ノ河溝ニ棲息シ春季三、四月ノ頃沙底ノ細流中ニ群集セルヲ見ル漁獲スルモノナシ

附

あび、蝦

Palaeonou, Ap.

湖中數種ヲ産スルモノ、如キモ今調査ヲ欠ク

沿湖到ル處ニ産シ棲息所ハ沿岸ヨリ十數尋ノ湖底ニ及フ沿岸ニテハ魴、氷魚網ニ入ルモノ最モ多ク湖南地方ニテハ冬季特ニ空ヲ使用シテ捕獲ス、數尋以上ノ湖底ニアルモノハ秋冬ノ候紗網ニテ混漁セラル周年漁獲アリ生鮮ノ儘販賣スルモ冬季ニハ佃煮ノ原料トシテ東京地方ニ出シ春夏ノ候ニハ鹽煮トシ夏季ニハ乾燥シテ縣内山間地方及丹波地方ニ販賣スルモノアリ又飴煮ノ原料トナス普通價格一貫貳拾錢乃至參拾五錢

あびノ年産額ハ小鮎ト相匹敵シ金額亦五萬圓ニ達ス近來年々漁獲ヲ増加シ湖ノ生産水族中重要ナル位置ヲ占メ其幼蟲、成体共ニ他ノ魚類ノ食餌トナリ多大ノ營養ヲ附與セルコト此右ニ出ツルモノナカルヘシ詳細ハ他日調査完了ノ日テ俟チ此ニハ生産狀況ヲ記スルニ止ム

最近五ケ年漁獲高

明治	四十二年	四十二年	四十二年	四十二年	大正	元年	二年
	六、八二八	八、二五〇	六、九三一	九、一三五	一六、九〇二		
	三三、〇九一	三七、八六三	三八、〇五九	五一、五七〇	八四、九〇七		
	金	額					

月	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十	十
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
月別漁獲高割合%	四・七	四・八	四・七	六・〇	一三・〇	一五・九	一〇・〇	四・八	四・〇	一一・四	二〇・七	一〇・〇
地方別	湖南地方	湖南地方	湖南地方	湖西地方	流具別	隊	地	地	沖	其		
漁獲高(五ヶ年平均)	一、二一六石	二、〇九〇	六、三〇三		流獲高(大正二年)							
						六、三六一石	?				一〇、二一一	四一九

### すっぽん、 鼈

*Trionyx sinensis* Wieg.

方言 どちら、どつち、どちがめ

既往ニアリテハ湖岸各所及余吾湖ニ多産シ産卵期母鼈ノ湖畔沙上及田圃ニ入りテ産卵スルモノ少ナカラサリシト傳ヘラル、モ市價漸ク上昇シ販路需用増加スルニ至リテヨリ稚兒母鼈ノ別ナク濫獲シテ著シク棲息數ヲ減スルニ至リ現今ニテハ中ノ海及野洲郡ノ湖岸ニ棲息シ又蒲生郡、犬上郡ノ湖岸ニテ時々捕獲セラル、コトアリ

湖産ノ天然種ハ背甲帯蒼暗黒色ヲ呈シ腹部黄色ヲ帯ヒ淡黒色ノ斑紋アリ体高厚ク光澤アリ体肥滿シ脂肪ニ富ミ品質最モ優良ナ

リ湖岸泥底淺所ニ棲息シ内湖ニ多ク水底蟲類其他ノ動物質ヲ捕食ス冬季ハ泥中ニ蟄伏シ春季温暖ノ季ニ入り游泳ヲ始メ屢々浮上シテ呼吸シ水面上ニ匍匐シテ背甲ヲ日光ニ曝ス人影音響ニ臆シ易ク直ニ水中ニ潜伏ス、産卵期ハ六月七月ノ頃ニシテ雌雄交尾シタル後數日雌ハ湖畔沙質ノ陸上ニ這ヒ上リ沙土ヲ堀ルコト五六寸此内ニ産卵シ再ヒ土ヲ覆ヒ湖中ニ去ル早朝ヨリ午前ノ間ニシテ一回十顆乃至三十顆ヲ産シ十數日ヲ經テ三回乃至四回産卵シ一頭産卵數五十顆乃至七十五顆内外トス天然産卵場ハ中海湖岸ニ多ク烏及鼯、むじなニ害セラル、コト少ナカラズト云フ卵ハ白色圓形ニシテ金柑大アリ五、六十日ニシテ孵化ス孵化兒ハ壹錢銅貨大アリ直ニ湖ニ入りテ成長ス、天然ニ産下シタル卵ハ丁重ニ取扱ヒ運搬シテ良ク孵化セシムルコトヲ得、本場ニテ飼育シタルモノ、産卵成長度次ノ如シ

産卵期六月中旬ヨリ七月中旬ノ間

孵化期八月下旬ヨリ十月中旬ノ間

孵化率七割六分乃至八割四分

孵化 當時	甲長	一オ	體重	一オ	乃至	甲長	一オ二分	體重	一オ二
孵化後七ヶ月	同	一、七五	同	五、〇	乃至	同	二、〇五	同	八、〇
同 十九ヶ月	同	二、六〇	同	一五、〇	乃至	同	二、八〇	同	二五、〇
同 二十六ヶ月	同		同	四、〇〇	同	同	六〇、〇	同	一一〇、〇
同 三十八ヶ月	同		同	五、五〇	同	同	二〇〇、〇	同	二二〇、〇
同 五十ヶ月	同		同	六、〇〇	同	同	二六〇、〇	同	二六〇、〇
同 七十ヶ月	同		同	六、七〇	同	同	二六〇、〇	同	二六〇、〇

普通捕獲セラル、モノハ甲長五寸以下一寸五分内外ノ三年兒以下ノモノ多ク産卵期陸上ニアルモノヲ捕獲スルハ甲長七寸体重四百匁内外ノモノヨリ甲長九寸餘体重七百五十匁内外ノモノ多ク時ニ甲長一尺一寸体重一貫二百匁餘ニ達スルモノアリ

六月乃至九月ノ候ニ多ク捕獲セラレ魼、大網、筥、ニ入り又流シ釣ニ罹ル産卵期陸上ニアルモノハ隙ニ乗シ轉倒シ手捕リトナ

スコトアリ、筥ニ入りタルモノハ窒死スルモノ多ク鈎ニ罹リタルモノハ捕獲後斃死シ易ク蓄養ニ耐ヘス  
肉ハ滋養ニ富ミ美味ナリ専ラ京阪地方ニ販賣ス普通價格一貫匁ニ付五十匁乃至三百匁ノ品拾六圓内外、五十匁以下ノモノ拾貳  
圓内外、五百匁以上ノモノ拾圓乃至五圓トス  
最近五ヶ年平均年産額 一、一九四圓

## 二、移殖シタル魚類

從來琵琶湖ニ産セサル種類ヲ移殖シテ其蕃殖ヲ試験シ又盛ニ蕃殖ヲ來セル種類少ナカラス是等ハ白ラ間生種ヲ生シ或ハ地方的變異ヲ來スモノナキニアラサルヘキモ今明ナラス從來試験的ニ行ヒタル種類及其狀況ヲ記シテ後日ノ參考トス

### 一、さけ *Oncorhynchus Keta walbaum.*

明治十六年ヨリ二十年ニ至ル五ヶ年間及二十七年ノ六回ニ北海道、新潟縣及福井縣ヨリ累計一〇二、七五〇粒ノ發眼卵ヲ移殖シ知内及北舟木漁業者組合及西川養魚場ニテ孵化放流シタルモノニ係リ當時放流後數年ニシテ捕獲セラレタル壯成魚少ナカラサリシト云フ

### 二、いわな *Salvelinus pluvius (Hilgendorf).*

明治十九年ヨリ二十三年ニ至ル五ヶ年間日光中宮祠湖ヨリ發眼卵ヲ移殖シ知内漁業組合及近江水産組合ニテ累計一三〇、六〇五尾ヲ孵化放流シタルモノニ係リ爾後年々湖ニテ漁獲セラル、モノアリ現今往々湖ニテ捕獲スルモノアルハ是等ノ子孫ニハアラサルカ

### 三、「カバチエツポ」(姫鱒) *Oncorhynchus nerka (Walbaum).*

原種ハ北海道阿寒湖ニ産ス現今東北地方及北海道ノ山間ノ湖水ニ産シ冷水ヲ好ミ浮游生物ヲ主ナル食餌トシ三年ニシテ体長約一尺二寸体重百五十匁四年ニシテ体長一尺五寸体重二百五十匁内外ニ成長シ肉紅ク美味ニシテ湖水養殖種トシテ重ンセラル明治四十一年ヨリ北海道支笏湖産及秋田縣十和田湖産ノ發眼卵ヲ移殖シ本場附屬知内孵化場ニテ孵化放流シタル魚兒次ノ如シ

四十二年五月放流數

一八一、七五九尾

四十四年四月放流

二六五、八〇〇尾

四十三年四月放流數

二七四、〇〇尾

四十五年四月放流

二八八、五〇〇尾

放流後捕獲セラル、モノアルモ未ダ成熟魚ノ群來セルモノヲ見ルニ至ラス大正三年十月三十一日高島郡知内人通川ニテ獲タル

雄魚ハ次ノ如ク成長著シキヲ見ル

雄 体長 一、六二 体高 四、一 体重 三、〇四

四、「レインボウトラウト」(虹鱒) *Salmo irideus* Gibbon.

原種ハ北米合衆國カリフォルニア州内山間ノ溪流ニ産ス米國內各地方ノ河湖又ハ千八百八十年頃歐洲ニ移植シテ好結果ヲ得本邦ニテモ明治十年ノ頃内務省勸農局ニテ移植シタルコトアリ背部藍色腹部銀白色ヲ呈シ体ノ背側部及奇鱗ニハ多數ノ小黑點散在シ且体側ニハ幅廣キ一條ノ赤色縱條アリ水温三度乃至二十一度迄ノ水中ヲ好シ棲息スレトモ急流中ニアリテハ良ク二十九度ノ水温ニ耐ユ原産地ニテハ三百夕乃至一貫二百夕ニ成長スルモノアリ産卵期ハ地方ニヨリ異ナリ十一月初旬ヨリ翌年五月ノ間トス同州ニテハ二月ヨリ五月ノ間ニ産卵ス孕卵數ハ五百粒及至三千粒ニシテ年齢ニヨリ異リ良ク連年産卵ヲナス本種ハ成長速ニシテ比較的高水温ニ耐ヘ小ナル池中ニテ飼育スルコトヲ得母魚ハ池中ニテ良ク成熟シ連年産卵シ且氣候ノ異ナリタル土地ニ同化シ易ク從來養殖魚族中ノ優良種トシテ賞揚セラレ

即本縣ニ於テ明治四十四年五月農商務省水産局ノ斡旋ヲ受ケテ之レカ移植ヲ謀リ米國政府ヨリ寄贈ヲ受ケ最近前後二回ニ八萬粒ヲ移植セリ原種ハ北米カリフォルニア州ホーンブルーク養殖場ノ飼育ニ係ル發眼卵ナリ

第一回 明治四十五年四月二十五日桑港出帆汽船搭載五月十三日午前十時神戸港到着十四日午後二時三十分本場ノ附屬小松養魚場ニ收容ス卵數四萬粒五月二十三日全部孵化ス孵化魚兒、三七五七四尾(輸送中欠損卵數四六三粒)

第二回 大正二年五月三日桑港出帆汽船ニ搭載(卵ハ四月一日及四月四日ノ採卵ニ係ル)五月廿一日午後二時橫濱港到着廿二日午後五時本場附屬小松養魚場ニ收容ス卵數四萬粒六月三日全部孵化ス孵化魚兒三六、五九〇尾(輸送中欠損卵數二四二粒)孵化魚兒ノ成育シタルモノ、内七月ニ入り湖ニ放流シタル數ハ前後合計四六、九七九尾其他ハ專ラ母魚養成ノ目的ヲ以テ池中飼育試験ヲ行ヒタリ其經過ヲ概括スルニ成長ハ湖産在來種ニ比シ著シク優良ニシテ健全能ク水温其他ノ外界ノ變化ニ堪ヘ攝餌強

ク池中飼育魚ハ三年ニシテ雌雄共ニ成熟スルモノアリ四年目ニハ大部分成熟ス産卵期ハ三月初旬ニ始メ下旬ニ終ル成熟期ニ入レハ体色稍鮮麗トナリ褐色ヲ呈シ雄魚ノ吻端屈曲スルハ他ノ鱈族ト同一ナルモ變態ノ程度比較的少ナキヲ見ル成長度次ノ如シ

調査月日	孵化後	平均	体長	平均体高	平均	体重
元年八月 六日	二ヶ月半	一、五九	寸	〇、三七	〇、四六	
十月二十一日	五ヶ月	二、五〇		〇、五〇	一、四〇	
十一月二十六日	六ヶ月	三、六〇		〇、六〇	二、〇〇	
二年三月二十九日	十ヶ月	五、九〇 (最大)	七、〇〇	一、三〇	一四、二〇 (最大)	四〇、〇〇
五月 七日	十一ヶ月半	六、〇〇 (同)	七、四〇		一五、七〇 (同)	四三、〇〇
七月十一日	十三ヶ月	六、二〇 (同)	八、四〇		一九、三〇 (同)	五〇、〇〇
十二月七日	十七ヶ月半	大ノ部 九、四〇 (同)	一二、五〇		一六、〇〇 (同)	一九四、〇〇
		小ノ部 六、〇〇 (最小)	四、一〇		一四、六〇 (最小)	六、〇〇
三年二月二十一日	二十ヶ月	大ノ部 九、七〇 (最大)	一三、八〇		一四、〇〇 (最大)	二四〇、〇〇
		小ノ部 八、〇〇 (最小)	五、一〇		五〇、〇〇 (最小)	一四、〇〇
六月十日	二十四ヶ月	一、一〇〇 (最大)	一六、〇〇		一〇三、〇〇 (最大)	二五〇、〇〇

此期間大小ヲ區別シテ分養ス

大正三年三月一日三年魚中雌九尾雄二十尾ノ成熟魚ヲ見大正四年三月六日四年魚中雌二十六尾雄二十一尾ノ成熟魚ヲ見ルニ至リ探卵ヲ行ヒタリ

体長	年	卵	魚
一二、五	三	一、八六〇 <small>尾</small>	雌
一二、〇	同	一、九六〇	同
一〇、〇	同	一、〇八九	同
一一、五	同	一、八二八	同
一二、五	四	一、二二五	一、二二〇 <small>尾</small>
一一、五	同	一、〇四〇	一、〇四〇
一〇、八	同	八二〇	八二〇
一〇、〇	同	七二〇	七二〇

移植シタル魚類

雌	(最大)	一三、五	雄	
同	(最小)	六、〇		
同	(平均)	一〇、一		
平均卵數		一、一二五	平均卵數	
			八三一	

五「ブルークトラウト」(河鱒) *Salvelinus fontinalis* Mitchell.

原種ハ米國內地ノ清冽ニシテ水温低キ谿流中ニ産ス米國內各地ニ移植シ又千八百七十九年獨乙ニ移植シ好結果ヲ得明治三十三年日光中宮祠湖湯河ニ移植シ現今蕃殖ス体綠色ヲ呈シ背鰭及背面ニハ暗綠色ノ雲影斑紋アリ体側ニハ數多ノ白色ノ圓形斑点散布シ其間ニ赤色ノ小点交ハル虹鱒ヨリモ清冽ナル冷水ヲ好ミ原産地ニテハ普通三百六十寸ニ成長シ秋季産卵シ一尾孕卵數五百粒乃至千五百粒アリ良ク連年産卵ヲナス本種亦成長速ニシテ母魚ハ池中ニテ成熟シ連年産卵シ養殖種トシテ優良ナルモノト認メラレ歐米ニテ盛ニ池中養殖行ハルコト虹鱒ニ同ジ

前種ト同ジク明治四十五年米國政府ノ寄贈ヲ受ク發眼卵二萬粒ヲ移植シタルモノニシテ原種ハ北米合衆國コロラド洲リードウキル養殖場飼育ニ係リ明治四十五年一月十六日シヤドル港出帆汽船ニ搭載シ二月一日午前七時横濱港ニ到着三日午後五時三十分本場知内孵化場ニ收容ス卵數二萬粒(輸送中欠損卵六百八十粒)二月二十九日全ク孵化ヲ終リ孵化魚兒一八、九二一尾ヲ得成育シタルモノハ四月中旬以後高島郡西庄村大字石庭溜池坂田郡醒ヶ井川及同郡宗谷養魚場ニ放養シ親魚ノ養成ヲ謀レリ其流出シタルモノハ坂田郡宗谷川及高島郡知内川支流石庭川ノ上流ニ現存ス池中飼育ニカ、ル經過ヲ見ルニ成長速ニシテ三年ニシテ雌雄共ニ成熟スルモノ多ク四年目ニハ全部成熟ス成長次ノ如シ

調査月日	孵化後	平均	休	長	平均体高	平均	休	重
四十五年四月十八日	二ヶ月	〇、七五			一	〇、〇四		
六月二十七日	四ヶ月	二、四〇			〇、五五	一、五〇		
元 年八月二十三日	六ヶ月	四、六〇			〇、九〇	七、四〇		

十二月二十二日	十月	六、四〇	一、五〇	一三、〇〇
年三月十三日	十二月	七、六〇 (最大)	一、九〇	五四、二〇 (最大)
九月十一日	十月	九、八〇 (同)	一、三〇	一〇七、〇〇 (同)
年一月十一日	十一月	一〇、九〇 (同)	一、四〇	一五九、四〇 (同)
十一月二十五日	十一月	一二、八〇	三、一六	二二二、〇〇

三年魚ノ成熟シタルモノハ大正二年十一月二十六日及十二月二十四日ニ四年魚ノ成熟セシモノハ大正三年十一月三十日採卵ヲ行フニ至レリ体形次ノ如シ

性別	平均形	三年魚			四年魚		
		長	重	卵數	長	重	卵數
雌	最大形	一三、五	二六〇、〇	一、八三〇	一三、〇	二八〇、〇	一、八二〇
同	最小形	一〇、〇	一二〇、〇	一、〇一六	一一、五	一七〇、〇	一、二六〇
同	平均形	一一、〇	一四二、〇	一、二七四	一二、八	二二五、〇	一、五四〇
雄	最大形	一四、〇	二七二、〇	一、	一三、五	二二〇、〇	一、
同	最小形	八、五	一〇〇、〇	一、	一二、〇	一六〇、〇	一、
同	平均形	一一、九	一九四、〇	一、	一二、九	二〇一、〇	一、

六、わかさぎ(公魚) *Hypomesus oitatus* (Tail.)

ちか、又ハあまさぎトモ稱ス秋田縣八郎潟茨城縣霞ヶ浦、島根縣宍道湖、福井縣三方湖等ニ多産ス本來海水ノ通ズル湖ニ産シ春季一月下旬以後三月ニ亘リ湖岸又ハ河流ニ入りテ水藻又ハ砂礫底ニ産卵ス二年ニシテ成熟シ三年魚トシテ生存スルモ多カラズト云フ体長約四寸内外ニ達ス

明治四十三年一月始メテ福井縣三方湖産ノ卵ヲ移植シ本縣附屬知内孵化場ニテ孵化放流シタルニ其結果翌年三月ニ入り堅田地方ニテ壯成魚ノ漁獲ヲ見ルニ至リ爾來年々三方湖及霞ヶ浦、宍道湖ヨリ卵ヲ移植放流セルニ其結果顯著ナルヲ以テ現今放流ヲ

繼續シ天然蕃殖ノ時期ニ達セシメンコトヲ期シツ、アリ放流數及經過次ノ如シ

放流時	原產地	卵數	孵化放流セシモノ約五割五分	知内川放流
四十三年四月	三方湖産	約 二九二、〇〇〇粒	約 六割	同 上
四十四年四月	同	約 二、四三二、五〇〇	約 六割	同 上
大正二年四月	霞ヶ浦産	約 二、四七〇、〇〇〇	約 三割	木濱附近
大正三年四月	霞ヶ浦及三方湖	約 三、一〇〇、〇〇〇	約 四割	木濱及中ノ海、大藪
大正四年三月	霞ヶ浦及宍道湖	約 六、六〇〇、〇〇〇	同	木濱及中ノ海、大藪、雄松内湖

壯成魚ハ四十四年三月以來知内川、雄松崎氷魚網、堅田魴、和邇氷魚網、木濱附近魴、及笠、小糸網、中ノ海魴、犬上川尻小糸網、松原内湖魴等ニ分布シ漁獲セラル、ニ至リ成長頗ル良好ナルヲ見ル現今漁獲ヲ認メラル、ハ七月末以後ニシテ三月ニ入リ成熟魚ノ沿岸魴ニ入ルモノ多シ漁獲魚ノ体形次ノ如シ

大正三年七月二十四日	中ノ海漁獲	体長	二寸二五	乃至	二寸三
同 八月三十一日	同 上	同	二、三〇	乃至	二、七 平均 二、五〇
同 二月二十七日	木濱漁獲	同	四、四〇	乃至	四、七 平均 四、五三
同 三月十日	松原内湖漁獲	同	四、五〇	乃至	四、六
同 三月十二日	知内川漁獲	同	四、九〇		

七、革鯉及鏡鯉

(革鯉ト本邦種トノ間生種)

革鯉ハ鯉ノ變種ニシテ原種ハ獨乙ニ産ス背鰭及臀鰭尾鰭ノ基根ニ一列ノ鱗ヲ有スル外全体鱗ヲ有セス体高ハ本邦産飼育種ニ比シテ高ク成長良好ナリ明治三十七年鏡鯉ト共ニ農商務省水産講習所ニ到來シタルヲ始メトシ三十九年同所ニ於テ革鯉ト本邦種鱗鯉トノ間ニ生シタル鏡鯉ノ稚魚七十尾ノ分與ヲ受ケ同年十月本場ニ移植シタルモノニシテ明治四十二年始メテ産卵ヲ行ヒ革鯉ハ同四十年分與ヲ受ケ四十三年始メテ産卵シ爾來年々蕃殖ヲ見ルニ至レリ本種ハ未ダ湖ニ放流セシコトナキモ稚魚ハ一般當

業者ニ配布シ現今縣下各地ニ於テ産卵孵化ヲ行ヒ盛ニ増殖ヲ來シ流出シテ湖ニ入り壯成シテ漁獲セラル、モノヲ見ルコト往々アリ本邦種ニ比シ成長ノ良好ナルハ左ノ本場ニ於ケル飼育試験ニヨリテ知ルコトヲ得（茲ニ鏡鯉ト云フハ前述ノ如ク雜種ナルモ鱗根及側線上ニノミ鱗ヲ有シ形態相似タルヲ以テ本場ニテ此名ヲ仮用セリ）

鏡鯉成長狀況（体長ハ吻端ヨリ尾根迄）

經	過	体長	体高	体重	備考
生後	六ヶ月	二、八〇	—	三、六	三十九年十月移植當時
同	十五ヶ月	五、〇七	二、〇五	四五、二	四十年七月
同	十八ヶ月	五、七一	三、二六	一五五、八	同 年 十月
同	二十五ヶ月	九、七九	三、五〇	二三〇、〇	四十一年五月
同	三十一ヶ月	一二、四八	四、一八	四三三、〇	同 十一月

鏡鯉ト鱗鯉（大和種）トノ成長比較（体長ハ吻端ヨリ尾根迄）

時期	最大	最小	平均	最大	最小	平均	最大	最小	平均	最大	最小	平均
四十年七月	六、四	五、二	五、七	二、二	一、九	二、〇五	五、二〇	三、二	三、二	六、六	五、〇	五、〇
二十六日放養	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
十月四日調査	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

### 三、蕃殖保護

水族ノ蕃殖ヲ保護シテ湖ノ生産益ヲ維持増進センカ爲メ從來官民ノ間ニ腐心劃策セラレシ事蹟尠ナカラス然レモ多クハ當業者ノ放漫過酷ナル漁業行爲ヲ取締リテ制限禁止ヲ加ヘ以テ蕃殖ノ保護ニ努メ其間魚鯿ヲ放流シテ増殖ヲ企圖セシモノナキニアラサルモ尙規模小ニシテ大勢ヲ動かスニ至ラザリシナリ明治四十一年始メテ十一年計劃ヲ以テ琵琶湖水産經營ノ計ヲ定メ天然産魚族ノ維持増進ヲ謀ルト共ニ積極的ニ價値アル魚族ノ魚鯿放流ヲ計劃シテ漁利増進ノ計ヲ立ツルニ至リ茲ニ湖ノ漁業上ニ一新紀元ヲ劃スルニ至レリ今既任ニ於ケル沿革ヲ尋ネテ將來湖ノ水産經營大成ノ資ニ供センカ爲メ其概要ヲ畧叙スルコト次ノ如シ幕政時代沿湖部落ノ各藩ニ分屬セシ當時ニアリテハ漁業上統一セル制度ナカリシト雖モ多クハ耕地ノ多寡、生計ノ難易等其地ノ事情ヲ酌量シ魼築等ノ數ヲ限リテ之ヲ許シ大網、中網、小糸網、胴曳網、沖曳網、流シ釣等主ナル漁業ニ就テハ之ヲ稼キ得ヘキ漁村及漁場、漁船ノ數ヲ限定シ年々浦稅年貢ヲ納メシメタルモノニシテ此ニ特權慣行ヲ維持スル爲メ共吟味ヲナシテ密漁濫獲ヲ行フモノ少ナク加フニ神佛ノ關係上殺生禁斷ノ場所ヲ存シ宗教上ノ信仰力ニヨリテ其禁制嚴格ニ行ハレ藩主ノ城廓ニ近キ湖面ニハ一般漁夫ノ立入ルヲ禁シ犯スモノハ酷罰ニ處セラル、諛ノ存スルアリ殊ニ運輸交通ノ便普ネカラスシテ販路狭小ナリシヨリ漁業ニ從事スルモノ亦少ナク是等ノ事情ハ自ラ漁業上ノ弊害ヲ防止シテ良ク魚族ノ蕃殖ヲ維持シ又嚴密ナル保護ヲ加フルノ必要ヲ生セザリシモノナリ維新當時ニ存セシ禁漁地下ノ如シ

滋賀郡石山村字寺邊ノ内寺津地先勢多川

石山寺々領ニテ禁漁

同 郡膳所村字錦ノ内木ノ下溪

天台宗靈照院地先ナルヲ以テ禁漁

同 郡滋賀村地先

園城寺領殺生禁斷地

同 郡下坂本村地先

延曆寺領殺生禁斷地

滋加郡比叡辻村地先

同 郡雄琴村地先

同 郡小松村鶴川白鬚神社附近地先

蒲生郡長命寺地先

犬上郡古澤村清涼寺地先

東淺井郡竹生島周圍、八丁以内

滋賀郡膳所城廓濠及地先湖水直徑百間以内

犬上郡彦根城廓ニ近キ湖面

高島郡大溝分部候治所ノ近傍内湖

同 郡朽木ノ領地麻生村内麻生川ハ漁業停止ノ場所タリ

以上

滋賀院領殺生禁斷地

輪王寺領殺生禁斷地

白鬚神社ノ近傍ナルヲ以テ殺生禁斷地

古來漁業ヲ禁シタルモ由來明ナラス

元祿七年ヨリ漁業停止

殺生禁斷地

藩主遊漁地トシテ一般漁業ヲ禁セラル

藩主ヨリ漁獵ヲ禁シタリ

漁業停止

明治維新ニ至リ萬般ノ制度改廢ニ際シ漁業制度亦變革ヲ來シ殺生禁斷地ハ解除セラレ魼ノ新設構造ノ擴大ヲ見、主ナル漁業ノ限定ヲ廢シテ自由ニ稼キ得ルニ至リシヨリ漁業ニ從事スルモノ日ニ増加シテ漁具漁法ノ精巧ヲ來シ酷捕濫獲是レ事トシ明治十二年頃ニハ漁族ノ減少漸ク注意ヲ惹クニ至リ蕃殖保護ノ策ヲ講スルノ必要ヲ見ルニ至レリ爾來布達縣令ヲ以テ漁業ニ關スル各種ノ禁止制限事項ヲ規定シ或ハ水産保護令次テ管内聯合水産區ヲ設ケテ規約スヘキ事項等ヲ發令シ民間ニ於ケル蕃殖ノ保護魚苗放流ノ企劃ヲ促シ一面ニハ縣設鮭養魚場ヲ設クル等年ヲ經テ民間施設亦漸ク備ハルニ至リ此間官民一致蕃殖ノ保護ニ努力セシモノ數フルニ違アラスト雖モ世運ノ推移ニ伴ヒ漁業者ノ數日ニ増加シ漁具漁法ハ逐年精巧酷密ヲ極メ交通ノ便漸次開ケテ需用ノ途増加スルニ從ヒ密漁行ハレ酷漁ノ弊日ニ助長シ魚族ノ蕃殖ヲ傷フコト益々甚シキニ至レリ今此間ニ於ケル主ナル施設事

項ヲ見ルニ

明治七年六月

湖川漁獲藻草取規則並ニ稅則ヲ定ム

十一年九月

坂田郡枝折村ニ縣設鮭養魚試驗場ヲ設置ス

十二年

同 郡上丹生村穗谷ニ養魚試驗場ヲ移ス

同年七月

湖川漁魚採藻規則ヲ定ム(甲第七十四號)内湖入江ノ特例及築隔年許可ヲ規定ス(第九條)

同年七月

賦還減法ヲ定メ明治十六年ヲ限リ停止スルコトヲ布達ス(甲第七十五號)

同年七月

本年ヲ限リ「オホヤ」漁ヲ禁止ス

十四年十二月

賦還減法及築隔年免許ニ對スル特例ヲ定ム

十五年十月

近江水產共同會ヲ設ク(近江水產組合ノ前身ナリ)

同 年

同年高島水產蕃殖會ニテ高島郡ニ於ケル漁具改正條目及五ヶ所ノ禁漁場ヲ設ク

同 年

高島郡北舟木ニ私設養魚場(鮭人工孵化放流)ヲ設ク

十六 年

高島郡知内ニ私設養魚場(同上)ヲ設ク

十七年九月

湖川漁魚採藻規則ヲ定ム(甲第九十七號)管内聯合水產區ヲ定メ規約ヲ定ム(ヘキコトヲ規定ス(第二條)、始メテ賦還網ノ賣目ヲ制限

同 年

シメノ間敷場所及濱柴、石濱、礫、流シ箕、ハ明治十二年以後ノ許可セル場所ニアラサレバ許可セサルコトヲ定ム(第拾二條、第二十條)

同 年

近江水產共同會ヲ近江水產同業會ト改稱シ同時ニ各郡ニ水產取締規則ヲ設ケ水產取締委員之レヲ管掌ス

十八 年

穗谷養魚場ヲ民有ニ移シ四川養魚場ト稱ス

二十一年一月

湖川漁魚採藻規則ヲ定メ(縣令第十六號)第一類(賦、築、濱柴、石濱、張網、流シ箕)ノ免許個所ヲ定ム(第九條)、漁獲禁止魚類ノ

同年一月

寸法ヲ定ム(第二十五條)

同 年

水產組合規則ヲ定ム(縣令第十八號)認可ヲ經テ近江水產組合ヲ設置ス、近江水產組合ニテ鮭放流ヲ行フ(知内及北舟木養魚場ニ托シ

二十四 年

近江水產組合ニテ鯉苗ノ放流ヲ行フ二十七年迄繼續ス

二十六年一月

勢多川筋ノ石濱ヲ停止ス(訓示第一號)

二十九年九月

大洪水、九月十二日湖ノ水位一丈二尺三寸五分ニ達ス橋有ノコトナリ(零點ハ大坂天保山沖千滿平均潮位點ヨリ二百八十二尺二寸二六

ノ高サニアリ

三十一年 近江水産組合養鯉場ヲ犬上郡福滿村大字平田ニ設ク

近江水産組合規則ニヨリ各郡ニ一個所宛ノ禁漁場ヲ設ケシメ縣ヨリ認可ヲ與ヘタルモノ十五個所アリ此頃ニ至リ全部完了ス

三十三年四月 滋賀縣水産試驗場ヲ犬上郡福滿村大字平田ニ設置ス

三十四年六月 近江水産組合ニテ知内養魚場ヲ借入レ縣費ノ補助ヲ受ケ鮭卵五十萬粒孵化放流ノ設備ヲナス

三十五年六月 湖川漁業取締規則ヲ定メ各般ノ禁止制限ヲ改ム(縣令第二十九號)是レ漁業法實施ニ伴フモノナリ

同年十月 近江水産組合養魚場ヲ野洲郡兵主村大字六條ニ設ケ鮭卵ノ孵化放流ヲナス

三十七年三月 湖川漁業取締規則ノ一部ヲ改メ縣設禁漁場ヲ定ム(縣令第二十五號)

三十八年 近江水産組合ニテ縣費ノ補助ヲ受ケ鮭兒ノ放流ヲ行フ四十年迄繼續ス

四十一年三月 滋賀縣漁業取締規則ヲ改正發布シ(縣令第十四號)取締ヲ嚴密ニシ濱榮、雜魚曳網、カチ網ヲ禁止ス

同年三月 滋賀縣告示第一號ヲ以テ十一年計劃事業ノ開始及取締規則ノ改正ニ伴フ注意ヲ諭告ス

同年四月 十一年繼續養魚湖水産經營ニ着手ス

同年四月 滋賀縣水産試驗場知内孵化場及彦根養魚場ヲ設置ス

四十二年四月 滋賀縣漁業取締吏員ヲ置ク

同年七月 琵琶湖水産物販賣組合組織成ル沿湖樞要ノ地五十三個所ニ魚揚場ヲ設ケ十一月一日ヨリ取扱ヲ開始ス

四十五年一月 滋賀縣漁業取締規則ヲ改正發布ス(縣令第一號)定置漁業漁籍ノ整理改廢ヲ行ヒ、特別漁業ノ漁籍ヲ定ム

### 保護制度

明治四十五年一月縣令第一號ヲ以テ改正發布セラレタル現行漁業取締規則中蕃殖保護ニ關スル要領及變革ノ概要ヲ摘記ス

## 一、禁漁場(第一條)

第一禁漁區 瀬田川洗堰ヨリ上流二百三十間

第二禁漁區 滋賀郡際川尻ノ南端ヨリ栗太郎草津川尻ノ南端ヲ見通シ及滋賀郡大正寺川尻ノ北端ヨリ栗太郎常盤村大字志那

ノ北端ヲ見通シタル水面ニ於テ各浮標ノ接合線内ノ水面

第三禁漁區

浦生郡島村伊崎(厄子岩)ヨリ愛知川尻ノ北端ヲ見通シタル線内ノ外湖水面

第四禁漁區

犬上郡芹川尻ノ南端ヨリ多景島ノ南端ヲ見通シ坂田郡筑摩川尻ノ北端ヨリ多景島ノ北端ヲ見通シタル線内ノ外湖水面

湖水面

第五禁漁區

伊香郡葛籠尾崎ヨリ高島郡大崎及竹生島ノ東北端ヲ見通シ高島郡大崎ヨリ竹生島ノ西端ヲ見通シタル線内ノ水面

面

第六禁漁區

東淺井郡田川カルベルト吐口ヨリ上流百八十四間三尺下流六十八間五尺

縣設禁漁場ハ明治三十七年三月縣令二十五號ヲ以テ始メテ追加規定セラレタルモノニシテ先是明治十五年ノ頃高島水産繁殖令ニテ同郡沿湖ニ五ヶ所ヲ設ケタル

コトアリシ明治二十一年近江水産組合設置後同組合規則ニヨリ各郡ニ一ヶ所宛ノ禁漁場ヲ設ケシメ縣ヨリ認可ヲ與ヘタルモノアリ明治三十七年ニ及ヒテ消滅セ

リ當時ノ組合禁漁場次ノ如シ

高島郡川上村大字深清水小字濱崎町二萬坪

東淺井郡大郷村大字南濱字平尾二萬坪同大字川道字濱塚二萬坪

犬上郡農田村大字大藪字寄洲地先二萬百五十坪

神崎郡伊庭村字伊庭洲地先中ノ海二萬千坪同栗見村大字栗見新田小字中葭地先外湖二萬坪

愛知郡稻村大字薩摩地先小字室戸外湖三萬坪同葉枝見村大字新海地先小字愛知川尻外湖三萬坪同村大字三ツ谷地先小字伏木外湖三萬坪

蒲生郡島村大字長命寺小字松ヶ崎地先二十七萬坪同安土村大字下豐浦地先小字中ノ海二萬二千五百坪

野洲郡中洲村大字吉川字濱ノ外地先ヨリ同村大字幸津川字大畷地先十萬坪

坂田郡入江村大字磯小字明王地内二萬坪同長濱町大字北船小字濱畑地先二萬坪

栗太郎常盤村大字志那字カキネ地先二萬坪

二、禁 漁 期

鮎ハ毎年九月二十四日ヨリ三十日迄、鯨鱈ハ毎年十一月一日ヨリ二十日迄左ノ河川及其川尻沖百間並ニ川尻ヨリ湖岸ニ沿フ

テ各二十間沖百間ノ區域ニ於テ之ヲ捕獲スルコトヲ禁ス（第二條）

眞野川、野洲川、和邇川、仁保川、愛知川、宇竹川、芹川、犬上川、天ノ川、姉川、余吳川、高時川、大川（伊香郡 鹽津村）

知内川、石田川、安曇川、鳴川

鮫網及鯰網ハ毎年四月一日ヨリ八月三十一日迄使用スルコトヲ禁ス（第四條）

明治四十三年四月、縣令第三十二號（取締規則ニ追加規定ス）（第二條）同時ニ大網四月一日ヨリ十月三十一日迄、鱒網五月一日ヨリ八月三十一日迄、冰魚網十一月一日ヨリ翌年三月三十一日迄、鮎網五月一日ヨリ九月十九日マテ此期間以外使用スルコトヲ禁シタルモ四十五年一月取締規則（縣令第一號）第十二條ニヨリ消滅ス

毎年五月十五日ヨリ七月三十一日迄、葭生水面ニ於テ魚類ヲ捕獲スルコトヲ禁ス但シ漁籍ニ於テ免許ヲ受ケタルモノハ此限リ

ニアラス（第六條）

毎年六月一日ヨリ七月三十一日迄、藻類ヲ採取スルコトヲ禁ス（第七條）

藻類ハ明治十二年七月甲第七十四號ニヨリ毎年六月一日ヨリ七月三十一日迄ノ間採藻泥ノ營業ヲ禁止セシニ始マル

前條ノ河川及其川尻沖百間並ニ川尻ヨリ湖岸ニ沿フテ左右各二十間沖百間ノ區域ニ於テハ毎年九月二十日ヨリ十月十四日迄

及十一月一日ヨリ十二月三十一日迄水中ノ砂礫ヲ採收スルコトヲ禁ス（第三條）

近來砂礫採掘増加セシヨリ魚卵保護ノ爲メ四十五年之レヲ定ム

### 三、漁獲禁止魚類

口先ヨリ尾端ニ至ル一尺一寸未滿ノ鰻八寸未滿ノ鯉、鮠、鯰、及五寸未滿ノ鮎並ニ三寸未滿ノ鯉ハ捕獲スルコトヲ禁ス、前項ニ違反シテ捕獲シタルモノハ之レヲ販賣又ハ所持スルコトヲ得ス（第八條）

二十一年一月始メテ鯉、鮠、鮎、鯰ノ四種ニシテ未ダ六寸（曲尺）ニ滿タサルモノ及五寸未滿ノ鯉ヲ捕獲スルコトヲ禁シ（第二十五條）同時ニ其實賣ヲ禁ゼリ、

### 四、使用漁具ノ制限

漁具ハ張網、舩、網舩、築、カッター築、網築、堰四手網、大地曳網、水魚地曳網、鮎地曳網、鮎曳網、及第二十一條ノ漁

業ニ要スルモノ、外之レヲ使用スルコトヲ得ス但シ一竿釣、専用漁業權、區劃漁業權ニ依ルモノ及特ニ知事ノ許可ヲ受ケタルモノハ此限リニ在ラス（第九條）

- |          |          |         |            |                 |
|----------|----------|---------|------------|-----------------|
| 第二十一條ノ漁業 | 一、鈔網漁業   | 二、鮪網漁業  | 三、流シ網漁業    | 四、胴曳網漁業（岩付網ヲ含ム） |
| 五、霞卷網漁業  | 六、根摺網漁業  | 七、小糸網漁業 | 八、ナゲ網漁業    | 九、打網漁業          |
| 十、四手網漁業  | 十一、押網漁業  | 十二、搔網漁業 | 十三、サデ網漁業   | 十四、モンドリ漁業       |
| 十五、タツベ漁業 | 十六、ウエ漁業  | 十七、竹筒漁業 | 十八、鰯漁業（鰯搔） | 十九、竿釣漁業（一竿釣ヲ除ク） |
| 二十、流シ釣漁業 | 廿一、掛ケ釣漁業 | 廿二、猪漁業  | 廿三、蚬搔漁業    | 廿四、貝曳漁業         |
| 二十五、採藻業  |          |         |            |                 |

以上ノ漁業ヲ爲サムトスルモノハ郡市長ニ願出許可ヲ受クベシ但シ専用漁業權ニヨリテ爲ス場合ハ此限リニアラス（第二十一條）

明治七年十一月稅則（第千四百二十一號）ニヨリ専祿免許（定置漁具及大網、中網）雜稅免許（其他ノ漁具）ノ種類ヲ定メ、十二年七月漁業鑑札ノ出願手續及税金ニ關スル規定ヲ定メ、十七年九月第一類（定置漁具）第二類（其他ノ漁具）第三類（遊漁）ニ改メ、爾來許可制度ニ據ル

## 五、漁場ノ制限

定置漁業及特別漁業ハ漁籍ノ定メアル場所ニ限リ之レヲ免許ス（第十二條）

明治十二年七月（甲第七十五號）ヲ以テ鰯ノ遞減法ヲ行ヒ十六年ヲ以テ全ク之ヲ停止スルコトヲ發令シ十四年十二月（甲第二百十號）「其方法目的ニヨリ前布達ニ（遞減法）ニ係ラス鰯築共特別免許スルコトアルヘシ」トノ布達ヲ出シ、十七年九月（甲第九十七號）ニヨリ第一類ノ漁業（鰯、網鰯、築、流シ簀、濱柴、石濱報網）ハ都テ明治十二年以後許可セシ場所ニアラサレバ免許セス又鰯、網鰯ノ空間數ハ十二年以後許可セル以内空間數ハ空間數ノ二分ノ一ヲ超過スヘカラス……ト定メ（第十二條）二十一年取締規則（縣令第十六號）第九條ヲ以テ第一類漁具ノ免許個數間數ヲ定ム、三十五年取締規則ニテ之レヲ漁籍ト稱シ流シ簀ヲ除キ堰四手網、網築、カツトリ築ヲ加ヘ四十五年一月現行取締規則（縣令第一號）ニ改メ更ニ特別漁業（大網、水魚網、貼網、鮪網ノ各地曳網類）ノ漁籍ヲ定ム又鰯漁籍ノ整理改廢ヲナシ、其數ヲ減ス

### 六、禁止漁具

漬柴、雜魚曳網、カチ網、石漬、ヲホヤ漁

漬柴、雜魚曳網、カチ網ハ、雜魚ノ濫獲多キ爲ノ明治四十一年三月取締規則中ヨリ除キテ其使用ヲ禁止シ、石漬ハ勢多川浚渫ノ爲メ其區域内ニアルモノハ明治二十六年一月之ヲ停止シ、ヲホヤ漁ハ魚苗ヲ害スルモノニ付明治十二年七月當年限リ禁止セラレ

### 七、漁場ニ於ケル漁具ノ制限

滋賀郡眞野川尻ノ北端ヨリ野洲郡野洲川尻(南流)ノ北端ヲ見通シタル直線以南勢多川洗堰迄ノ水面及内湖入江ニ於テハ鈔網及鮪網ヲ使用スルコトヲ禁ス(第五條)

河川及江口並其潮先ニ於テハ魚類ヲ遮斷スル装置ヲ以テ漁業ヲナスコトヲ禁ス但シ漁籍ニ於テ免許ヲ受ケタルモノハ此限リニアラス(第十一條)

明治三十五年六月取締規則(縣令第二十九號)第十條ニ於テ大網、水魚網、鮎網、鱒網、鮎網、鮎網、雜魚曳網ハ内湖及余吳湖ニ於テ使用スルコトヲ禁シタリ、四十一年三月取締規則第三條ニヨリ余吳湖、雜魚曳網ヲ除キテ眞野川、野洲川、見通シ線以南ノ水面ヲ加ヘ四十五年一月取締規則ノ改正ニヨリ特別漁業ニ關スル漁具ヲ除ク

### 八、漁具構成上ノ制限 (第十條)

舳ノ簀目ハ五分以上トス但シ漁獲物ノ種類ニヨリ舳縦間數百間以内ノ部分ニ限リ特ニ一分以下トナスコトヲ許可スルコトアルヘシ

網舳ノ網目ハ方一寸以上

張網ノ網目ハ方五分以上

「モンドリ」ノ網目ハ方一寸以上

「クツベ」及「ウエ」ノ簀目ハ毎年五月一日ヨリ九月三十日迄ハ三分以上但シ舳壺ニ於テ使用スル「ウエ」ハ此限リニアラス

明治十七年九月甲第九十七號規則ニヨリ、鮎其他ノ養目ヲ制限ス、(鮎ニ用ユル養目ハ每段水涯ヨリ起算シタル間數ニ應シ左ノ寸法ヨリ細小ナラシムヘカラス、  
養目五十間以下五分、百間以下六分、二百間以下八分、三百間以下一寸、三百間以上一寸五分、網目方一寸、雜魚鮎、二分五厘、雜魚鮎ハ百間以上ノモノハ免許セス且  
構造ハ方言「カンス」「カナマダゲ」ト唱フル者ニ限ルベシ、張網、網目ハ方五分ヨリ細小ナラシムヘナラス、(第十二條)鮎養目ニテ「タツベ」「一名「ウエ」「モンドリ」  
ヲ用ヒ流魚スルヲ許サズ(第二十條)明治三十五年六月取締規則第六條ニヨリ鮎ノ養目ハ一分以下三分以上トス網目及「モンドリ」ノ網目ハ方一寸以上トス、張網  
ノ網目ハ方五分以上トス、「タツベ」「ウエ」ノ養目ハ三分以上トス、但シ鮎ノ養目ニ於テ使用スルモノハ鮎ノ養目ニ同シ、ト改ム、四十一年三月取締規則ニヨリ  
現今規定ト同一ニ改ム

## 魚苗放流

從來琵琶湖ニ放流シタル魚苗ハ鱒(鮠)、鯉、鰻ノ三種ニシテ蕃殖保護取締ノ勵行ト相並ヒテ魚族ノ減退ヲ維持シ放流ノ効果ヲ確  
實ニシタルコト少ナカラス近ク明治四十一年水産經營ニ着手シ十一ヶ年繼續ヲ以テ前記三種魚苗ノ多數放流ヲ企劃スルニ至レ  
リ左ニ其概要ヲ叙述スヘシ

### 鱒(鮠)

明治十一年九月縣設ヲ以テ坂田郡枝折村(現今醒ヶ井村ニ屬ス)ニ養魚試驗場ヲ設置シ鮎ノ人工孵化試驗ニ著手シタルヲ以テ嚙  
矢トス翌年上丹生村字總谷ニ移轉ス(現今醒ヶ井村ノ内)次テ明治十五年中川源吾氏故永田利平氏等ノ有志主唱トナリ高島郡ニ  
私設孵化場ヲ設ケ鮎兒ノ孵化放流ヲナシ爾來繼續シテ今日ニ及ヘリ

北舟木養魚場、高島郡北舟木安曇川築漁者組合ノ設置シタルモノニシテ明治十五年創設シ三十九年宇永龍ニ移轉ス孵化室一  
棟十八坪(事務室三坪)孵化槽四個(長サ二間幅二尺砂利槽)稚魚放養池一個所(幅三尺)アリ十萬粒ノ孵化設備ヲナセルモノニシテ爾來連年孵化  
放流ヲ行ヒ明治四十一年三ハ廢止セリ其間ノ放流數別表ノ如シ

知内養魚場、高島郡知内川漁業者組合ノ設置セルモノニシテ明治十六年創設三十二年宇大川ヨリ字井ノ尻ニ移ス孵化室一棟

十八坪孵化槽六個(長二間幅二尺砂利槽)稚魚放養槽壹個(長二間幅三尺深二尺)アリ三十二年孵化槽ヲ「ストーンウヅベリー」氏式ニ改メ二十萬粒ヲ收容シ得ルコト、セリ其間連年孵化放流ヲ行ヒ明治三十四年ニ至リ近江水産組合ニ貸與シテヨリ共同孵化ヲ行ヒテ三十六年迄繼續ス其ノ放流數別表ノ如シ

近江水産組合知内養魚場、近江水産組合ニテハ明治二十一年ヨリ二十七年ニ至ル迄及三十二年ヨリ北舟木又ハ知内養魚場ニ托シ年々十萬粒内外ノ魚兒ヲ孵化放流シ來リシカ明治三十四年六月知内孵化場ヲ借入レ水産組合經營ノ下ニ縣費ノ補助ヲ仰キ五十萬粒ヲ收容シ得ヘキ設備ヲ増設セリ即チ孵化室一棟(事務室五坪)孵化槽十七個(長二間幅二尺棟瓦作)室内放養室一棟(放養池十坪)アリ明治四十年更ニ室外放養池五個(三十坪)ヲ増設シ百萬粒ヲ收容シ得ル設備ヲ整ヘ爾來年々孵化放流ヲ行ヒタリシカ明治四十一年四月縣ニ於テ水産經營ニ着手スルニ及ビ之ヲ寄附シ其事業ヲ廢止セリ

近江水産組合六條養魚場、明治三十五年十月野洲郡兵主村大字六條ニ設置シ孵化室一棟十五坪孵化槽四個(長二間幅二尺木造「アトキンス」式)アリ十萬粒ヲ收容スヘキ設備ニシテ知内養魚場ト共ニ孵化放流ヲ行ヒタリシカ明治四十一年縣ニ寄附シテ事業ヲ廢止ス

明治四十一年度以後縣事業トシテ放流ヲ行フニ至リ滋賀縣水産試驗場附屬知内孵化場ヲ置キ其設備ヲ擴張シ年々五百萬尾ノ魚兒ヲ孵化放流スルコト、セリ既在ノ放流數別表ノ如シ

鯉

天然種ナルまこひノ漁獲減少セシヨリ近江水産組合ニ於テ明治二十四年始メテ大和國郡山産ノ鯉苗ヲ購入放流シタルヲ始メトシ二十七年迄年々放流ヲ繼續シタリシカ明治三十一年犬上郡福滿村大字平田ニ養鯉場ヲ設置シ敷地千三百二十五坪事務室一棟池面九個(六〇六坪半)孵化池九個(二十坪)ノ設備ヲナシ放流鯉苗ノ養成ニ著手シタリシカ三十三年縣立水産試驗場ノ設置ニ際シ之レヲ寄附スルニ至レリ

明治三十三年縣事業トシテ放流ヲ行フニ至リ水産試驗場ヲ置キ各種試驗ト共ニ專ラ鯉兒ノ養成放流ヲ行ヒ明治四十一年以後更

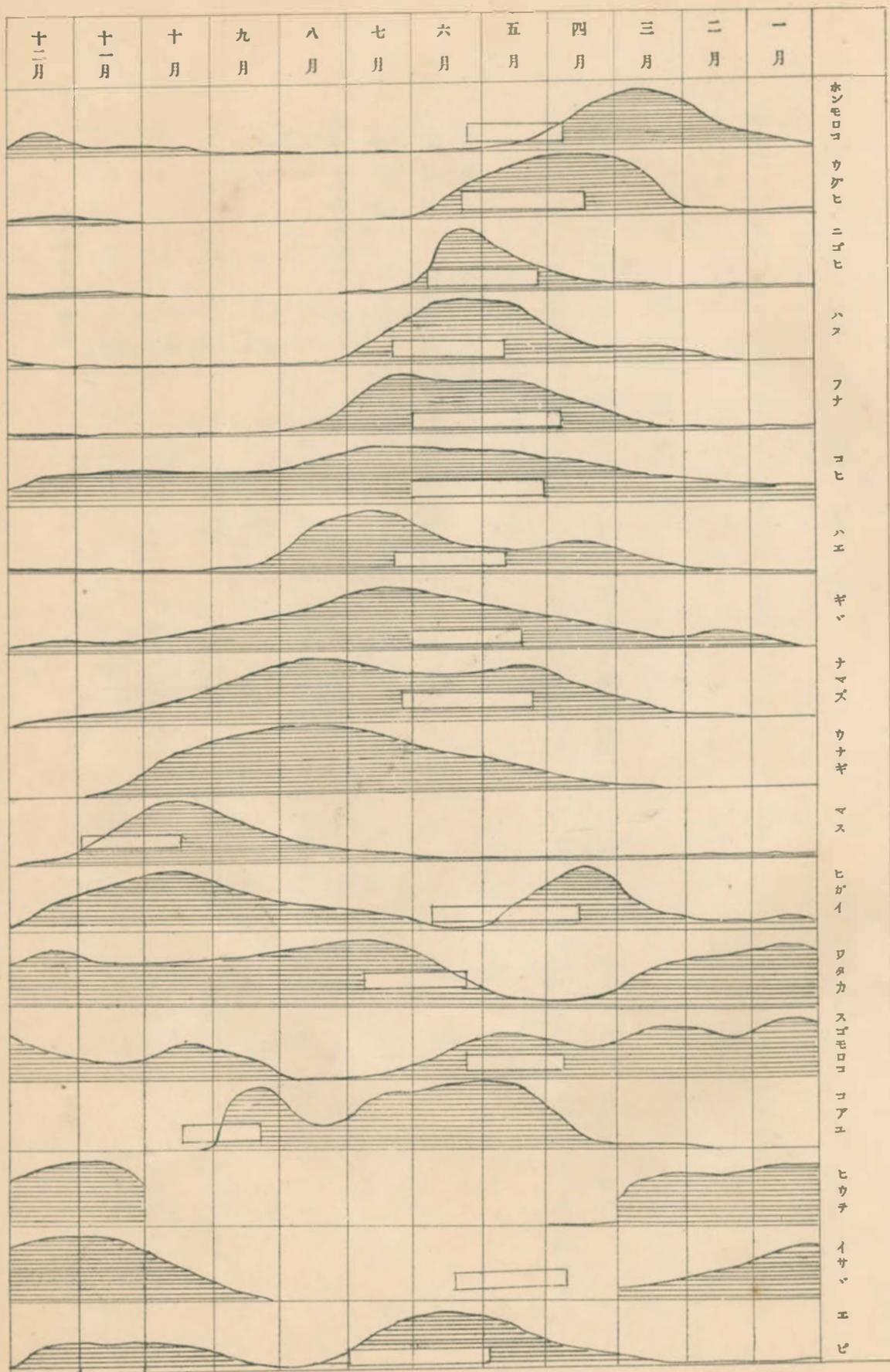
ニ事業ヲ擴張シテ彦根養魚場ヲ設ケ又民間ヨリ鯉苗ノ購入放流ヲ並セ行ヒ年々八百萬尾(四十二年 六百五十萬尾 四十三年 七百萬尾)ノ豫定ヲ以テ放流ヲ繼續シ今日ニ及ベリ既往ノ放流數別表ノ如シ

勢多川洗堰設置以後鰻兒ノ湖上ヲ遮斷セラレ漁獲減少ヲ見ルニ至レルヨリ明治三十八年ヨリ近江水産組合ニ於テ縣費補助ヲ仰キテ年々山城國志津川産ノ稚魚ヲ購入放流シテ明治四十年ニ及ベリ四十一年以後水産試驗場ニ於テ年々百萬尾ノ豫定ヲ以テ放流ヲ繼續スルニ至リ專ラ靜岡縣及愛知縣産ノモノヲ魚苗トシ放流ヲ行ヘルコト別表ノ如シ

年	鯉苗放流數 (魚兒體長一寸四分内外)						鯉苗放流數 (魚兒二寸乃至四寸)		鰻苗放流數 (魚兒五寸五分内外)	
	知内組合	北舟木組合	西川養魚場	水産組合	水産試驗場	合計	水産組合	水産試驗場	水産組合	水産試驗場
明治十六年	1,000	1,100				2,100				
十七年	1,300	5,450				6,750				
十八年	1,000	4,710				5,710				
十九年	1,000	4,100	10,000			15,100				
二十年	1,500	3,300	10,000			14,800				
二十一年	1,000	7,610	40,000	1,300		49,910				
二十二年	1,100	4,550	10,000	8,000		23,650				
二十三年	7,550	4,500	10,000	7,000		29,050				
二十四年	3,670	4,000	5,000	1,500		14,170				
二十五年	1,000	4,700	10,000	1,900,000		2,000,000				
二十六年	4,950	4,000		1,600,000		1,608,950				
二十七年	2,300	4,000		6,700		13,000				
二十八年	400,000	4,100				404,100				
二十九年	1,100,000	400,000				1,500,000				
合計						2,000,000				



主ナル魚類ノ漁期ト産卵期一覽



□ 産卵期

▨ 漁期

# 漁獲物處理法

(技手村上秀治郎調査)

漁獲物ハ鮮魚販賣活魚販賣ヲ專ラトシ從來水產物製品トシテ販賣セラレシ魚種ハ數種ニ過キサリシカ近時漸次其量ヲ増加スルニ至レリ

## 水產製造物

湖魚類ノ製造品產出高ハ年々漸次増加シテ最近年產額約貳拾五萬圓(罐詰製品ヲ合シ)ニ達ス其主ナル種類次ノ如シ

### 調味品

こあゆ餡煮、ひうを餡煮、いさゞ餡煮、もろこ餡煮、ゑび餡煮、こあゆ時雨煮、いさゞ時雨煮、ゑび時雨煮、

しゞみ時雨煮、其他

### 醃藏品

鮎鮓、鮎甘露漬

### 煮乾品

こあゆ煮乾、ゑび煮乾、其他ひうを、ゑび煮上

### 罐詰品

こあゆ、ひうを、いさゞ、もろこ、味付罐詰等

最近五ヶ年產額次ノ如シ

	大正二年	大正元年	明治四十四年	同 四十四年	同 四十三年	同 四十二年
こあゆ煮乾	一四四〇	三〇〇	三、一三九			八〇六
ゑび煮乾	一、六八九	二、六九三	二、〇八二		五、三二四	一、五七三
こあゆ餡煮	四七、四六五	一、八一四	三〇、三二六		三、二〇三	七、七七
ゑび餡煮	七〇、三七三	四三、三三六	三六、三〇九		三九、九〇二	三〇、一九七
いさゞ餡煮	一〇、五〇八	九、八一二	一四、二八四		七、六五五	七、九八三
もろこ餡煮	一、五〇八	一、三六一				一、六、二八八

漁獲物處理法



以下主ナル製造方法ヲ記ス

## こあゆ飴煮製法

産地 沿湖各地ニテ産出セラル、モ湖西地方ニ多ク其最モ盛ナルハ滋賀郡小松村大字北小松ニシテ之レニ次クハ高島郡百瀬村大字知内、同郡海津村トス又大津市石川町内田太七ハ優良品ヲ製出ス、製法ハ各戸ニヨリ一定セサルモ以下通常行ハル、モノヲ掲ク

原料 鮎網(地曳網)及築ニハ漁獲シタルモノヲ主トス、陸上ゲ後直ニ清水ニテ洗滌スルコト數回彙び其他ノ夾雜物ヲ除去シ約一貫五百匁入(約三升)ノ上ゲ籠ニ入レテ水ヲ切り製造ニ着手ス、漁獲後ノ取扱亂雜ナルモノ又ハ時間ヲ經過シタルモノハ製造後頭部離落シ製品ノ價値ヲ損スルコト著シ

製法 鐵製徑一尺八寸深七寸五分ノ平鍋ニ最初原汁一升五合(原汁トハ飴煮ニ用ヒタル殘汁ヲ十分濾過シテ汚物ヲ去リタル液汁ヲ貯ヘタルモノナリ)ニ醬油約一升ヲ加ヘ煮立テタルモノニ豫メ上ゲ籠ニ盛リタル原料約一貫五百匁ヲ投入シ其上ニ約四百匁乃至五百匁ノ飴ヲ加ヘ煮沸スルコト凡ソ四十分此間鍋底ニ焦着セサル様注意シ浮上スル泡沫及夾雜物ヲ絶ヘス除キ液汁ノ十分分体ニ浸透シ魚ノ色合適度トナルヲ俟テ上ゲ籠ニ抄ヒ上ゲ製了ス次テ更ニ醬油一升ヲ加ヘ次回ノ原料及飴ヲ加ヘテ製造スルコト即チ前ニ同シ煮上ケタル製品ハ風通シヨキ處ニ移シ液汁ヲ滴下セシメ冷却ス步止リハ五割乃至六割ヲ普通トス四月乃至九月ヲ製造時期トス

調味液ニハ砂糖又ハ糖蜜ヲ加フルコトアリ煮汁ハ濾過シテ之ヲ貯ヘ製造期間原汁トシテ反覆使用スルモノアリ又十數回使用後ハ之レヲ去リ新液ヲ以テ調味ヲ始ムルモノアリ、調味ノ加減製品ノ色合ハ需用地ニヨリ異ナルヲ以テ各仕向地ノ嗜好ニ應シ夫々手加減ヲ加フモノトス又彙びハ液汁ヲ吸收スルコト甚シキモノナレハ其混入ヲ避ク

荷造反販路 製品ハ蜜柑箱ヲ清洗乾燥シテ之レニ容レ二個重ネトシテ荷造リヲナス普通五貫匁内外ヲ入ル又遠隔ノ地ニ送ルモ

ノハ樽詰トナス

一貫匁價格壹圓貳、參拾錢乃至壹圓七、八拾錢トス

販路ハ京阪地方、中國、東海、東山、北陸、關東地方及朝鮮、關東州、臺灣ニ及ブ

此他ひうを、いさぎ、ゑび、等其製造法同一ナルヲ以テ之レヲ略ス又近時ゑびノ佃煮ヲ製出スルモノアリ

### 鮎鮠製法

鮎鮠ハ沿湖各地ニテ製出セラレ製品トシテ販賣シ又自家食用ニ供ス

原料 雌雄共ニ用ユルモ孕卵中ノ雌ヲ貴ブ原料ニ供スルふなハ源五郎鮎、にごろふな共ニ用ヒラレ春季(五六月)頃産卵期以前卵巢未熟ノモノヲ最モトス

先ツ鱗ヲ去リ内臟物ハ魚体及卵巢ヲ損セサル様ニ注意ヲ加ヘ鰓蓋孔ヨリ抜取り十分洗滌シタル後水分ヲ滴下ス

鹽藏及漬込 原料十貫匁ニ就キ食鹽十二貫匁ノ割ニテ四斗樽ニ並列シ漸次積重ネテ鹽藏シ後蓋ヲナス(一樽約二百尾ヲ漬込ム)此際魚ノ口腔及腹部ニ十分食鹽ヲ詰込ムモノトス、鹽漬後四日目頃ヨリ一個四、五貫匁ノ石二個ヲ置キテ壓ヲ加ヘ水分ノ十分蓋ノ上ニ上リタルヲ認メシ後凡ソ二十日間ヲ經テ取出シ清水ニ浸シテ「サ、ラ」ヲ用ヒテ丁寧ニ洗滌シ架上ニ吊シテ水分ヲ滴下セシム

水分ヲ去リタル鮎ハ別ニ上等米ヲ炊キテ冷却シタル飯ニ少許ノ麴ヲ混加シタルモノ(飯ノミヲ用ユルモノアリ)ヲ以テ全身ヲ掩ヒ口腔腹部ニモ十分壓入シタル後間隙ナキ様再ヒ別樽ニ漬込ミ最上層ニ米飯ヲ置キ竹皮等ニテ被ヒ壓力ヲ均一ナラシムル様蓋ヲナシ約四、五十貫匁ノ壓石ヲ加ヘ放置スルトキハ自然ニ緩徐ナル醱酵ヲ起シ水分ハ壓蓋上ニ浸出スルニ至ル斯クシテ凡ソ三ヶ月ヲ經過スレハ米飯ハ殆ント崩壞シテ原形ナク鮎モ亦大ニ扁壓セラレ鱗骨柔軟トナル所謂「鮎壽司」ヲ製了ス極メテ上等品ヲ作ルニハ尙ホ五、六ヶ月ヲ經過シテ其鮎ヲ取出シ附著セル米飯ヲ去リ更ニ新炊キノ米飯ニ少量ノ麴ヲ混シ(此

際必要ニ應シ少許ノ食鹽ヲ加フルコトアリ。最初漬込ト同様ノ方法ヲ以テ再ヒ漬込モノトス之レヲ再漬ケト稱ス此再漬ヲナシタルモノハ極メテ柔軟トナリ米飯附着ノ儘食膳ニ供ス

製品及保存期 製品ハ外部ノ粕ヲ除キ薄ク切りテ食膳ニ供ス肉ハ淡赤褐色ヲナシ腹中ノ卵巣ハ稍光リアル黄金色ヲ呈ス味ハ特殊ノモノニシテ少シク醃臭ヲ存スルモ稍甘味ヲ有シ酸鹽味ヲ帶ヒ風味佳良ノモノトシテ賞味セラル（切りタルモノ數片ヲ椀ニ盛り熱湯ヲ注キ數分間蓋ヲナシタル後吸物トシテ用ヒラル、コトアリ又縣下ニテハ古來鰯鰯ヲ以テ下痢及感胃性諸病殊ニ胃腸ニ特效アルモノトシテ多ク用ヒラル）

鰯鰯ハ一回漬ニテ三ケ年ノ保存ニ耐ヘ再漬ニアリテハ六、七ケ年貯藏シ得テ變味セスト云フ又最モ美味ナルハ貯藏後一ケ年乃至一ケ年半ヲ經過シタルモノナリト云フ

販路 價ハ形ノ大小ニヨリ異ナリ体長五寸乃至一尺二三寸ノモノニテ普通一尾五拾錢乃至壹圓貳參拾錢トス

販路ハ近來大ニ擴張セラレ京坂地方及名古屋以東、北海道、九州、臺灣、朝鮮ニ及ヒ又外國航路漁船ニモ使用セラルト云フ

既記ノ如ク製了シタル鰯鰯ヲ更ニ酒粕ニ漬ケ販出スルモノアリ又特殊ノ製法ヲ加ヘ味淋粕（酒粕ヲ混ス）ニ漬ケタルモノアリ  
甘露漬ト稱ス

明治四十一年同四十二年大津市石川町阪本屋内田太七氏製品ニ就キ第四師團及內務省大阪衛生試驗所ニテ分析シタル鰯鰯ノ成分ヲ左ニ録シテ參考トス

明治四十一年二月重成八百吉氏城龍吉氏試驗成績

試験ニ供シタル鰯鰯ハ一度漬及再漬ノ二種ニシテ甲ハ一尾一〇四瓦乙ハ二尾四二七瓦ノ重量ヲ有シ外面ハ濃灰白色肉ハ淡赤褐色ニシテ多量ニ卵ヲ藏ヌ著シク酸性  
反應ヲ呈シ少シク醃魚ノ臭アル外醋酸様及酒精ノ香氣ヲ有ス味ハ特異ニシテ甘ク且酸鹽味ヲ帶ヒ頗佳良ナリ鮮ハ純白色ニテ崩壞シ殆ント飯粒ヲ認メス反應ハ酸性  
ニテ鰯ノ香氣ヲ帶ヒ味真好ナリ

分 析 表

（鰯及飯ハ本分析表對照スル爲メ掲ク  
但鰯ノ骨及卵ヲ含マサル成績 飯ハ四種ノ平均數

品名	水分	灰分	揮發酸(醋酸トシテ)	不揮發酸(乳酸トシテ)	脂肪	蛋白質	含水炭素
鹽鱈(全体)	五三、七六三	內食鹽	一八、七三一		六、七一一	二〇、七九〇	
一度漬 鱈	五九、八六〇	內同上	一五、五六〇		八、八三七	二〇、二四八	四、六八九
二度漬 同上	五七、六〇六	內同上	二、四一八	二、一六七	二、一九〇	一七、二三〇	七、六八四
一度漬 飯	六五、三〇七	內同上	三、二五二	一、九九八	〇、六九八	一一、〇九三	三、四五一
二度漬 飯	六〇、九七一	內同上	二、八九七	一、六九四	〇、七六二	一二、七八四	一六、三七〇
鱈	七九、四六〇	內同上	四、〇〇〇	一、五八九	一、四五〇	一七、八六〇	一九、七九八
飯	六四、〇八〇		〇、一六五		〇、〇五〇	一一、一六〇	四、七〇〇

明治四十二年三月内務省大阪衛生試験所定量分析

鮭ハ外面濃灰白色乃至帯白色ヲ呈シ多量ノ卵ヲ藏ス肉ハ帶褐色ニシテ微ニ甘鹹ク酸味ナ有シ酸性ノ反應ヲ微ス飯ハ類白色ニシテ崩壊シ殆ト飯粒ヲ認メス酸臭ト僅ニ鮭ノ香氣ヲ放チ酸味稍強ク反應ハ著シク酸性ナリ鮭及飯ニ就キ各別ニ之レカ分拆ヲ遂クルニ毎百分中ヨリ檢出セル各成分ノ含量左ノ如シ但シ鮭ハ骨及卵ヲ含まサル成績ナリ

成分	含量
脂	四、一七五
含窒素有機物	二一、〇三九
揮發酸(醋酸トシテ)	〇、一三一
不揮發酸(乳酸トシテ)	一、八六九
含水炭素(差分)	一一、七六五
内 葡 萄 糖	一〇、五七三
内 質 物	三、四〇四
内 食 鹽	二、二八九
水	五六、六一七
脂肪	〇、三二四
含窒素有機物	七、九八六
揮發酸(醋酸トシテ)	〇、〇九六
不揮發酸(乳酸トシテ)	二、〇〇一
含水炭素(差分)	二〇、〇七二
内 葡 萄 糖	一三、九四〇
内 質 物	四、〇七〇
内 食 鹽	二、六六〇
水	六五、四五〇

## おいかは鮨製法

六、七月頃体肥大セルおいかはヲ背開キトシ能ク洗滌シタル後食鹽ヲ撒布シテ桶ニ漬ケ込ミ是レニ壓石ヲ加ヘ保存ス鹽藏後凡七日ヲ經過シタル後必要ニ應シテ之レヲ取出シ鱗ヲ去リ汚物ヲ洗滌シ背骨ヲ除キテ水中ニ浸シ鹽抜キヲナスコト數時間ニシテ取出シ水分ヲ去ル後上等米ヲ以テ炊キ冷却シタル飯ヲ適宜ニ細長ク一握リトナシ一尾毎ニ内側ニ詰メ徑一尺深五寸ノ桶ニ密ニ並べ重ネ(一桶三層約百尾ヲ入ル)後壓石ヲ加ヘ放置スルコト約一晝夜乃至二晝夜ニシテ製ナル、専ラ夏季土用中食膳ニ供ス、彦根附近ニテ多ク製出ス

此外はず、わたか、むつ、もろこ、こあゆ等ニテ鮨ヲ製スルコトアルモ其方法前者ト大差ナシ

## こあゆ煮乾

九月頃一時ニ多獲アリシ際製造ス湖西地方ニテ製シ近村ニ販賣ス

## あび煮乾

五月以後十月ニ至ル多獲ノ際製造ス

## ひうを煮上げ

ひうをハ大部分煮上ケトシテ販出ス主産地ハ湖西地方滋賀郡和邇村、小松村、高島郡知内、海津村ニシテ凡テ氷魚網(地曳網)ニテ漁獲シタルモノヲ用ユ製造時期ハ十一月以後翌年三月迄トス

原料 漁獲後直ニ竹籠ニテ十分洗滌シ夾雜物ヲ去リ約二升(一升ノ量約五百匁)入トシテ上ゲ籠ニ盛り製造ニ着手ス

製法 鐵製徑一尺八寸深七寸五分ノ平鍋ニ水五升ヲ入レ食鹽四合ヲ加ヘ煮沸シ之レニ原料約二升ヲ投シ煮沸スルコト數十分其間浮上スル泡沫ヲ除キ後抄ヒ上ケ莖上ニ擴ケ冷却ス次回目ヨリハ水ヲ加フルコトナク一釜毎ニ食鹽約一合ヲ加ヘ(食鹽ノ量ハ原料大形ナルトキ又ハ新鮮ナラサルトキハ稍其量ヲ増スヲ普通トス)五釜目ニ至リ全部煮汁ヲ取換ユルヲ常トスルモ原料古キトキ又ハ汚物ヲ混任スルトキハ二釜目ニ取交ユルコトアリ否ラサレハ製品ノ色合ヲ損シ價値減ス

歩止リハ七割乃至五割ニシテ全ク原料ノ鮮否ニヨル

荷造リ及販路 縣内販賣ノモノハ籠入リトシ縣外ニ出スモノハ箱入トナス籠(方言さばかご)ハ長一尺五寸巾八寸深五寸アリ底ニ適當ニ切リタル藁ヲ布キ上部ハ新聞紙等ニテ被ヒ蓋ヲナス一籠一斗入トス(此量容器共三貫百匁内外)此價格貳圓五拾錢乃至四圓、主トシテ縣内及京阪地方ニテ販賣ス

### ゑび煮上げ

野洲郡木濱滋賀郡堅田ニテ製出ス時期ハ五、六月頃及十一月頃ノ二期トス

原料ハ魷又ハ魷網ニテ漁獲シタルモノニシテ十分洗滌シテ雜魚及夾雜物ヲ除去シ一釜ニ對シゑび八升内外(一升約二百六十匁)ヲ入レ食鹽二合半ヲ加ヘ(水ハ殆ト注入スルコトナシ)煮沸スルコト數十分間後抄ヒ上グ筵上ニ擴ゲ冷却シテ後籠ニ入レ販出ス原料一升ヨリ一升五合ノ製品ヲ得ルヲ普通トス一升價格拾錢内外トス縣下甲賀郡、八日市方面及丹波地方ニ販賣ス

### 燒乾品

凡テ串燒品ニシテ白燒ノ儘販賣ス四月乃至七月頃ヲ時期トス其種類ハもろこ(一串七、八尾)すごもろこ(一串十尾)はず、わたか(一串大ナルハ一尾小ナルハ二尾)ヲ主ナルモノトス大津地方ニテ製出スルモノ多ク京都地方ニ販賣ス高島郡ニテハこあゆヲ串燒トシ乾燥シテ近隣ニ販賣シ又ハ自家用トナスモノアリ

### 罐詰品

小鮎節煮、同味付、もろこ照燒、同味付、鰯大和煮、いさざ味付、水魚紅葉煮、等ヲ主ナル製品トシ就中産額多キハ小鮎節煮罐詰ニシテ其販路ハ北米、關東洲地方ニ及ブモノ少ナカラズ

## 活魚運搬

湖魚ノ主要ナルモノハ何レモ活魚販賣ニヨルヲ以テ古來四時盛シニ各所ニ運搬セラル、モ其方法ハ一ニ擔桶ヲ使用シ陸上ハ人肩ニヨリ湖ハ活洲船又ハ汽船積トナシ何レモ絶ヘス換水ヲ行フモノニシテ未ダ特殊ノ裝置ヲ施シタルモノヲ見ス運搬器ハ九桶四ツ桶三種「ヅギリ籠」ノ數種ニシテ魚ノ種類ハひがい、あゆ、あまご、ふな、こひ、うぐひ、ほんもろこ、はす、うなぎ、なまず、どせう等ヲ主ナルモノトス

### 活洲船

活洲船ハ古クヨリ活魚ノ運搬ニ使用シ來リタルモノニシテ盛漁期間之レヲ專業トナセシモノアリ專ラ四月以後七八月ノ頃ふなこひ、はす、うぐひ、ノ漁期ニ運搬ニ從來シタルモノナリシカ汽船航行以後活洲船ノ減少ヲ來セシモ尙ハす、ふなノ運搬ヲナスモノアリ

構造ハ普通漁船ト同一ナルモ形大ニシテ全長三十八尺胴幅五尺二寸深二尺九寸アリ(大藪調)其中央ニ長七尺五寸ヲ二區ニ區劃シ更ニ取外シ自由ナル隔板ニテ四個ニ區分シタル活間アリ通水孔ハ徑二寸五分左右各四個アリ水深約一尺餘ヲ存ス

運搬期ハ例年五月乃至七月ノ頃ニ多ク蓄載量ハす、ニテハ四百尾乃至六百尾ふな、こひニテハ七十貫乃至百貫内外ヲ普通トシ航程三里乃至十餘里、魚多量ナルトキハ活洲内ノ換水十分ナラサルヲ以テ航行中絶ヘス注水ヲナス其他うぐひ、ひがいヲ運搬ス

### 運搬器具

九桶(第一圖) 正四分椗製高九寸二分口徑一尺三寸五分底徑一尺二寸五分把手ニハ一寸角ノ横木アリ之レニ長一尺許リノ棕梠繩紐ヲ付ス陸上運搬ニ使用スルモノニシテ汽船積ニ用ユルモノハ之ヨリ稍堅固ニ作り各部ノ寸法亦少シク大ナリ主トシテ大あゆ、ひがい、あまご、ノ運搬ニ用ユ

四ツ桶(第二、第三、第四圖) 圖ノ如ク三様アリ第二圖ハ京阪地方ニ鯉鮒ヲ運搬スルニ用ユルモノニシテ稍長方形ヲナシ長二

尺二寸巾一尺四寸高七寸アリ容量四貫匁乃至六貫匁トス、第三圖ハ小判形ヲナシ長徑二尺三寸短徑一尺四寸高九寸アリ第四圖ハ圓形ニシテ直徑一尺八寸高九寸アリ共ニ汽船運搬ニ使用シ鯉鮒、うぐひ、はすヲ運搬ス容量四貫匁乃至六貫匁トス

丸桶、四ツ桶共ニ魚ノ大小ニヨリ適宜ノ網目ヲ有スル糸網蓋、又ハ棕梠網蓋ヲ供ヘ換水ニ便ス

「ツギリ」籠(第八圖)ハ鰻、鯰ノ如ク活魚ノ儘氣中運送ニ堪ユルモノニ使用ス

### 運搬法

活魚ノ運搬ハ陸上ニテハ行程一里乃至六里餘汽船便ニテハ航程一時間乃至八時間ノ範圍ニ於テ多ク行ハル、モノニシテ何レモ六月下旬以後夏季ノ間ハ水温上昇シ水質亦汚濁シ運搬困難ナルヲ免レス然レドモ氷ヲ使用スルモノハ尙ホ極メテ稀ナリ、魚ノ健否取扱ノ粗暴ニヨリ運搬中斃死魚ノ割合多キニ上ルモノニシテ例ヘハ小糸網ニテ漁獲シタルひがい、ふなノ如キ系痕(鱗剝離シ白キ痕ヲ存ス俗ニ「ケビワ」ト稱ス)ヲ存シ運搬中死魚ヲ生スルコト少ナカラス、又漁獲後直ニ運搬スルトキハ損傷魚ヲ出スコト多キヲ以テ當業者ハ多ク一時蓄養シタル後運搬ス然レドモ蓄養長キニ亘レハ皮層鱗尾損傷シ却テ運搬ニ適セサルニ至ル又途中換水ニ際シテハ其水質ニ注意ヲ要ス

大あゆ、丸桶ヲ用ユ四、五月頃ニハ一荷二百五十尾内外ヲ容レ途中絶ヘス換水ヲナス行程ニヨリ一割五分以内ノ欠損ヲ生スト云フ完全ニ運搬スルニハ五、六寸ノモノ七十尾乃至百五十尾ヲ適度トス汽船積ニアリテハ丸桶一個ニ二百五十尾内外ヲ入レ絶ヘス換水ヲ行フ

あゆご、丸桶ヲ用ユ三、四月頃ニハ体長四、五寸ノモノニテハ一荷ニ付三百尾内外小ナルモノニテハ四百尾内外ヲ運搬スルコトヲ得冬季ハ是レヨリ稍多クヲ收容ス行程一時間以内ノ處ニテハ換水ヲ行ハサルコトアルモ絶ヘ間ナク水ヲ動搖セシム五月以後ニ至レバ絶ヘス換水ヲナス漁船積ニアリテハ丸桶一個ニ付三百尾乃至五百尾ヲ容レ絶ヘス換水ヲ行フ

ひがい、丸桶ヲ用ユ、一荷ニ付キ冬季四貫匁春季秋季ニハ二貫五百匁五月以後ニハ二貫五百匁内外ヲ容レ時々換水ヲ行ヒ運

搬ス冬季ニテハ二時間以内ノ行程ニテハ換水ヲ行ハサルコトアリト云ノモ水ハ絶ヘ間ナク動搖セシム汽船積ニアリテハ九桶一個ニ付キ三貫匁乃至四貫匁ヲ容レ絶ヘス換水ヲ行フ

ほんもろこ、ひがいニ同ジ

ふ な、方形四ツ桶ヲ用ヒ一荷十貫匁内外ヲ容レ時々換水ヲナシ運搬ス汽船積ニハ小判形又ハ圓形四ツ桶ヲ用キ一個四貫匁乃至六貫匁ヲ運搬シ時々換水ヲナス

こ ひ、方形四ツ桶ヲ用ヒ最少八貫匁内外最多十二貫匁内外ヲ運搬ス途中時々換水ヲナス汽船積ニテハ小判形又ハ圓形四ツ桶ヲ用キ一個六貫匁内外ヲ容レ時々換水ヲナシ運搬ス

うなぎ、「ズキリ」籠(又「ドンベ」ト云フ)ヲ用ユ大形一個五貫匁中形四貫匁小形三貫匁ヲ容レ運搬ス

## 蓄 養

漁村及魚商人ハ各地活魚蓄養ノ準備ヲナス今其主ナルモノヲ示ス

### 活ケ籠

至ル處ノ漁村及仲買人ノ蓄養場ニ使用スルモノニシテ地方ニヨリ小差アルモ何レモ一時的ノ蓄養ニ用ユルモノナリ形圖示ノ如シ

「イケカゴ」(第五圖) 木濱地方ニテ使用スルモノハ高三尺五寸胴回り八尺五寸底回り六尺五寸頸及口廻リ五尺五寸アリ籠

ノ中部ヲ粗目編ミトナス主ニひがいの蓄養ス容量ハ魚種ニヨリ差アリひがいの二十五貫匁、ふな十二貫匁、こひ十五貫匁内外トス  
「イケカゴ」(第六圖) 木濱地方ニテ使用スルモノハ高二尺七寸底回り六尺五寸肩回り五尺八寸口徑一尺八寸アリひがいの

蓄養スルニ用ユ適量五貫匁内外

方言「ウチコミ」(第七圖) 大谷地方ニテ使用スルモノハ高二尺口徑二尺回り七尺五寸籠ノ中部粗目編ミトスひがい、あまご、ほんもろこ、大あゆ、ヲ蓄養ス容量十貫匁以内ナルモあゆハ其量最モ少ナシ

方言「ヨツメ」(第八圖) 大谷地方ニテ使用スルモノハ高二尺口徑一尺九寸底部稍方形ニシテ二尺一寸平方アリ編竹巾五分方二分五厘目ヲ有ス魚体ヲ損傷スルコト少ナキヲ以テ主トシテ大あゆヲ蓄養ス容量十貫匁内外夏季ニ至レハ其量ヲ減ス

方言「ツギリ」又「ドンベ」(第九圖) 大中小ノ三様アリ大ハ高一尺口徑一尺六寸五分中ハ高八寸口徑一尺四寸アリ縣内至ル處

ニテ用ユルモノニシテ専ラうなぎヲ蓄養ス容量五貫匁乃至四貫匁トス又少量ノこひ、ふな、なまぎ等ヲ一時蓄養スルニ用ユ

方言「ドンベ」(第十圖) 姉川、天ノ川地方ニテ使用スルモノハ高約一尺五寸餘底徑約五尺口徑約四尺アリ専ラこあゆ、あめのうをヲ一時蓄養スルニ用ユ

はす活洲(第十一圖) 雄松濱ニテ使用スルモノニシテ高五尺八寸胸徑三尺底徑二尺八寸頸長一尺口徑二尺アリ堅固ニ編製ス、雄はすヲ蓄養ス五百尾乃至八百尾此量三十五貫乃至四十貫ヲ容レ錨ヲ以テ水中ニ沈下シ置クモノトス

### 箱活洲

湖畔河邊一般ニ用キラル、モノニシテ其大サ一様ナラサレトモ構造ハ略同一ニシテ大ナルハ半バ定設ノモノトナシ小ナルハ移動スルニ便スこひ、ふな、あめのうを、うぐひ、にごひ、ひがい、うなぎ等隨時蓄養ス

(第十二圖) 檜製長三尺三寸幅二尺深一尺二寸アリ伊庭村地方ニテ使用セラル、モノニシテひがいノ容量約四貫匁トス此種ノモノニハ長六尺幅三尺高二尺乃至一尺五寸以内ノモノアリ上面半部ハ引出蓋トナシ錠ヲ付ス同一構造ニシテ移動スルニ便ス

(第十三圖) 檜製外枠ハ三寸角材ヲ用ヒ外法長六尺五寸幅三尺六寸深四尺五寸周圍内側ハ幅一寸三分ノ板ヲ用ヒ每三分ヲ隔テ堅ニ張付ケタルモノニシテ上面ハ箆込板トシ中央ニ門ヲ施ス木濱地方ニテ用キラル、モノニシテ水深二尺餘容量ハ魚種ニヨリテ異ナリこひ、五十貫匁乃至百貫匁、ふな四十貫匁乃至六十貫匁、あめのうを五十貫匁乃至六十貫匁、うぐひ一千尾内外此量六十

貫内外ヲ蓄養スルコトヲ得、此種ナルモノハ半ハ定設セラレタルモノニシテ長三間二分幅一間一分深一間ニ達スルモノアリ  
蓄養場

多クハ河溝ニ接シ又ハ湧水ヲ用ユル等水利ヲ利用シ管理ニ便ナル處ヲ選ミ面積二坪乃至十數坪水深二尺内外ノ地ヲ穿テ石積  
又ハ板張リトシ蓄養場ヲ設クル處少ナカラス多クハこひノ蓄養ニ供ス此種ノ設備ノ完キハ大津市大谷トス同地方ニテ行ハル、  
モノニシテ面積十二坪ヲ有シ長四間幅三間周圍ヲ板張リトシ水深三尺五寸用水ハ山間ヨリ流ル、谿流ヲ徑八寸土管ニテ引用シ  
排水用土管亦之レニ同シク水質極メテ清淨ニシテ水溫低ク常ニ攝氏十四五度ヲ保チ絶ヘス交流ス之ノ一個ノ活洲ヲ以テ冬季ハ  
約二千五百貫夏季ハ七百貫外ノ活魚ヲ蓄養スルニ堪ユト云フ此ニ蓄養スル魚種ヲ舉クレハ冬期ハ鯉及ひがい、夏季ハ鯉、鯿、  
鮭、鮒、春季ハもろこ、鮎あまご、鰻、秋季ハあまご、ひがい、もろこ等ナリトス

## 販 賣

(琵琶湖共同施設ニ就テヨリ)

### 琵琶湖水産物販賣組合

現今琵琶湖ニテ漁獲セララル、魚類ハ凡テ該組合ニテ取扱販賣セララル、モノニシテ産業組合法ニヨリ琵琶湖及之レニ接続スル内  
湖入江並ニ勢多川筋ニ沿付スル市町村ノ漁業者ニヨリ組織セラレ明治四十二年七月創立同年十一月一日ヨリ漁獲物ノ共同販賣  
ヲ開始シ同時ニ貯金組合ヲ設ケテ貯金ヲナシ又明治四十五年二月ヨリ漁業製造ニ要スル物品ノ購買事業ヲ兼營シ以テ共同施設  
ノ實行ニ努メ組合員相互ノ利益増進ヲ企圖シツ、アリ

販賣機關トシテハ各漁業樞要ノ地ニ同組合ニ處屬スル魚揚場ヲ設ケ幹事及販賣擔當人ヲ置キ組合員(漁業者全部)ノ漁獲物ヲ販  
賣處理セシムルモノニシテ販賣高ノ十分ノ二(立値販賣ハ六分)ノ手數料ヲ徴シ經費ニ充ツ販賣方法ハ從來本縣下ニ行ハル、販  
賣方法ヲ斟酌シ次ノ三法ニヨル

一、普通販賣 此方法ハ組合員ノ委托シタル漁獲物ヲ魚揚場ニ於テ毎日時間ヲ定メ來集セル魚商人ニ競賣スルモノト

一、立俵販賣 此方法ハ古來漁獲多ク消費少ナキ地方ニ行ハル、モノニシテ一定ノ期間入札ヲ以テ漁獲物ノ單價ヲ定メ販賣シ

代價ハ漁獲高ニ應シ計算スルモノトス

一、協定販賣 此方法ハ漁獲物僅少ニシテ定時ニ魚商人來集セス爲メニ魚揚場ニ於テ魚價ヲ協定シテ需用者ニ販賣シ又ハ販賣

擔當人ニ於テ引受クルノトス

魚揚場ノ所在地ハ現今次ノ五十三個所トス

大津市 大津市藏橋町

滋賀郡 膳所、下坂本、堅田、和邇、北小松

栗太郎 大石、黒津、瀬田、矢橋、北山田、志那、下物

野洲郡 赤野井、木濱、幸津川、吉川、野田、野

浦生郡 八幡、沖島、常樂寺、下豊浦

神崎郡 伊庭、一福堂

愛知郡 新海、柳川

犬上郡 三津屋、八坂、彦根、松原

坂田郡 磯、朝妻筑摩、長濱、相撲

東淺井郡 川道、南濱、八木濱、下八木、早崎、延勝寺、尾上

伊香郡 片山、鹽津、大浦

高島郡 海津、知内、濱分、今津、針江、北舟木、四津川、大溝

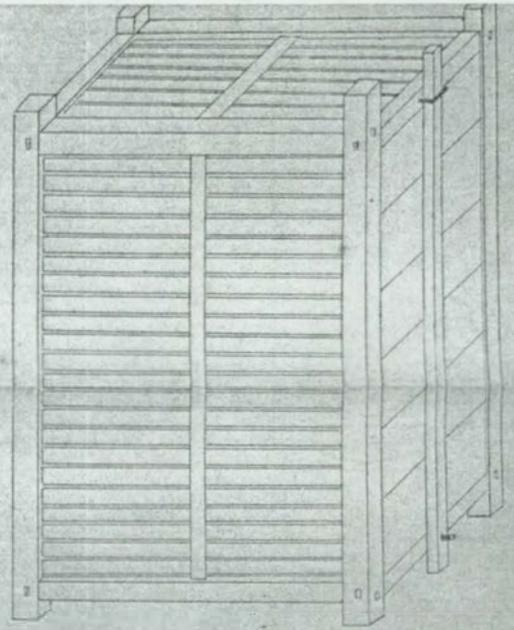
大正三年度組合員三千九百十二人アリ開始以來取扱高次ノ如シ

明治四十三年	三一〇、八二七圓	大正二年	三五八、四二〇圓
同 四十四年	三三五、〇八〇圓	同 三年	三五一、八五二圓
大正元年	三二六、八五五圓		

### 既往ニ於ケル販賣法

魚市場又ハ魚問屋ハ古クヨリ沿岸樞要ノ地ニ散在シ漁業者又ハ仲買人等ヨリ漁獲物販賣ノ委托ヲ受ケ毎日定時ニ魚商人ヲ集メ競賣セシモノニシテ委托販賣ノ口錢ハ各地一定セサリシモ最低ハ販賣價格ノ一割二分最高二割二分ヲ徵シタリ

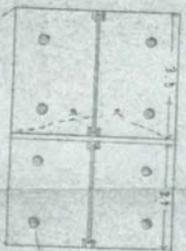
其所在地名ハ滋賀郡、堅田町、膳所町、大津市内藏橋町、川口町、御藏町附近、栗太郡瀬田村、老上村、山田村、常盤村、野洲郡速野村、蒲生郡八幡町、安土村、神崎郡伊庭村、愛知郡稻村、犬上郡磯田村、彦根町、松原村、坂田郡入江村、長濱町、トス此外湖岸ヲ距リタル地方ニテハ神崎郡八日市町、甲賀郡水口町ヲ主ナルモノトス東淺井伊香郡高島郡地方ハ其區域廣ク漁獲高少ナカラスト雖トモ從來魚市場又ハ魚問屋ヲ存セサリシハ想フニ土地僻遠ニシテ消費量比較的少ナク魚類集散地ヲ缺キタル結果漁業者直接之レヲ地方仲買人ニ委スル習慣ヲ存シ又漁船航行以前ニアリテハ鮮魚ノ運搬頗ル不便ナリシヲ以テ漁業者自ラ之レヲ他ニ輸送スルコトヲナサス凡テ仲買人ニヨリテ一括シテ魚問屋ニ轉送シ委托販賣ヲナシタルモノナリトス (完)



第十三圖 和格洲 (15)

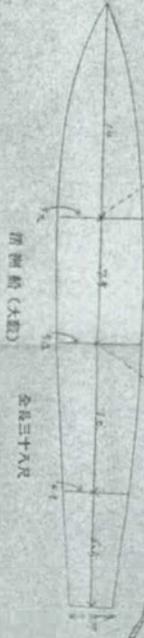


第十四圖 和格洲 (16)



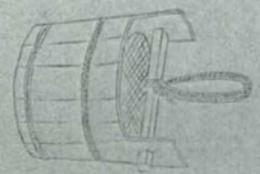
水次徑二寸五分

加四寸大



清洲船 (木箱)

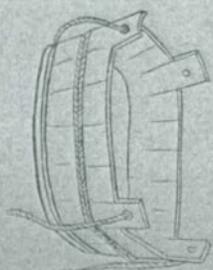
全長三十八尺



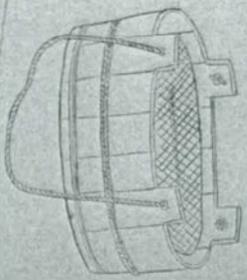
第十五圖 (收家) (17)



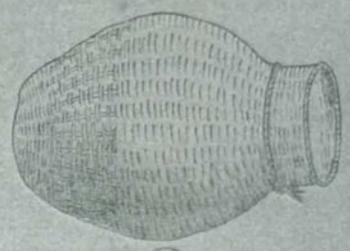
和格洲 (18)



和格洲 (19)



和格洲 (20)



和格洲 (21)

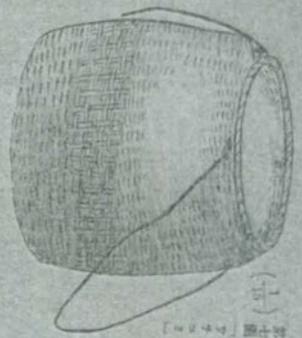


和格洲 (22)

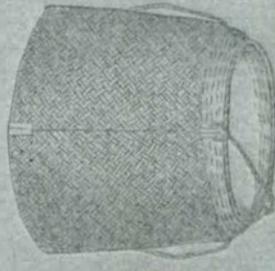


和格洲 (23)

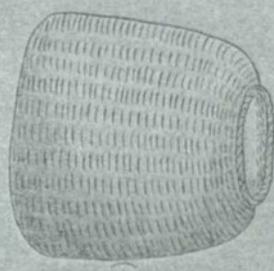
和格洲  
小口徑  
三寸五分  
全長  
一尺



和格洲 (24)



和格洲 (25)



和格洲 (26)



和格洲 (27)

# 附 錄

## 琵琶湖深度別水溫、浮游生物量 (琵琶湖水產調查報告第一卷)

觀 測 時 日 (竹生島沖測定)

明治四十二年十二月廿九日午後零時三〇分乃至二時三〇分

四十三年 一月二十八日同 一三時

同 三月二十九日同 一 同

同 四月二十九日同 一 同

同 五月二十五日同 一 同

同 六月二十九日同 二時三〇分—五時三〇分

同 八月一日同 一時三〇分—四時三〇分

同 九月一日同 三時 一五時三〇分

同 十月一日同 二時 一四時三〇分

同 十月三十一日午前十時三〇分—午後〇時三〇分

表	水		溫		浮游生物量	
	面	底	面	底	面	底
九〇尺下	二〇〇	九五	九五	七五	二〇	四〇
一〇〇尺下	八五	八二	八二	八〇	二〇	四〇
一五〇尺下	七五	六八	六五	六五	六〇	四〇
二〇〇尺下	一〇	一〇〇	七五	七〇	六五	四九
二五〇尺下	一五〇	一七	七四	七〇	四〇	〇八
三〇〇尺下	三〇〇	一四二	九〇	七〇	七〇	〇八
三三〇尺下	二七〇	一四二	七五	七〇	六〇	四五
三六〇尺下	二七〇	一四二	九〇	七〇	一〇	一五
三九〇尺下	二七〇	一四二	七五	七〇	一〇	一五
四二〇尺下	二七〇	一四二	七五	七〇	一〇	一五
四五〇尺下	二七〇	一四二	七五	七〇	一〇	一五
四八〇尺下	二七〇	一四二	七五	七〇	一〇	一五
五一〇尺下	二七〇	一四二	七五	七〇	一〇	一五
平均	二八〇	一八〇	九二	八〇	六〇	四〇

自明治四十一年  
至大正三年 水 溫

年	平均	最高	最低
四十一年	七三	九二	五七
四十二年	七一	九一	五二
四十三年	八一	一〇〇	六二
四十四年	七二	八六	四五
大正元年	七三	九六	五四
二年	七八	九一	四三
三年	七四	九八	五〇

附 錄

彦根湖畔ヲ距ル五十間ノ處午後二時彦根測候所觀測

三	月	七	七	〇	九	四	六	七	五	八	七	一	〇	九	三	八	七	八
四	月	一	九	一	四	九	八	四	一	三	二	八	一	五	二	一	〇	六
五	月	一	六	八	〇	六	一	三	七	四	一	七	三	〇	三	一	八	八
六	月	二	三	〇	五	一	九	八	一	五	二	三	〇	二	三	六	八	九
七	月	二	四	七	二	九	六	〇	四	二	六	五	七	一	八	二	七	〇
八	月	二	七	七	三	五	三	四	一	五	二	六	八	二	五	九	三	〇
九	月	二	四	五	二	六	八	二	五	二	六	二	六	一	六	一	四	〇
十	月	三	〇	三	五	三	五	三	三	三	〇	一	七	九	三	〇	二	〇
十一	月	一	四	一	九	〇	一	〇	七	一	六	一	九	〇	一	〇	〇	一
十二	月	九	八	一	一	四	八	一	九	五	二	一	一	二	一	〇	一	八

自明治三十八年至大正三年 降水量及月平均水位 (洗堰設置後) 滋賀縣氣象月報ニヨル

一	月	六	五	九	二	六	一	三	七	八	一	三	七	九	二	六	一	三
二	月	九	二	六	一	三	七	八	一	三	七	九	二	六	一	三	七	九
三	月	一	二	八	一	七	五	九	七	一	五	三	六	七	五	九	二	六
四	月	一	五	五	六	一	六	一	七	一	三	一	五	一	三	一	五	三
五	月	一	〇	〇	〇	一	〇	〇	〇	一	〇	〇	〇	〇	一	〇	〇	〇
六	月	四	九	九	一	〇	九	一	八	七	〇	七	三	七	二	三	六	八
七	月	三	四	九	二	七	〇	七	〇	七	〇	八	二	六	八	一	三	〇
八	月	二	六	五	三	〇	七	四	六	一	〇	九	二	五	九	一	〇	八

九月	五三〇	一五二	三九九五	一〇三	三三九一	三六四	一四四五	〇一五	二五七一	〇〇七	二七四九	一六七	一九八二	一三七	三〇八二	〇八〇	七七八	〇六二	三三四	〇八六
十月	二六七	〇三三	二五九九	一五四	一四一七	二六〇	二四四五	〇三二	六四一	〇八四	二三八	二二三	一一四六	一四六	一三八	一六八	一三八五	一一七	八三八	〇七一
十一月	五二〇	〇〇八	四四五	一三三	六七三	一四九	一四一一	〇一四	五七九	〇一五	七八九	一一四	七八六	一一五	七〇〇	一〇七六	七〇〇	一〇七六	一〇六五	〇六五
十二月	九六八	(一)〇〇一	八八二	〇八二	一〇一〇	〇九九	一〇九	〇五六	六三二	(一)〇〇九	六三四	〇六三	八三五	一〇〇	一三六	一〇四	二六四	一九三	二八七	〇一五
合計	一七二七	—	一六四五	—	一七四五	—	一六九二	—	一六四三	—	一六三八	—	一六九三	—	一四〇六	—	一四〇三	—	一四〇三	—

降水量ハ彦根ニ於ケルモノ  
 水位ハ鳥居川量水標ニヨル零點ノ位置ハ大坂天保山沖干満平均潮位點ヨリ二百八十二尺五寸二分六ノ高サニアリ(一)ハ零點下ヲ示ス

自明治二十四年 至同三十三年 降水量及月平均水位 (勢多川渡深以前) 前田氏著琵琶湖ニヨル (即チ洗堰設置前)

一 月	二九六																			
二 月	二九六																			
三 月	二九六																			
四 月	二九六																			
五 月	二九六																			
六 月	二九六																			
七 月	二九六																			
八 月	二九六																			
九 月	二九六																			
十 月	二九六																			
十一 月	二九六																			
十二 月	二九六																			

附 録

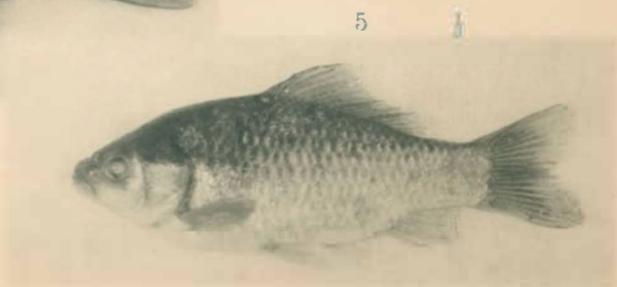
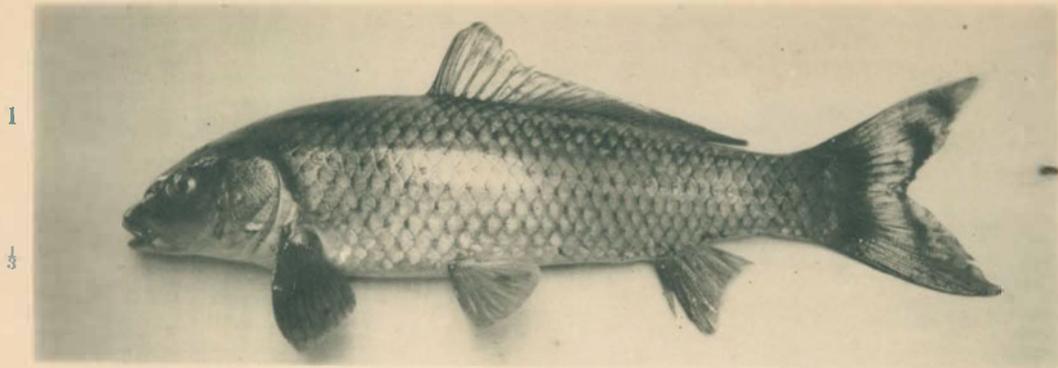


明治十三年

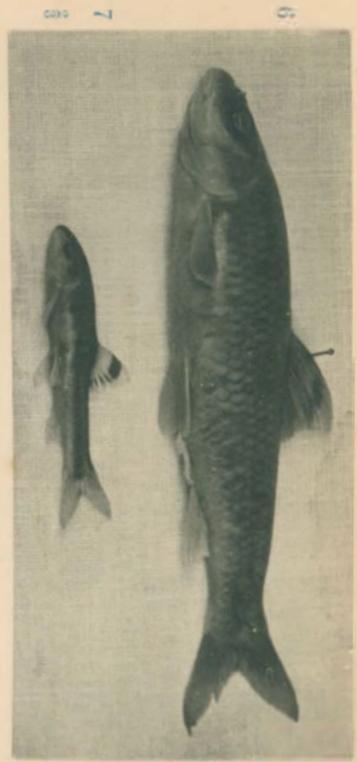
附録

年	大正元年	四十四年	四十三年	四十二年	四十一年	四十年	三十九年	三十八年	三十七年	三十六年	三十五年	三十四年	三十三年	三十二年	三十一年	三十年	二十九年	二十八年	二十三年
ア	五六一三三	六〇七七七	五五四五六	四九二四四	三八四九四	三三二二二	二八七五三	二二二二二	一六八二八	一六一九四	一五〇九六	一六七六六	一三九七三	一二七六五	一二九七三	一四八九六	一六〇五〇	一五七四四	一七〇〇〇
ユ	七三三三七	八〇三九九	七三二三八	六六六七三	四七七九四	三三三三三	二六五五七	二〇七〇〇	一八九八八	一七八三六	二二二九八	一九二七〇	一五九〇六	一二九七五	一一三三三	一一四九九	一四七六九	一四二七七	七〇〇〇〇
コ	六二二四二	五九二九三	七五〇九二	六六八九五	七一九八六	四〇五五六	三九九二九	四九六六三	五四一八〇	六五二二〇	六八五六〇	六六四〇〇	四九七九七	五七三六九	五九六三三	五三三八〇	一〇五〇三	九七一〇九	—
ク	六五〇六八	五四七七八	七三二八二	六二〇〇六	六〇五〇〇	三三三三三	三三三三三	四〇二〇〇	四〇五五六	四〇二〇〇	五二七〇〇	四八七九九	四四七七七	三三三三三	三三三三三	三六八八〇	四一〇〇一	三六六八〇	二四五五六
ケ	二五九九三	二四三三三	二四三三三	三三三三三	二九二八四	一五三三〇	一四七七三	一三三三三	一三三三三	一七六六〇	一七六六三	二五九五五	二二二〇〇	一〇八五七	九七七九	九二〇〇〇	一九〇三三	一六八二二	—
カ	五二八二二	四七三三三	四六六六三	六二二七九	五七一九二	二二二二〇	二二二〇〇	二二二〇〇	一九四七三	二二〇〇八	二四八三九	二二〇〇八	二二〇〇八	一八二二二	二二二二二	九二〇〇〇	一四〇〇〇	一一〇〇〇	七四九三三
キ	二〇〇〇〇	二〇〇〇〇	二〇〇〇〇	二〇〇〇〇	二〇〇〇〇	一五三三〇	一六九九九	一五三三〇	七九六六六	九七六六六	一〇二二二	一〇二二二	一〇二二二	一〇二二二	一〇二二二	九六六六六	一六六六六	二四七三三	—
ク	一七五七七	二二五〇〇	二二二二二	二七一九九	一五六五二	八六五五五	一〇二六八	九〇六六六	六〇六六六	九二九九二	九四三三三	七六五七七	七七七〇〇	九〇九九九	七六四四四	四二九九九	六六六六六	五八一六	四四八五五
ケ	一〇二二二	九〇九九	九一九九	一二三三三	八八五五五	四四九九九	五九九九九	六九九九九	四七七七七	五九九九九	六二二二二	六三三三三	六三三三三	五〇〇〇〇	七七六六六	一〇二二二	一七四四四	一九二二二	—
カ	一一六六六	一一〇〇〇	一一二二二	一二三三三	八四〇〇七	四六八〇〇	五二〇〇〇	六三九九	四四六六六	五九九九九	五七七七	五二五五五	五二五五五	四四四四四	四八四四四	五五八八八	七六六六六	六九九九九	四六二七七
キ	五七〇〇五	六六四四四	六六八七七	五九九九九	五五二二八	四四〇〇〇	三三三三三	二二九九九	二二九九九	二二九九九	二二九九九	二二九九九	二二九九九	二二九九九	二二九九九	二二九九九	二二九九九	二二九九九	—
カ	一七二二三	二二二二三	二二〇〇〇	一九〇〇六	一五九九三	九二〇〇〇	六二六六六	九九九九	五二九九	七七七七八	九九九九九	一〇四〇〇八	一〇九九九九	八七七八	五五五五五	一〇九九九	二四九九九	一八八八八	二八五五五
ク	三九四九九	二二七七八	五五五五五	五二〇〇〇	四七七九三	二二二二二	三〇三三三	二二二二二	五八九九	四七七七	四七七七	四九四四一	四九四四一	—	—	—	—	—	—
キ	四〇八八	二七〇二	五五五五	五二〇〇	四八九二	二二七七	二二七七	二二七七	四二六五	三二七三	三二七三	五五三三	五五三三	—	—	—	—	—	三〇〇

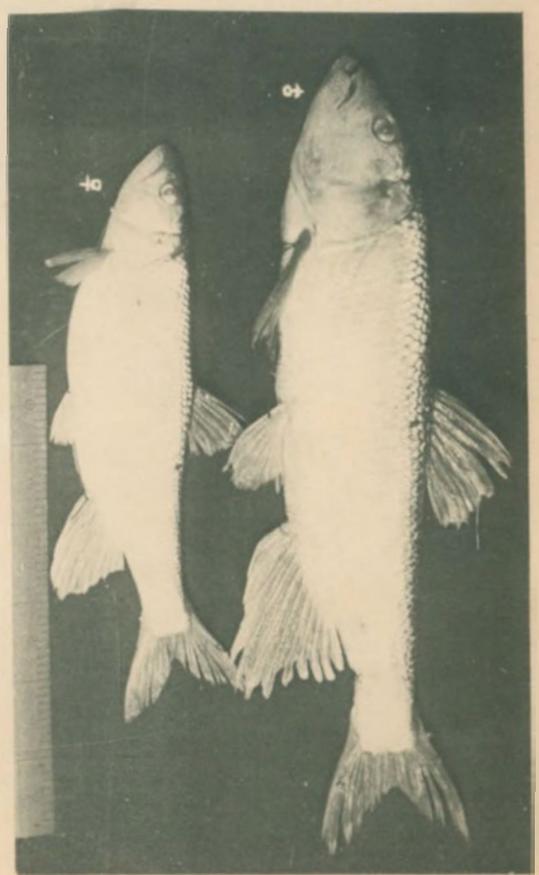
第一圖版



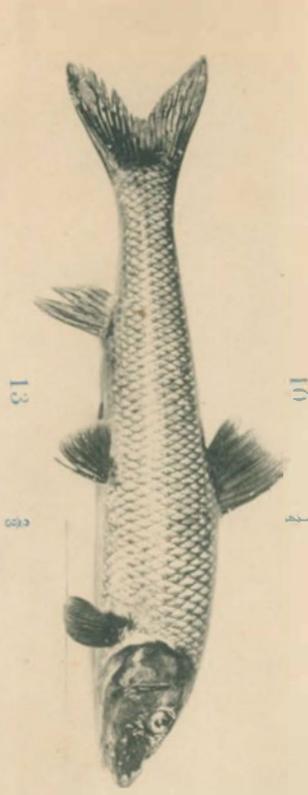
1. マコヒ
2. アフミコヒ
3. マフナ (源五郎鮒)
4. マルフナ (ニゴロ)
5. ヒワラ



6  
7



8  
9



10  
♂



11  
♂



13  
♂



12  
♂

- 6. ヒカド
- 7. 同 稚魚
- 8. ハス(雄)
- 9. 同 (雌)

- 10. ニゴヒ
- 11. ヲグヒ
- 12. ヲグヒ
- 13. カマツカ





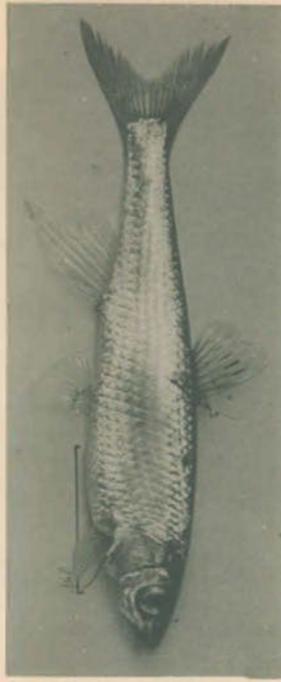
16



14



15



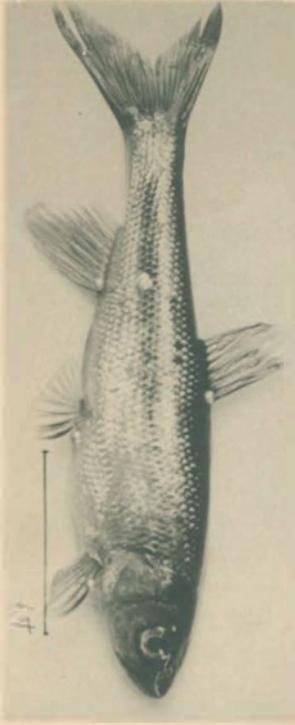
18



17



19



20



21

- 14. ホシモロコ
- 15. スシモロコ
- 16. タモロコ
- 17. イシモロコ

- 18. ハエ(湖産)
- 19. 間(オイカワ)
- 20. ムツ(湖産)
- 21. 間(雄川産)

第四圖版

22  $\frac{7}{10}$



23  $\frac{7}{10}$



24  $\frac{1}{10}$



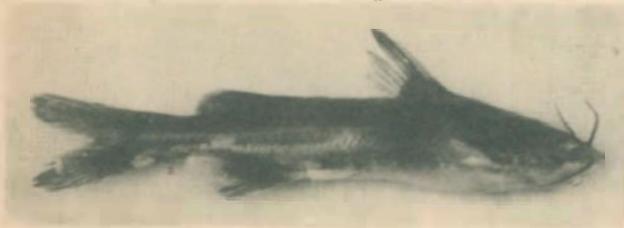
32  $\frac{7}{10}$



33  $\frac{1}{10}$



34  $\frac{2}{5}$



35  $\frac{1}{5}$



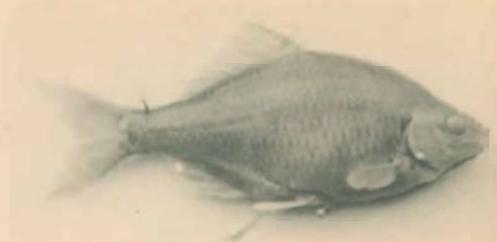
36  $\frac{2}{3}$



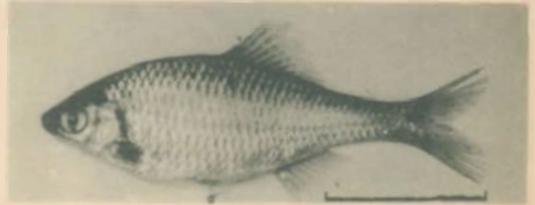
37  $\frac{1}{3}$



26  $\frac{7}{10}$



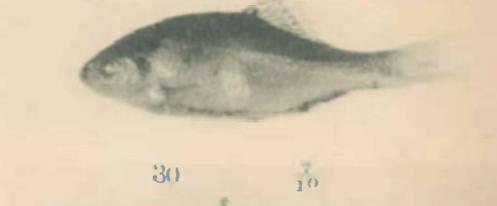
27  $\frac{7}{10}$



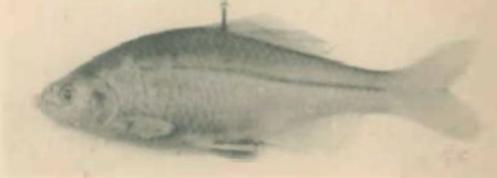
28  $\frac{7}{10}$



29  $\frac{7}{10}$



30  $\frac{7}{10}$



31  $\frac{7}{10}$



25  $\frac{1}{3}$

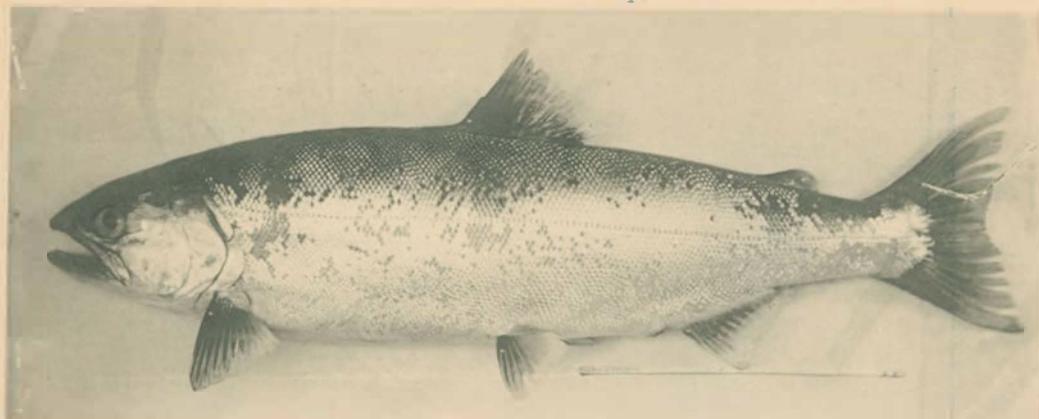


- 22. アブラケ
- 23. ムギツク
- 24. ?
- 25. エンドス
- 26. ヒラボテ
- 27. ボテ
- 28. 同 (ピロタナゴ)
- 29. 同 (アブラザコ)
- 30. 同 (イチモンジボテ)
- 31. 同 (アブラボテ)

- 32. メダカ
- 33. ナマズ
- 34. ギバ
- 35. アカナマズ
- 36. ヤツメウナギ
- 37. 同 (成体前ノモノ)

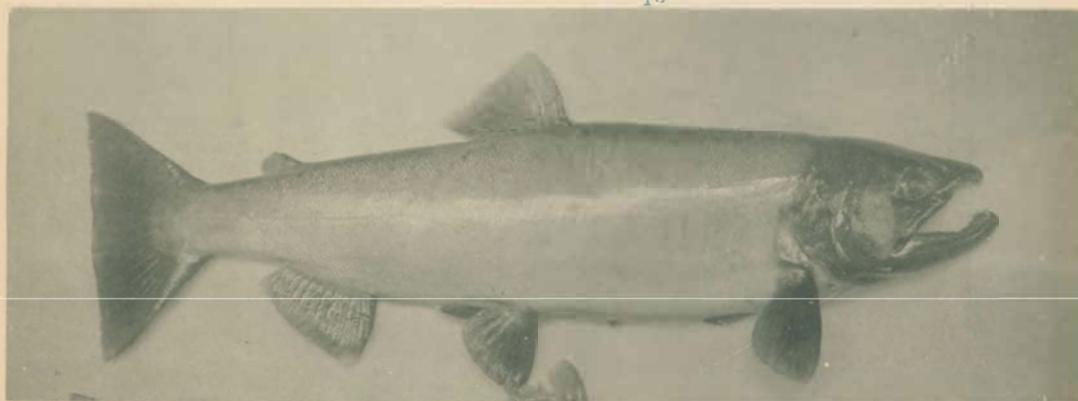
38

$\frac{3}{10}$



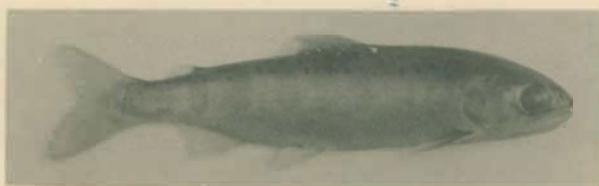
39

$\frac{3}{10}$



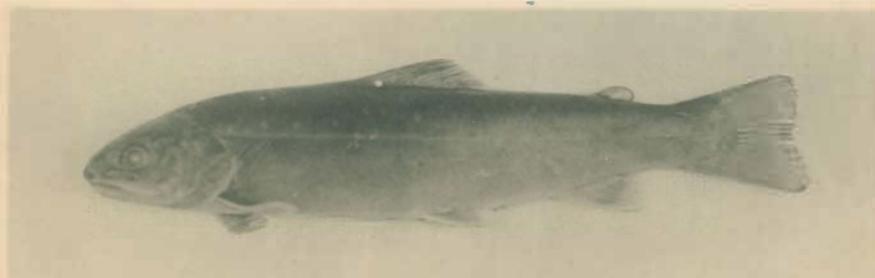
40

$\frac{1}{2}$



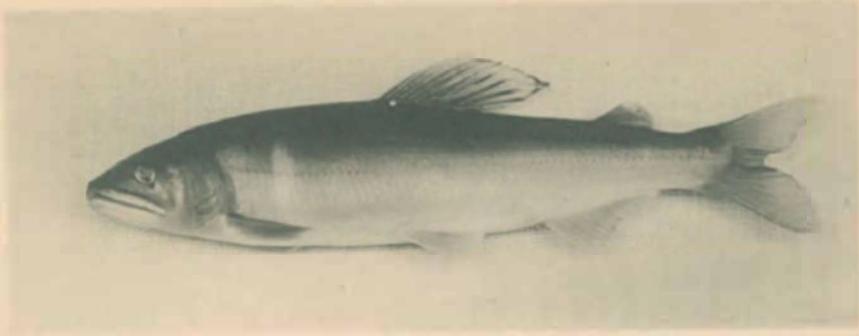
41

$\frac{1}{2}$

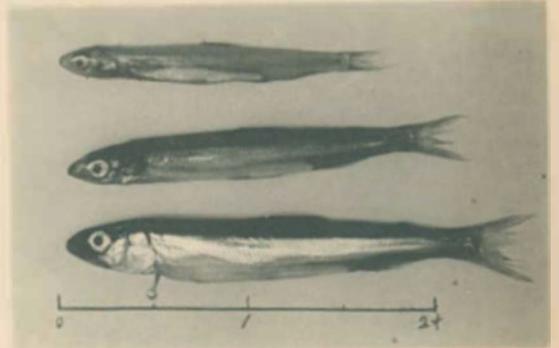


38. マス  
39. 同 (アメノウチ雄)  
40. 同 (アマゴ)  
41. イツナ

42

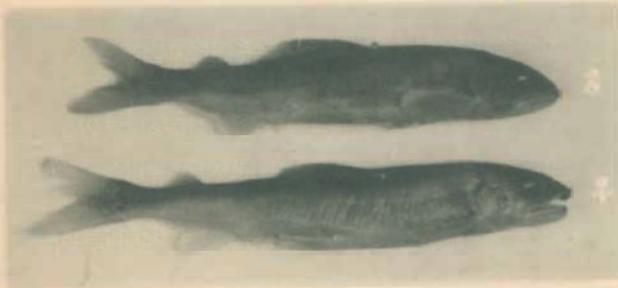


45



44' 1

44' 2

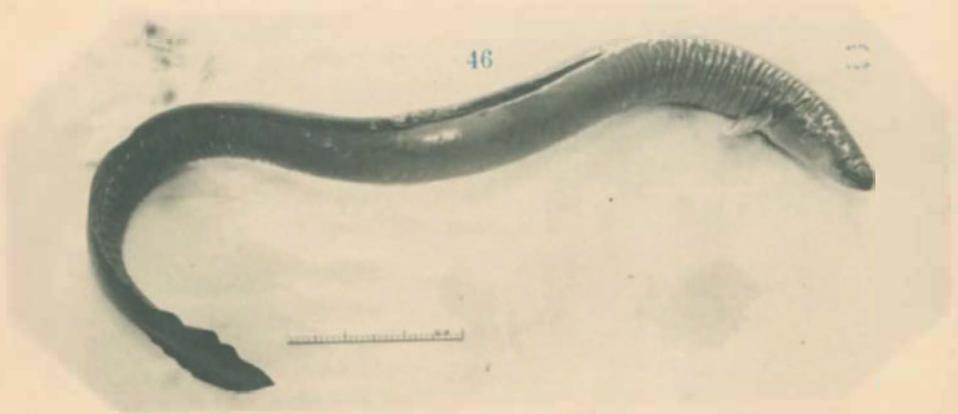


43



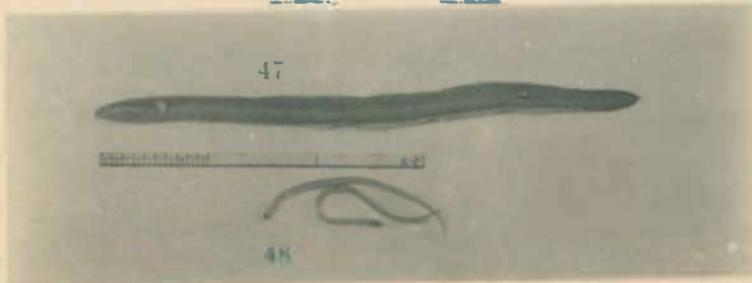
43

46



47

48



47

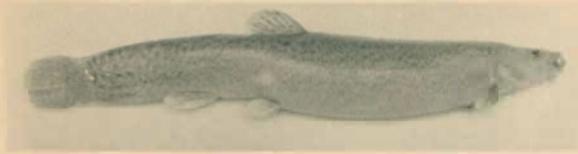
48

42. 大アユ  
43. 小アユ  
44.'1 同 (産卵中雄)  
44.'2 同 (産卵中雄)

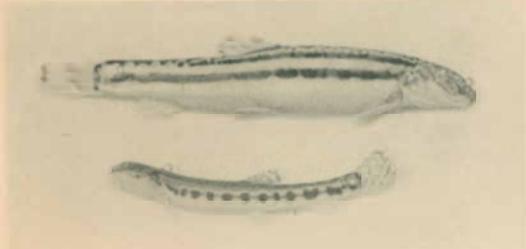
45. ヒウチ  
46. ウナギ  
47. 同 (協定魚苗)  
48. 同 (淀川口一週上ス4仔魚)

第七圖版

49  $\frac{1}{2}$



50  $\frac{1}{2}$



53



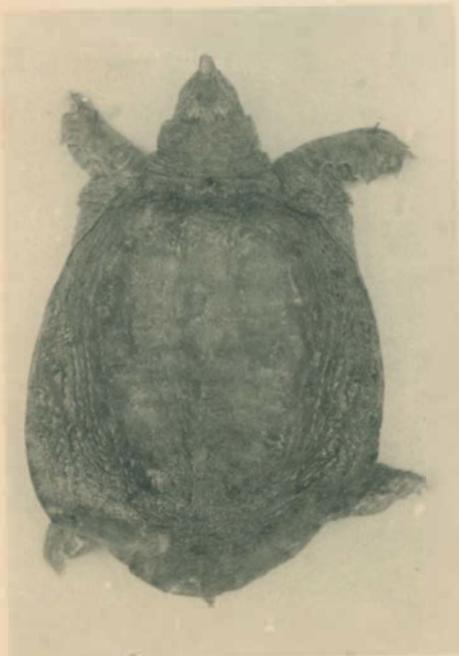
54  $\frac{2}{3}$



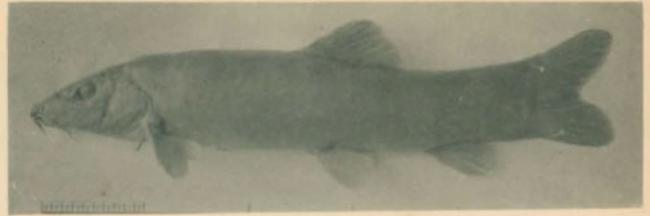
57  $\frac{2}{3}$



61



51  $\frac{2}{3}$



52  $\frac{1}{2}$



56  $\frac{1}{2}$



55  $\frac{1}{2}$



58  $\frac{2}{3}$



59  $\frac{2}{3}$



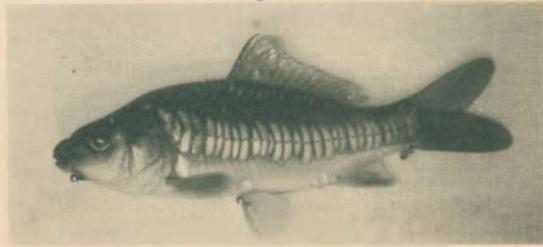
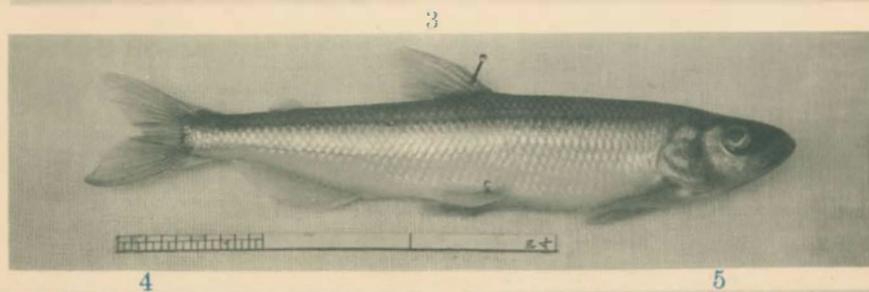
60



- 49. ドセウ
- 50. シメドセウ
- 51. ウミドセウ(アユモドキ)
- 52. メクラドビウ
- 53. イサハ
- 54. イシブシ

- 55. ハゼ
- 56. ゴリ
- 57. ドンコ
- 58. カザカ
- 59. ハリウチ(トゲウチ)
- 60. エビ
- 61. スズボン

第八圖版



- 1. 虹鱒
- 2. 河鱒
- 3. カサギ

- 4. 草鰮
- 5. 鏡鰮

大正四年三月三十一日印刷

大正四年六月三十日發行

# 滋賀縣水產試驗場

印刷者 河田 貞次 郎

安八  
岐阜縣 郡大垣町大字郭四拾五番地ノ貳

岐阜縣安八郡大垣町大字郭百五拾參番戶

印刷所 西濃印刷株式會社

34  
303  
307